

岩手県文化財調査報告書第133集
平泉遺跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

第70次発掘調査概報

2011

岩手県教育委員会

柳之御所遺跡

—第70次発掘調査概報—

序

平泉町に所在する柳之御所遺跡は、平安時代末期の約100年間にわたり北方の王者として繁栄を誇った奥州藤原氏の残した遺跡であり、特別史跡中尊寺境内、特別史跡毛越寺境内附鎮守社跡、特別史跡無量光院跡と並び、当時の平泉の核をなしていた遺跡の一つであります。

本遺跡は、昭和63年から(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会が実施した一級河川北上川上流改修一関遊水地事業及び国道4号改修平泉バイパス建設事業に伴う緊急発掘調査により、大規模な掘立柱建物跡・圍池跡・堀跡などが確認され、また、おびただしい量のかわけや各種木製品など、質・量ともに卓越した遺物が出土いたしました。これらの豊富な遺構・遺物により、本遺跡が『吾妻鏡』に記された「平泉館」であることが指摘されています。

このような経過のなかで、遺跡に対する建設省(現国土交通省)のご理解により、平成5年には遺跡の保存が決定し、平成9年3月に『柳之御所遺跡』として国の史跡に指定されました。県では、本遺跡が国民共有の貴重な財産であるとの認識から、将来的には史跡公園として整備し、この遺跡を後世に伝えるとともに広く活用していきたいと考え、平成10年度から本格的な発掘調査を実施してきました。今年度の調査は第4次3ヵ年計画の3年目の調査となり、多くの成果が得られています。平成17年度から本格的に始まった史跡公園の工事も進めており、平成22年の春から公開しております。また、平成13年4月に本遺跡を含む「平泉の文化遺産」が世界文化遺産の暫定リストに登録されたことを受け、本登録に向け官民一体となった取り組みをすすめて参りました。平成23年の委員会審議にむけて活動を展開している所であります。

最後に、発掘調査の実施と報告書作成に当たり、ご指導・ご協力を賜りました平泉遺跡群調査整備指導委員会の先生方、文化庁記念物課、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所をはじめ関係各位に深く感謝申し上げますとともに、本書が平泉文化研究発展の一助になれば幸いです。

平成23年3月

岩手県教育委員会
教育長 法 貴 敬

例 言

1. 本書は、岩手県教育委員会が平成21年度に実施した柳之御所遺跡整備調査事業に係る、史跡柳之御所遺跡の発掘調査の概要報告である。調査期間は平成21年5月7日から10月31日である。
2. 本事業は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が主体となり、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの協力を得て実施した。
3. 遺構の呼称は、昭和63年度に(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した調査時の方法に準拠し、下記の略称を使用し、本書でも記載している。遺構名の記載については遺構略号の前に調査次数を付してある。なお、複数年次にわたる調査で明らかに同一と認定される遺構については当初の調査時の遺構名を継続して使用した。なお、本報告書では「トイレ状土坑」と記した。
S A : 堀・柱列 S B : 掘立柱建物 S C : 道路状遺構 S D : 溝・堀 S E : 井戸・井戸状遺構
S G : 園池 S K : 土坑・柱穴の一部 S X : その他 S I : 堅穴住居 P : 柱穴
例：70 S K 1 第70次調査の第1号土坑
4. 図版、写真図版、遺物観察表中の遺物番号は共通である。遺物の実測図については一部を除いて1/3を基本にしておりスケールを図中に表示した。遺構及び遺物写真については縮尺不定である。
5. 本書の編集・執筆は生涯学習文化課柳之御所担当で協議の上、櫻井友梓・村田淳が行った。執筆分担は、各項目の文末に記載している。
6. 調査成果の一部については、平泉遺跡群調査整備指導委員会等で公表してきたが、本書の内容が優先するものである。
7. 遺構の埋土観察、遺物の色調観察は、『新版標準土色帖』を参考にした。
8. 自然科学分析についてはパリオ・サーヴェイ株式会社への分析委託により実施したものである。
9. 後述する平泉遺跡群調査整備指導委員会の先生方をはじめとして、下記の方々・機関の御協力を得た。
相原康二 伊藤博幸 井上雅孝 及川 司 及川真紀 岡陽一郎 木村淳一 島田祐悦 島原弘征
信太正樹 鈴木弘太 羽柴直人 古川一明 本沢慎輔 前川佳代 松本秀明 室野秀文
八重樫忠郎 八木光則
岩手県立博物館(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 平泉町文化遺産センター
文化庁記念物課(50音順：敬称略)
10. 本事業に係る調査で得られた諸記録及び出土遺物は、岩手県教育委員会が保管している。

目 次

I 序 論	1
1 遺跡の位置と調査経緯	1
2 調査計画及び平泉遺跡群調査整備指導委員会	3
3 今年度の調査	4
II 調 査 内 容	11
1 南 区	11
(1) 調査の概要	11
(2) 検 出 遺 構	11
(3) 出 土 遺 物	19
2 北 区	27
(1) 調査の概要	27
(2) 検 出 遺 構	27
(3) 出 土 遺 物	33
III 自然科学分析	50
IV 総 括	75

図 版 目 次

図版1 遺構 南区調査区全景1・2	図版12 遺物 かわらけ①
図版2 遺構 南区調査区全景3・調査状況	図版13 遺物 かわらけ②
図版3 遺構 南区遺構検出状況1・2・3	図版14 遺物 かわらけ③
図版4 遺構 21SD2 断面1・2・3	図版15 遺物 かわらけ④
図版5 遺構 69SX3断面1・2 21SX4 敷葉検出状況	図版16 遺物 国産陶器①
図版6 遺構 整地層断面・地山高まり状況・ 21SX3断面	図版17 遺物 国産陶器②
図版7 遺構 北区調査区全景1・2	図版18 遺物 国産陶器③
図版8 遺構 70SE1断面・完掘・70SE3断面	図版19 遺物 国産陶器④
図版9 遺構 70SE3完掘・70SK22断面・完掘	図版20 遺物 輸入陶磁器・瓦
図版10 遺構 70SK24・70SK20・56SK40断面	図版21 遺物 木製品①
図版11 遺構 56SK52断面・70SX1検出・ 遺物出土状況	図版22 遺物 木製品②
	図版23 遺物 木製品③
	図版24 遺物 木製品④

挿 図 目 次

図1	第70次調査区位置図	5	図23	70SK22出土土器類実測図	36
図2	柳之御所遺跡調査範囲図	7	図24	70SK24出土土器類実測図	37
図3	南区遺構配置図	10	図25	70SX1出土土器類実測図	38
図4	21SD2平面図	12	図26	遺構出土土器類・遺構外出土陶磁器類 実測図	40
図5	21SD2断面図1	13	図27	遺構外出土陶磁器実測図1	41
図6	21SD2断面図2	14	図28	遺構外出土陶磁器実測図2	42
図7	21SX3平面図	15	図29	遺構外出土陶磁器実測図3	43
図8	21SD2・21SX3断面図	16	図30	北区出土瓦実測図	45
図9	整地層・69SX3断面図	17	図31	北区出土木製品実測図1	46
図10	整地層範囲図	18	図32	北区出土木製品実測図2	47
図11	69SX3範囲図	19	図33	北区出土木製品実測図3	48
図12	69SX3・21SX4・整地層出土土器実測図	20	図34	北区出土木製品実測図4	49
図13	包含層出土土器類実測図1	22	図35	花粉化石群集の層位分布	53
図14	包含層出土土器類実測図2	23	図36	寄生虫卵群集	56
図15	包含層出土土器類実測図3	24	図37	脂肪酸・ステロール分析	65
図16	南区出土木製品実測図	25	図38	花粉化石	70
図17	北区遺構配置図	26	図39	寄生虫卵	71
図18	70SE1・SE3平面・断面図	29	図40	大型植物遺体	72
図19	その他の遺構平面・断面図	30	図41	木材	73
図20	70SX1遺物出土状況	32	図42	出土骨	74
図21	井戸跡出土土器類実測図	34			
図22	井戸跡出土土器類実測図2	35			

挿 表 目 次

表1	平泉遺跡群調査整備指導委員名簿	2	表11	脂質分析結果	64
表2	発掘調査年次計画	2	表12	北区土坑属性表	76
表3	平成21年度指導委員会協議事項	3	表13	北区遺構出土かわらけ数量表	78
表4	発掘調査次数別概要	8	表14	出土遺物観察表(かわらけ)	80
表5	放射性炭素年代測定結果	52	表15	出土遺物観察表(国産陶器)	82
表6	花粉分析結果	54	表16	出土遺物観察表(瓦・その他)	86
表7	寄生虫卵分析結果	55	表17	出土遺物観察表(木製品)	86
表8	種実分析結果	60	表18	出土遺物観察表(輸入陶磁器)	88
表9	洗浄済試料の種実分析結果	62	表19	北区遺構一覧表	89
表10	樹種同定結果	63			

I 序 論

1 遺跡の位置と調査経緯

柳之御所遺跡は、岩手県西磐井郡平泉町平泉字柳御所に所在し、地形図上の位置では国土地理院発行の五万分の一地形図「一関」(NJ-54-14-15)の図幅内にある。遺跡の緯度・経度は北緯38度59分28秒、東経141度7分35秒(日本測地系)である。遺跡の背後の北東側には高館の丘陵、東に北上川、西から南にかけて猫間が淵と呼称される低地によって区切られた河岸段丘上に立地する。遺跡内の標高は南側で25.3m、中心部で27m、北側で32mであり、北東側が高く、南西側に傾斜している。北上川に接しているため遺跡の一部は浸食されたと考えられるが、本来どの程度存在していたのかは不明である。この土地は調査前には住宅地と田畑があった場所で、緊急調査後には史跡指定を受け公有地化を行っている。

遺跡は一関遊水地事業や国道4号バイパス事業に伴い、大規模な発掘調査が行われ、内容が明らかになるにつれその価値が高く評価されることとなった(岩手県埋蔵文化財センター1995)。それを受けて遺跡の保存運動が高まり、建設省(現在の国土交通省)や関係機関の尽力により遺跡の保存が決定し、治水と遺跡保護との両立が図られることとなった。また、この保存運動の中で平泉に対する関心が高まり、柳之御所遺跡にとどまらず平泉文化研究が大きく進展した。

柳之御所遺跡は平成9年に史跡指定され、以降順次史跡範囲を広げながら現在に至っている。現時点での指定地面積は88,244.49k㎡である。岩手県教育委員会では遺跡が国の史跡に指定されたことから、史跡公園として整備し保存活用を図るため、文化庁及び柳之御所遺跡調査研究指導委員会(現平泉遺跡群調査整備指導委員会)の指導助言を得て、平成10年度から主に未調査区域を対象とした内容確認の発掘調査を計画し、継続して実施している。調査は下記の調査計画に基づき、第1期整備対象区域である堀内部地区を中心に行っている。これらの調査により、堀内部地区の大部分が調査され、遺跡内の遺構変遷も多くの見解が示されるなど、研究が深化している。平成22年より整備を行った範囲は、柳之御所史跡公園として公開を開始した。

柳之御所遺跡の周辺には、西には隣接して猫間が淵跡、無量光院跡が位置し、北には高館跡、南には伽羅御所跡が接している。無量光院跡はこれまでの発掘調査で、宇治平等院と類似しつつも独自の内容が確認されている。伽羅御所跡はこれまで17回の調査が行われているが、調査面積が小さいため内容は明らかとなっていない。地名から『吾妻鏡』に記載される伽羅御所に比定されることもあるが、現在までの発掘調査によって示されているものではない。平泉町内ではこの他に志羅山遺跡や泉屋遺跡、倉町遺跡といった当時の平泉の町並みにも関連する遺跡が調査され、衣川を挟んで北側の接待館遺跡などの調査もあり、当時の平泉全体を視野に入れた検討が行われてきている。

表1 平泉遺跡群調査整備指導委員会委員名簿(平成21年4月現在)

氏名	役職	専門部会
入間田宣夫	東北芸術工科大学教授	整備
達磨セツ子	メビウスの会事務局	整備
岡田 茂弘	独立行政法人国立歴史民俗博物館名誉教授	保存・整備
小野 正敏	独立行政法人国立歴史民俗博物館副館長	遺構
○河原 純之	元千葉大学教授	
○工藤 雅樹	福島大学名誉教授	遺構・保存
坂井 秀弥	奈良大学教授	遺構
斉藤 利男	弘前大学教授	遺構
佐藤 信	東京大学教授	保存・整備
清水 敏	東京工芸大学教授	遺構
清水 真一	独立行政法人文化財機構東文化財研究所文化遺産国際協力センター長	遺構
関宮 治良	前平泉町商工会事務局長	整備
田中 哲雄	東北芸術工科大学教授	保存・整備
田辺 征夫	独立行政法人文化財機構奈良文化財研究所長	遺構
玉井 哲雄	独立行政法人国立歴史民俗博物館教授	遺構
西村 幸夫	東京大学教授	保存

◎委員長 ○副委員長 遺構：遺構検討部会、保存：保存管理計画検討部会、整備：整備検討部会

表2 発掘調査年次計画

年次	調査年度	調査内容等	調査面積	調査期間	千基(千円)	備考
第1次三ヶ年次計画	平成10年度 第49次	・ 照内地区内の中心建物群、特に最大建物である南北棟(4区9号・25B1・25B2と一部重畳)の東側地区の掘削 ・ 23次調査時の25B2建物の延長確認。 ・ 25SA3H列跡、25SA1脚跡の延長確認。 ・ 48SB1建物跡の延長確認と西風時期の検討。	500㎡	5月15日～10月31日	18,211	国庫補助
	平成11年度 第50次	・ 池跡及び中心建物群を囲む25SA1脚跡の追跡。 ・ 4区9号の南北棟の東側の状況及び建物群の追跡。 ・ 42SD1人溝とされていた遺構の時期及び併発状況追跡。 ・ 37次、42次の内容確認調査に確認されていた溝・堀類の時期及び併発状況の把握。	1,800㎡	5月13日～10月31日	32,236	国庫補助
	平成12年度 第52次	・ 照内地区、中心建物群の西側及び北西側地域の掘削。 ・ 祭祀遺構周辺地域の掘削。 ・ 無量光院との対峙地域の掘削。 ・ 照内地区から延長すると想定される道路遺構の掘削。	2,500㎡	5月15日～11月17日	43,341	国庫補助
	平成13年度 第53次	・ 中心建物群の北側地区の掘削。 ・ 中心建物群を囲むと想定される堀跡の検出。 ・ 照内地区から延長すると想定される道路遺構の掘削。 ・ 残存する高台地状の高まりの性格把握。 ・ 北上川緑地帯の状況把握。	3,100㎡	5月11日～11月13日	46,103	国庫補助
	平成14年度 第56次	・ 第53次発掘調査の際に検出された大規模な堀(内堀)と高出地帯を伴う溝の追跡。 ・ 北上川右岸線での大型建物の範囲の把握。 ・ 遺跡を二分する外堀の追跡。	4,000㎡	5月13日～11月20日	62,054	国庫補助 ※整備関係予算含む
	平成15年度 第57次	・ 旧池跡の規模と造成時期の把握。 ・ 遺跡中核を囲う堀の追跡調査及び門跡の確認。 ・ 高部南側部分調査地域の遺構分布の確認。	4,000㎡	4月14日～10月31日	67,195	国庫補助 ※整備関係予算含む
第3次三ヶ年次計画	平成16年度 第59次	・ 中心建物群の規模と新旧関係の掘削。 ・ 照内地区の構造及び規模と造成時期の把握。 ・ 北上川緑地帯の状況把握。	3,500㎡	5月10日～10月31日	69,317	国庫補助 ※整備関係予算含む
	平成17年度 第64次	・ 照内地区の構造及び規模と造成時期の把握。 ・ 池跡から東側への建物等の展開状況の確認。	2,500㎡	4月15日～9月30日	141,679	国庫補助 ※整備関係予算含む
	平成18年度 第65次	・ 遺跡中核を囲う堀の追跡調査及び門跡及び道路遺構の確認。 ・ 既調査区の外堀確認	1,500㎡	5月8日～10月31日	64,481	国庫補助 ※整備関係予算含む
	平成19年度 第68次	・ 道路遺構(25C1)及び脚跡(25SA1)の延長確認 ・ 遺跡南側外堀の有無の確認	1,200㎡	5月7日～10月15日	153,801	国庫補助 ※整備関係予算含む
第4次三ヶ年次計画	平成20年度 第69次	・ 遺跡を区画する二重堀の構造と積層時期の特定	1,100㎡	5月7日～12月10日	85,572	国庫補助 ※整備関係予算含む
	平成21年度 第70次	・ 既調査で一部確認されている堀跡の追跡調査 ・ 照内地区北部のトイレ遺構の分布	1,100㎡	5月8日～10月31日	114,986	国庫補助 ※整備関係予算含む
	平成22年度 第72次	・ 照内地区北部の構造確認 ・ 遺跡北端部の堀の延長確認 ・ 照内地区北部部の移相確認	1,100㎡	5月11日～9月30日		国庫補助 ※整備関係予算含む
	平成23年度(予定)	・ 照内地区と照内地区との導入施設の確認 ・ 堀跡の延長確認	1,100㎡			国庫補助 ※整備関係予算含む
第5次三ヶ年次計画	平成24年度(予定)	・ 照内地区南端部の道路確認 ・ 照内地区と照内地区の導入施設周辺地域の確認	1,100㎡			国庫補助 ※整備関係予算含む

※ 第51次・53次・54次・56次・60～63次、71次調査は平泉町教育委員会が実施。

2 調査計画及び平泉遺跡群調査整備指導委員会

岩手県教育委員会では柳之御所遺跡の調査を3カ年ずつの計画を立てて進めている。平成21年度調査(70次)は第4次3カ年計画の3年目にあたる。第4次3カ年計画は堀跡を中心に発掘調査を行い、堀跡や堀内部地区への導入施設などの検討と整備に関わるデータ収集を主な目的とした。なお、平成22年度は堀内部地区北端部の調査を行っており、堀跡を中心として北端部の遺構の様相を確認することを主な目的としている。第5次3カ年計画では北端部周辺の堀跡を中心に調査を行い、堀外部地区周辺の調査へと進めていく予定である。これまでの計画と今後の計画については表2に示した。調査整備にあたっては平成10年度から「柳之御所遺跡調査研究指導委員会」を設置し、柳之御所遺跡及び平泉遺跡群の発掘調査及び調査研究に対して指導助言を得てきた。平成12年に「平泉の文化遺産」が世界文化遺産の暫定リストに追加登録されたことから、会の名称を「柳之御所遺跡調査整備指導委員会」に改め、さらに平成15年度は世界遺産本登録に向けた周辺遺跡の検討の必要性から「平泉遺跡群調査整備指導委員会」と改称した(表1)。

平成21年度の委員会・専門部会は表3の通り開催した。

表3 平成21年度指導委員会協議事項

回	日 時	内 容
遺構・整備部会	21.5.28	中心建物復元の検討 建物内での儀式等の検討 堀、トイレ状遺構、井戸跡の整備について 地形模型の検討
第1回指導委員会	21.7.16～17	今年度の調査について 堀、トイレ状遺構、井戸跡の整備について 地形模型の検討 中心建物の復元について 儀式等の内容について 暫定ガイダンス施設の改修について
遺構・整備部会	21.10.1	中心建物の復元について 儀式等の内容について 解説板の整備、内容について 暫定ガイダンス施設の改修について
遺構・整備部会	21.12.10	中心建物の復元について 儀式等の内容について 解説板の整備、内容について 暫定ガイダンス施設の改修について 無量光院跡の調査状況、整備計画について
第2回指導委員会	22.2.18～19	中心建物の復元について 儀式等の内容について 解説板の整備、内容について 暫定ガイダンス施設の改修について 無量光院跡の調査状況、整備計画について 今年度の調査成果と来年度の調査について

※その他に、整備・遺構の各分野について専門の指導委員を中心に作業部会を5回開催した。

3 今年度の調査 (図2)

(1) 調査体制

(岩手県教育委員会事務局)

生涯学習文化課総括課長	大月 光康 (H22.3.31 まで)
生涯学習文化課総括課長	錦 泰司 (H22.4.1 より)
文化財・世界遺産課長	中村 英俊
主査 (柳之御所担当)	沢里 秀利 (H22.3.31 まで)
文化財専門員 (柳之御所担当)	岩渕 計
文化財専門員 (柳之御所担当)	半澤 武彦
文化財調査員 (柳之御所担当)	櫻井 友梓

(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

所 長	佐々木 勝
調査第二課長	中川 重紀
文化財調査員	西澤 正晴 (H22.3.31 まで)
文化財調査員	村田 淳 (H22.4.1 より)

(2) 調査の目的

調査は整備復元に必要な情報を得ることを大きな目的としているため、遺構の内容把握を主としている。そこで、遺構の所属時期の確定や遺構の性格等を把握することを最優先とし、遺構やその情報の保存のために精査の際の掘削は遺構の時期の把握など目的を定め、半裁を行うなど必要最小限にとどめている。また、一部の掘削を行った遺構及び遺構検出面については、調査後は砂で20cm程度の保護層を確保した上で、埋め戻しを行い、遺構の保護を図っている。

平成21年度調査(70次)は遺跡の南端部にあたる範囲(南区)と遺跡北端部の未調査範囲(北区)を対象とした(図5)。

南区は69次調査(平成20年)で確認した外側の堀跡について、その詳細を確認することを主たる目的として実施した。調査範囲は69次調査区と重なっている。69次調査では、2条の堀跡(21SD1、21SD2)や橋跡(21SX35)などの遺構が確認された。この範囲は、これまで21次調査(昭和63年)で(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが、43次調査(平成5年)で平泉町教育委員会が調査した範囲を含んでいる。今回の2年の調査は外側の堀跡(21SD2)の構築時期や構造の解明、橋跡の再検証を目的として実施した。外側の堀跡については、これまで調査された範囲が少なく、上面を厚い自然堆積層が覆い平面で確認できない部分があった。そのため、堀の構築時期や存続期間、堀の構造などの課題が69次調査では残されていた。そこで、堀跡の構造的な特徴や堆積層の状況、69SX3とした土層などの関連する遺構の把握を目的に、土層同士の関係などに留意して調査を行った。また、これらの範囲を含む遺跡南端部については未調査の範囲もあり、その範囲の様相を解明することも目的としている。

北区は、これまで未調査の範囲で遺跡堀内部地区の北端部の遺構の分布など様相を確認することを目的として実施した。北区はこれまで未調査で、56次調査(平成14年度)と59次調査(平成16年度)で岩手県教育委員会が調査した範囲と隣接する。南側に隣接した56次調査の範囲では、トイレ状遺



図1 第70次調査区位置図

構が多数検出されている。そのため、今回の範囲においてもトイレ状遺構が分布することが想定されたが、その他の様相は不明であった。また、この範囲では標高の異なるやや高い地形が存在しており、その部分の地形の状況や遺構などの様相を確認することも目的とした。

(4) 調査の方法

グリッド

遺構の測量や遺物の取り上げなどの作業に際し、基準としてグリッドを設定している。このグリッドは(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが1988年から始まる緊急調査に際し、平泉町教育委員会と協議のうえ設定したものである(岩手県埋蔵文化財センター1995)。平面直角座標第X系(日本測地系)をもとにした5×5mグリッドで、南北方向の基準線に対し真北は、西に0°11'振れる。遺跡範囲の北西端端りが原点(0,0)となる。調査の継続のため、現状ではこのグリッド名を採用している。

なお、49次調査まではグリッドの呼称をX座標方向、Y座標方向の順にしていたが、50次調査以降、その順を逆転させY座標方向、X座標方向の順で呼称・記載している。混乱を最小限にとどめるため、本書においてもこの方式を採用し、たとえば66-70(Y-X)グリッドならばX軸方向が70、Y軸方向が66を示している。以下の記載についてはこのグリッドによって調査を行い、遺物の取り上げについても、近現代の改変を受けた耕作土からの出土遺物等を除いて、基本的にこのグリッドによって行っている。

表土掘削・遺構検出

今回の調査では、まず調査区内にトレンチを数本設定し、遺構検出面までの深さを確認する作業を行っている。この調査で表土の厚さを確認し、以後の調査ではバックホーを使い、表土を除去した。表土の除去後は遺構の検出を、鋤簾などの道具を使用して確認調査(検出作業)を行った。

遺構精査・記録

検出作業によって確認された遺構については、遺跡保護のため基本的には掘削を伴う精査は行っていない。しかし、一部の遺構については遺構の年代把握や遺物検討のために、半裁等によって土層観察を行い、遺構の断面を記録した。平面図の実測は5mグリッドを分割した1m×1mのメッシュを使用して手作業で行った。今次の調査で検出された遺構はもちろんであるが、既知の遺構についても、検出したものについてはあらためて平面図の作成を行っている。写真については6×7判カメラ(モノクロ・リバーサルフィルム)を中心に、適宜35mm判カメラやデジタルカメラを使用して撮影を行った。調査区全景写真撮影に際しては高所作業車を使用して、調査員が撮影を行っている。

遺構名称

今次調査における遺構名は新期の遺構については頭に今回の調査回数である70を付して上記遺構略号を使用した(例70SX○○)、それ以外の遺構については柱穴を除き旧番号(既調査で命名)で統一し、本書においても使用している(例56SK○○)。

整理作業

野外調査終了後の平成21年11月1日から平成22年3月31日まで行った。遺物は水洗後に注記→接合→実測→トレース→図版作成→写真撮影の順で作業を行った。遺構については点検、合成の後、必要に応じて第2原因を作成し、その後トレース→図版作成の順で作業を行った。

記載内容

この報告では、今次の調査で検出した遺構と既知の遺構でも精査の際に半裁した遺構について記載している。また、新たに精査した柱穴が含まれる建物跡や新たな知見が得られた遺構についても記載

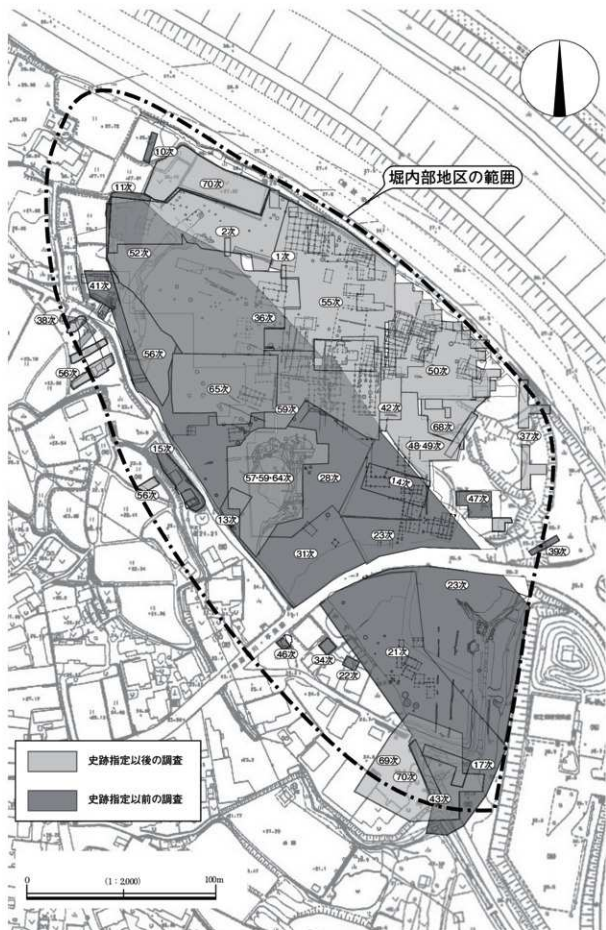


図2 柳之御所遺跡調査範囲図

表4 発掘調査次数別概要(1)

次数	年	調査機関	内容
1～3次	昭和44	平泉道跡調査会	柳之御所道跡初の発掘調査調査時はA～Cトレンチ、玉石敷き面と2mの溝を検出。
4～7次	昭和45	平泉道跡調査会	1・2トレンチで発掘が溝の堤防状張り出し部・北側を、3トレンチ、柱穴中に礎石や礎板をもつ大型の雁立柱建物1棟は2×4間以上。4トレンチで重複する雁立柱建物と多量のかわかけ。
8～9次	昭和46	平泉道跡調査会	3・Cトレンチの拡張。
10次	昭和47	平泉道跡調査会	西側の大塚の東隣接地で、柱穴中に礎石をもつ大型の雁立柱建物1棟、3×3間以上。
11次	昭和57	平泉町教育委員会	内容確認調査 重複する3間隔の雁立柱建物や大井、土坑、道路跡など多数の遺構を検出。
12次		平泉町教育委員会	内容確認調査 1間隔雁立柱建物(堂)と区画溝、底部穿孔かわかけが2か所にセットで発見。
13次	昭和58	平泉町教育委員会	内容確認調査 木枠をもつ深さ3mの井戸から瓦700片が出土。
14次		平泉町教育委員会	内容確認調査 雁立柱建物3棟と柱穴列を検出。
15次		平泉町教育委員会	内容確認調査 13次の西隣接地で初の最初の調査、瓦の破片が多数出土。
16次		平泉町教育委員会	内容確認調査 高船南麓の緩斜面地にトレンチを入れ、上段、中段、下段の3段に整形。
17次	昭和59	平泉町教育委員会	内容確認調査 遺物埋め残りが深く地山を確認できず、後に調査区は撤去と判明。
18次	昭和61	平泉町教育委員会	宅地開発に伴う事前調査 雁立柱建物3棟、土坑3基、溝3条を検出。
19次	昭和62	平泉町教育委員会	内容確認調査 高船南麓の緩斜面地にトレンチを入れ12世紀代上層に中世後半期の遺物(包含層)を確認。
20次	昭和63	平泉町教育委員会	宅地開発に伴う事前調査 第19次のトレンチを拡張する。16世紀代初期の黒褐色遺物(包含層)を検出。
21次		県理工センター	堤防バイパス関連 柳之御所は二重の堀で囲まれ、御殿の御所へは傾斜に繋がられていることが判明。
22次		平泉町教育委員会	宅地開発に伴う事前調査 小範囲の調査で堀跡が2条見つかる。平泉道跡発掘調査指導委員会が発足。
23次		県理工センター	堤防バイパス関連 第22次の北側全面調査で、堀や大型の雁立柱建物、池の一部を検出。
24次		平成元	平泉町教育委員会
25次	平成2	平泉町教育委員会	堤防バイパス関連 雁立柱建物3棟、土坑10基、井戸3基を検出。
26次		平泉町教育委員会	鉄器建設に伴う事前調査 水田造成のための遺構遺物は発見されず。
27次		平泉町教育委員会	堤防バイパス関連 雁立柱建物11棟、溝21条、土坑70基、井戸8基を検出。朝野文調製品や常清三路壺出土。
28次	平成2	県理工センター	堤防バイパス関連 池の調査。北側には大規模な雁立柱建物と井戸を多数確認。輪文と鏝とかわかけが出土。また、寝殿造系の建物や墨で描いた飯粒や「人々給日記」の墨書片数点などの貴重な資料が出土。
29次		平泉町教育委員会	堤防バイパス関連 溝14条、土坑11基、井戸2基を検出。区画溝は延長され掘削が開始に。
30次	平成3	平泉町教育委員会	堤防バイパス関連 雁立柱建物8棟、溝24条、土坑23基、井戸10基、溝3条を検出。路面幅7mの東西道路跡。
31次		県理工センター	堤防バイパス関連 池の西側を広く調査し、無量光院の堤防張り出しに對する位置に宝篋遺構を検出。2000本を越えるちゅう木や、深美の短冊文、松鶴鏡、土壁や礎板などの建築部材も多数出土。
32次		平泉町教育委員会	宅地開発に伴う事前調査 堀外部地区の小規模調査で、3基の土坑と2条の溝を検出。
33次		平泉町教育委員会	宅地開発に伴う事前調査 堀外部地区の北西側の小規模調査で、堀と2条の緩斜面地。
34次		平泉町教育委員会	宅地開発に伴う事前調査 堀内部地区の小規模調査、全面掘削を受けている。
35次		平泉町教育委員会	堤防バイパス関連 惣地層は3層確認。
36次		県理工センター	堤防バイパス関連 遺構の確認調査と一部の遺構を掘削。
37次	平成4	平泉町教育委員会	内容確認調査 堀内部地区の最も北上用りを調査し、大型の建物の存在を確認する。
38次		平泉町教育委員会	内容確認調査 上堀7m深さ2mの堀を検出。その北側からも堀を検出。
39次		平泉町教育委員会	内容確認調査 岩手県環境文化財センターが21次調査で検出した堀の北延長部確認のため。
40次		平泉町教育委員会	内容確認調査 7か所をトレンチ調査し、24次と25次で発見の区画溝の延長が確認された。
41次	平成4	県理工センター	堤防バイパス関連 堀跡1条、雁立柱建物3棟、堀跡1条、井戸状遺構5基、土坑7基を発見。
42次		平泉町教育委員会	内容確認調査 4間×9間の最大規模の雁立柱建物跡。
43次	平成5	平泉町教育委員会	緊急調査 堀の凹みと植樹の材が多数出土し、かわかけ少数。
44次		平泉町教育委員会	内容確認調査 惣地層と多数の柱穴を検出しているが建物に復元できていない。遺物は多数出土。
45次		平泉町教育委員会	宅地開発に伴う事前調査 12世紀は柱穴46個、井戸跡1基、土坑1基、溝跡2条。
46次		平泉町教育委員会	宅地開発に伴う事前調査 12世紀の堀跡1条の近世末期の基10基を検出。
47次	平成8	岩手県教育委員会	内容確認調査 柱穴、溝が検出。
48次	平成9	岩手県教育委員会	内容確認調査 12世紀の通常の建物と比べ、平面の幅さの軸線が北から40°ずれる大型建物を検出。
49次	平成10	岩手県教育委員会	内容確認調査 史跡整備のための内容確認調査を開始。4×9間の大型建物の隣接地を調査 新たに堀跡を検出。
50次	平成11	岩手県教育委員会	内容確認調査 調査区は28S44 東側。白磁の四耳壺、印章が出土。
51次		平泉町教育委員会	宅地開発に伴う事前調査 調査区南西側の溝1条は近世以降で奥州道中の北側道路跡併溝。
52次		岩手県教育委員会	内容確認調査 第1次3ヶ年計画3年次
53次	平成12	平泉町教育委員会	宅地開発に伴う事前調査 高船跡の南東側、柱穴6個、区画溝1基、井戸1基を検出。井戸底から青白磁碗を検出。
54次	平成13	平泉町教育委員会	宅地開発に伴う事前調査 柳之御所跡範囲の西側、浅い土坑1基検出。
55次		岩手県教育委員会	内容確認調査 中心域北側の調査、聖父建物、大型柱建物も調査。
56次	平成14	岩手県教育委員会	内容確認調査 堀内部地区北西部の調査、堀跡も調査。
57次	平成15	岩手県教育委員会	内容確認調査 堀間割、池跡の調査。
58次		平泉町教育委員会	宅地開発に伴う事前調査 12世紀の溝跡1条、土坑1基、柱穴数個検出。遺物も多数出土。
59次	平成16	岩手県教育委員会	内容確認調査 中心建物の再調査。
60次		平泉町教育委員会	宅地開発に伴う事前調査 2箇所を坪掘り。遺物は出土なし。
61次		平泉町教育委員会	宅地開発に伴う事前調査 奥州街道と思われる道路跡検出。
62次		平泉町教育委員会	内容確認調査 24次調査区に隣接した4箇所をトレンチ調査。溝跡、土坑を検出。
63次	平成17	平泉町教育委員会	内容確認調査 台地から堀間ヶ原の伏地に於いて8箇所をトレンチ調査。土坑1基検出。
64次		岩手県教育委員会	内容確認調査 池跡の内調査。

した。

普及活動

普及活動の一環として、野外調査の全容がほぼ明らかとなった8月22日に現地説明会を行った。天候にも恵まれて参加者200名を得た。そのほかに、遺跡を訪れる観光客などに対して、必要に応じて随時現場を公開した。

(櫻井)

表4 発掘調査次数別概要(2)

次数	年	調査機関	内容
65次		岩手県教育委員会	内容確認調査 中心城西側、北側の調査。
66次	平成18	平泉町教育委員会	宅地開発に伴う事前調査 高館の西側掘野斜面、トレンチ2箇所。柱穴4個、溝跡1条、土坑2基検出。
67次		岩手県教育委員会	試掘調査
68次	平成19	岩手県教育委員会	内容確認調査 中心城東側の調査。
69次	平成20	岩手県教育委員会	内容確認調査 遺跡南端での堀跡の調査。
70次	平成21	岩手県教育委員会	内容確認調査 遺跡南端で外側の堀跡の調査、堀内部北端で井戸・トイレ状遺構の調査。

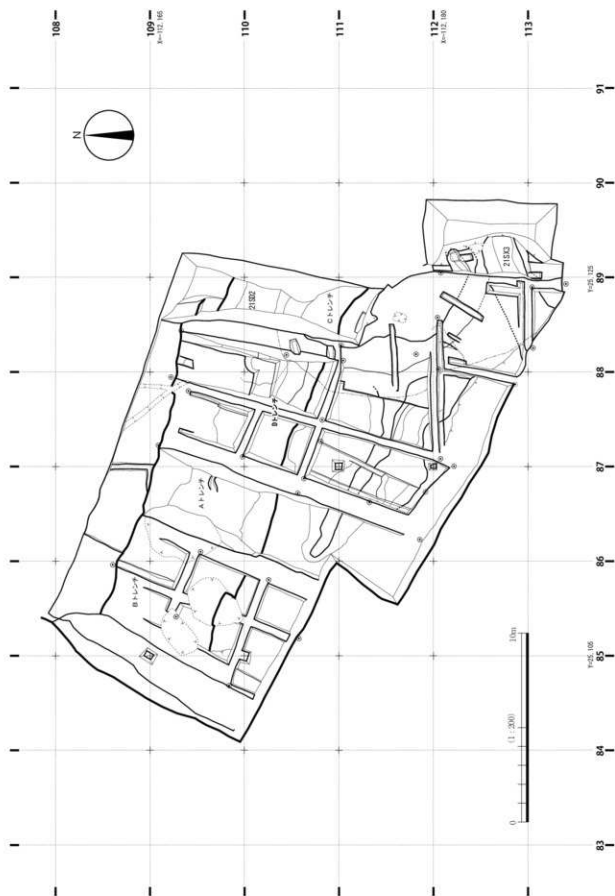


図3 南区遺構配置図

II 調査内容

1 南区

(1) 調査の概要

今年度の目的のために設定した調査区は、遺跡南端付近の1,000㎡である。この範囲は69次調査の範囲の南部分にあたり、すべて再調査部分となる。これまで21次調査、43次調査、69次調査で調査された範囲と重複する。

調査の結果、外側の堀跡(21SD2)や大溝跡、土坑などの遺構を確認した。69次調査では、21SD2の南半部が12世紀中の自然堆積層と考えられるIV・V層に覆われていたため、完全には検出できていない。今回の調査では21SD2の平面形状を確認するため、IV・V層を除去し、延長とその規模を改めて確認した。また、69次調査で21SD2より南側で大溝を確認していたが、この大溝の延長部分を検出し、その方向を確認することができた。

調査区はIV・V層を除去した下層に、地山層X・XI層が広がっており、遺構はこの面で検出している。検出した遺構は以下の通りである。なお、(2)以下は精査した遺構を中心に述べる。

堀跡	2条
大溝跡	2条
土坑(不明遺構)	1基

(2) 検出遺構

【堀跡・大溝跡】

21SD2(図4)

遺跡の最南端の、X=108～112、Y=85～89のグリッドに位置する。調査範囲は69次調査の範囲に重なっており、A～Cのトレンチは69次調査のトレンチを活かした(図3)。以下の記載でも同一のトレンチを指す。断面図等も同一のものが含まれるが、本報告書でも一部を再掲した。70次調査では、AトレンチとCトレンチの間に、新規にDトレンチを設定し、21SD2の検出、精査を行った。

堀跡は新旧の2時期あることがわかっており、旧期の堀跡は規模が上幅が最大で7.2m、下幅が4.2mである。深さは検出面から最大で2.3mである。旧期の堀跡の範囲は全て新期の堀跡と重複しており、現況での値となる。新期の堀跡は上幅が最大で7.5m、下幅が1.5m程、深さは検出面から最大で2.1mである。断面形状は、旧期の堀跡は断面形が台形となるのに対して、新期の堀跡は底面が緩やかに円形となる。これは今回の調査範囲で確認できた断面では、いずれも同様の形態をとる。69次調査ではIV・V層の除去が部分的な範囲にとどめたが、今回の調査で調査区内では21SD2の全体を検出することができ、大きな変更はないがその規模を把握することができた。

層序等は69次調査で既報のものとの変更はないため、概略のみ触れる。層序は8つに大別した(IV・V・A～F層)。IV層は褐灰色の粘質土を主体とし、III層以上の近世以降に大きく削平されている。層中には完形を含むかわかけ片を多量に包含するが、堆積土に人工的な様相は認められず、遺物内容から12世紀中の自然堆積と考えている。V層は褐灰色の粘質土・粘土である。完形を含むかわかけ片を多量に包含する。層中にはラミナが確認でき、出土遺物は12世紀のものに限定され他時期のものが含まれていない。これらからV層も12世紀中に自然堆積した層と考えられる。IV・V層につ

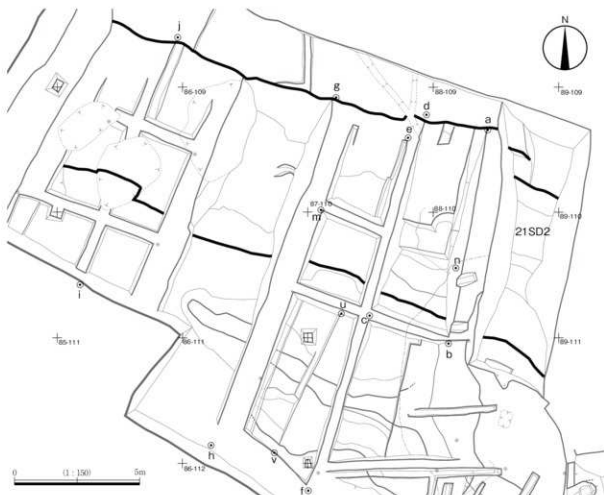


図4 21SD2平面図

いては遺物を多量に含む包含層だが、遺物は12世紀中のものに限られ、この時期に近い時期の水成堆積層と考えている。これらのIV・V層で21SD2付近は覆われている。A・B層は整地に関わる層、C層は69SX3、D層は21SX4の堆積土で、それぞれ後述する。E・F層は21SD2に伴う堆積土である。E層よりF層の方が新しく、E層が旧期の、F層が新期の堀跡の堆積層である。E層は黒褐色土と灰褐色の土層が交互する自然堆積層である。F層も自然堆積で、灰褐色から黒褐色の粘質土・砂質土である。下位層はグライ化している。21SD2の下層のE層、F層については、堆積土の様相から水流等の影響を受けた自然堆積によるものと捉えられる。

21SD2は遺跡南端部に位置し、北上川に面する標高の低い範囲にあたる。層序の様相からは、この範囲が洪水等の自然の影響を受けやすい範囲であったと同時に、69SX3や21SX4など人工的な様相が複雑に確認でき、遺跡内でも数多く造作が行われた範囲であったことがわかる。層序は複雑な様相を示すが、今回の調査範囲では、堀の堆積層（E、F層）→69SX3（C層）→整地層（A・B層）→21SX4（D層）→自然堆積層（IV・V層）の順で堆積したことが断面から判断できる。人為堆積が多くみられ、整地層や69SX3などの範囲に限られる層も多いため、それぞれの層序の時間幅などは不明である。

また、21SD2の南側のX=111～112、Y=86グリッドで地山の高まりを確認している（図4、図版6）下幅が最大で2.4m、上幅が最大で0.5mで、東西方向に長さ10mほどの範囲で確認した。この高まりは周辺部も含めて、V層に覆われている。一部に裁ち割りを行い土層を確認したが（図8）、XI層の地山層の単層で形成されており、人為的な積み土等は確認できない。両端部の堆積は、洪水

等の自然堆積層であるV層のみが堆積し旧表土や崩落土などの土層はみられない。このため、高まりや周囲の土層からは人為的な痕跡は確認できない。堀跡等が機能した当時の旧表土等はV層の堆積で確認できる洪水等で削平されたものと考えられ、この高まりについても今回の範囲では同様に自然の作用で形成されたものと判断している。

21SX4 (図5・6)

21次、69次調査で検出し、69次調査で大溝跡と確認した遺構である。過去の調査で、21SD1、21SD2と重複することが確認され、21SD2の方が古く、21SD1が新しいことが確認された。また、21次調査の際に、21SX4の北東部が21SX35橋跡に切られているとされており、これより古いことがわかる。Ⅳ・Ⅴ層に南半部を削られ本来の規模は不明だが、21次調査範囲では幅が最大で4m、深さが検出面から15mである。

21SX4は今回の調査範囲では21SD2と重なって、断面で確認した。東側では、89-100グリッド付近で大きく北の21SD1の方向に屈曲することがわかっているが、より西側については、69次調査の範囲では西端付近まで確認されている。延長した際の規模は不明だが、西側の未調査の範囲に延びることが想定できる。

堆積土はD層とした層で、D1～6の6層に細別した。D層は上部をV層によって削られ、現状でこれに覆われている。特に、南側部分はV層によって大きく削られている。D層は、灰白色や黒褐色、浅黄橙色の粘質土からシルト層で細分できる。D1～D4層は淡黄色土がブロック状に多く含まれ、人為堆積と考えられる。D5層には木の枝や樹皮が平面的に確認でき、うすく敷きつめた痕跡と捉えることができる。同様の工法は大阪府狭山池遺跡や宮城県多賀城跡でも確認されており類似するものと考えられ(多賀城研2010)、湿地帯の土壌を埋める際に導入された敷葉工法の一つと想定している。この範囲より南側で、杭列の可能性もある木杭をDトレンチで確認している。明確な打ち込み面が確認できず、これまでの調査範囲では今回の調査範囲であるDトレンチの一部でしか確認できないため不明な点もあるが、この溝を構築した際または埋めた際の一連の痕跡と考えることもできる。D1～D4層の人為堆積層や上層の地業との関連が想定される。D5層は、調査区の西側では確認できず、範囲は不明だが21次調査でも確認されていることが報告書中の記載から読み取ることができる。これらから、分布範囲はDトレンチより東側に広がるものの、この調査範囲の周囲に限定されるとみられる。下層のD6層は自然堆積である。これらのD1～D6層は、V層による削平や堆積土の違いがあり、トレンチごとに一部で異なる様相もあるが、層序から21SX4の同一の堆積土と判断している。

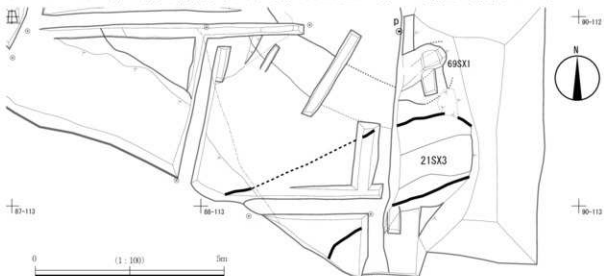
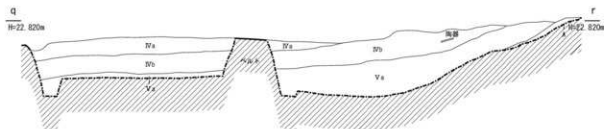
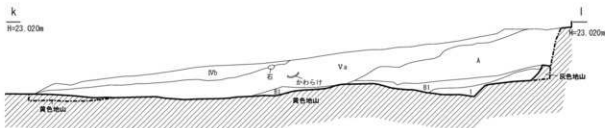


図7 21SX3平面図

整地層(k-l・q-r)



Bb 1.5V16(1) 褐色粘板状土 砂礫石中量混在土

A 1.5V16(1) 褐色粘板状土 砂礫石中量混在土

Va 1.5V16(1) 褐色粘板状土 下部に微細砂の混在が認められる。上部に砂礫石が混在する。基本的には粘板状土

A 1.5V16(1) 褐色粘板状土 a-b-20mmの粒径の砂とa-b-20mmの粒径の砂礫石が混在する

1.5V17(1) 褐色粘板状土 黄褐色のシルト質粘土に少量の砂礫石が混在する

l 1.5V17(1) 褐色粘板状土 黄褐色のシルト質粘土に少量の砂礫石が混在する

Bb 粘り中

粘り中

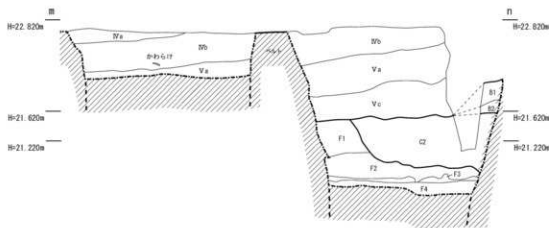
粘り中

粘り中

粘り中

粘り中

69SX3 (m-n)



Bb 1.5V16(1) 褐色粘板状土 砂礫石中量混在土

Bb 1.5V16(1) 褐色粘板状土 砂礫石中量混在土

Va 1.5V16(1) 褐色粘板状土 下部に微細砂の混在が認められる。上部に砂礫石が混在する。基本的には粘板状土

Va 1.5V16(1) 褐色粘板状土 黄褐色のシルト質粘土に少量の砂礫石が混在する

B1 1.5V17(1) 褐色粘板状土 黄褐色のシルト質粘土に少量の砂礫石が混在する

B2 1.5V17(1) 褐色粘板状土 黄褐色のシルト質粘土に少量の砂礫石が混在する

F1 1.5V18(1) 褐色粘板状土 黄褐色のシルト質粘土に少量の砂礫石が混在する

F2 1.5V18(1) 褐色粘板状土 黄褐色のシルト質粘土に少量の砂礫石が混在する

F4 1.5V18(1) 褐色粘板状土 黄褐色のシルト質粘土に少量の砂礫石が混在する

粘り中

粘り中

粘り中

粘り中

粘り中

粘り中

粘り中

粘り中

粘り中

図9 整地層・69SX3断面

69次、70次調査の結果から、21SX4が大溝跡で、その遺構の大部分は21SD2と重なる。21SD2の改修として捉えることも可能だが（岩手県教育委員会2010a）、今後、21SD2の延長部分の調査とともに検討していくべき課題である。今回の調査ではかわらけが7.2497g出土した。

21SX3（図7・9）

調査区の南端に、X=112～113、Y=88～90グリッドに位置する、東西方向に伸びる大溝跡である。整地層の下層で検出された。21次調査時は部分的な調査範囲であったことから、21SX3として不明遺構と認識されていたが、69次調査で延長する部分を検出し、大溝跡と判断した遺構である。西側の延長は不明だが、現状では柳の御所遺跡最南端に位置する遺構となる。69次調査で89-112グリッド分を確認していたが、今回の調査で88-113グリッドの範囲を新規に確認し、延長方向をより正確に確認することができた。現状では上幅が最大で2.5m、深さは検出面から最大で0.9mである。断面形状は底面が緩やかな円形である。

堆積土は2層に細分した（図8）。2層は褐灰色の粘質土で、整地層と同様の淡黄色のブロックを多く含み、人為堆積と考えられる。1層は灰褐色の粘質土で、淡黄色、黒褐色のブロックを含む層である。これらの層を覆うように整地層（A層）が堆積している。遺物は、微細なかわらけ片を除いてほとんど出土しておらず、構築時期等は不明である。

また、この21SX3と隣接して69SX1土坑がある。69次調査では、69SX1と69SX2の異なる遺構として報告したが、範囲を拡張し同一の遺構と判断した。ただし、69次、70次調査といずれも範囲の小さい部分を精査したにすぎず、遺構全体の判断が難しい。堆積土は単層で21SX3の2層と類似し、整地層と同様のブロックを多く含み人為堆積と考えられる。

これらの遺構は柳の御所遺跡最南端に位置し、21SX3は大溝跡として確認できる。この溝跡の位置づけは遺跡の変遷や評価につながる部分がある。延長する部分の調査とともに、構築時期や性格など今後検討すべき課題も多い。

【整地層】（図9・10）

88-110から88-113グリッドの範囲に広がる整地層である。69次調査で検出しており、70次調査でIV・V層を除去したため、南側に3m、西側に0.5mほど広がっている。東側は範囲は不明だが、南北14m、東西5.5mほどの南北方向に長い限定された、狭い範囲にのみ確認できる。21SD2、21SX4、21SX3と重複しており、21SD2、21SX3より新しく、21SX4より古い。これらの土層は人為堆積が多く、時間差の短い構築の工手順の差異を示す可能性もある。南側はV層によって全体が覆われている。

整地の層序については69次調査で既報のものに変更はない。A・B層の2層に細分した。A層は淡黄色、黒褐色のブロックを多く含み、最大で50cmの厚さで、締まりの強い層である。B層はブロックの入り方で2層に細分したが、基本的には同一の堆積層と考えられる。灰褐色の粘質土で、人為堆

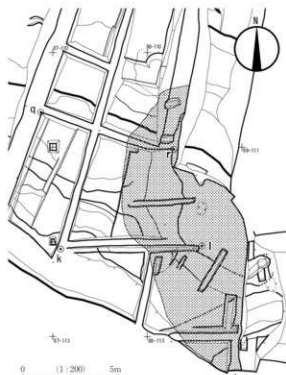


図10 整地層範囲図

積か自然堆積か不明だが、A層の下層に伴うように同一の範囲でしか確認できないことから、整地層の一部と認識した。今回の調査ではかわらけが796.8g出土した。

【土坑】

69SX3 (図9・11)

21次調査で「新規層」とされた土層で、69次調査で遺構として認定した土坑状の掘り込みである。過去の調査で橋の部材を含む多量の遺物が出土した層で、69次調査でC層の分布が限定されることや堆積状況から、土坑の可能性を想定した。69次調査ではIV・V層に覆われ平面でのC層の分布範囲が確定できず、遺構とした場合の平面形状が確認できていないという課題が残された。そこで、69次調査でC層の分布がBトレンチで確認されず、分布範囲の端部が想定された範囲のDトレンチにおいて南半部の掘削を行い、西側の端部を確認した。その結果、C層の分布は円形範囲でとどまることが確認されたことから、掘り込まれた土坑として認定し、規模を把握できた。

過去の調査範囲にあたる東側は範囲が不明だが、現状で確認できる部分では69次調査の範囲を含めて南北6m、東西5mほどで、平面形は半円形である。底面はやや平坦になる範囲もあるが、断面形状はレンズ状の緩やかな円形である。Dトレンチで確認した範囲では西側の立ち上がりは傾斜の強い掘り込みとなる。堆積土はC層とした、淡黄色のブロック状の土を多く含む土層である。21・43・69次調査で橋の部材や木筒などの木製品や多くのかかわらけが出土した層である。C1～5層に細分したが、今回の調査範囲ではC2層が分布している。C層中でも下層に多量の遺物が含まれており、69次調査でもこれらが出土している。遺物の分布からは、21・43次調査の範囲が遺物が最も多く出土しており、土坑の中心に近いことが想定できる。堆積は人為堆積で、部材などが多量に出土していることから、21SD2廃絶時に近い時期の橋部材等の廃棄土坑と考えられる。遺物はかわらけが4,066.1g出土した。

(櫻井)

(3) 出土遺物

南区出土遺物は総重量で45,838gである。70次調査では、南区ではIV・V層を除去し21SD2の延長を確認すること、69SX3とした遺構の範囲を確認することを主な目的としたため、遺構の精査は基本的に行っていない。そのため、遺物の多くはIV・V層から出土したものである。この他の遺構からの出土遺物も含め、遺物の多くは原位置をとどめたものではない。南区出土遺物の総重量のうち、かわらけが42,259gと最も多く、約90%を占める。次いで陶磁器類が1,835gと多い。

なお、南北のいずれの調査区でも、かわらけはおおむね1/4以上残存し器形が図示可能なものを示し、国産陶器と輸入陶磁器、瓦は全点を登録表に掲載、図示可能なものを示した。また、輸入陶磁器の分類にあたっては「大宰府分類」(大宰府市教育委員会2000)を参考にしている。

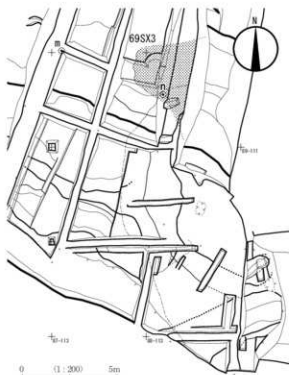


図 11 69SX3 範囲図

【土器・陶磁器類】

69SX3 出土土器・陶磁器類 (図 12)

21SD2 と重なる調査範囲からは、かわらけが 11,729.6 g 出土し、うち 69SX3 とした土坑から 4,066.1 g、21SX4 からは 7,249.7g が出土した。

69SX3 から出土した遺物は、かわらけ 11 点、輸入磁器 1 点を図示した (1～11、21)。1 はロクロかわらけの小皿、2～5 はロクロかわらけの大皿である。ロクロかわらけ大皿は口径が 15cm 前後と 14cm 前後とにわかれ、器高は 4 cm 前後である。器形は皿形を呈するが、器高がやや高く、体部が内湾して立ち上がる。法量の平均は口径が 14.3cm、器高が 3.7cm、底径が 7.8cm である。6・7 は手づくねかわらけの小皿で、口径 9.0cm、器高 1.8cm とほぼ同様の器形である。8～11 は手づくねかわらけの大皿である。口径が 14cm 前後でやや大きいものと、13cm 以下の小型のものにわかれる。法量の平均は口径が 13.3cm、器高が 2.9cm である。21 は白磁壺類の体部片である。

旧期の堀跡である下層の F 層からは、かわらけが 4138g 出土した。図示可能なものは出土していないが、ロクロかわらけの大皿では、椀形のものが含まれている。堀跡の堆積土からの遺物は、精査がほとんど及んでいないことから、きわめて少ない。69 次調査を含めても、堀の堆積土からの遺物は少なく、特に構築時期に近い時期と判断できる旧期の堀跡からの出土遺物は少ない。

21SX4・整地層出土土器・陶磁器類 (図 12)

21SX4 からはかわらけが 7,249.7 g 出土し、かわらけ 6 点を図示した (12～17)。12・13 はロクロかわらけの小皿でいずれも口径 8cm 前後、器高が 2cm 以下と小型で、底径がやや幅を持つが類似した器形である。14～16 は手づくねかわらけの小皿で、口径 9cm 前後で、器高 1.7～1.9cm と小型のものである。17 は手づくねかわらけの大皿である。口径はやや小さく 13.3cm、器高は 3.0cm である。

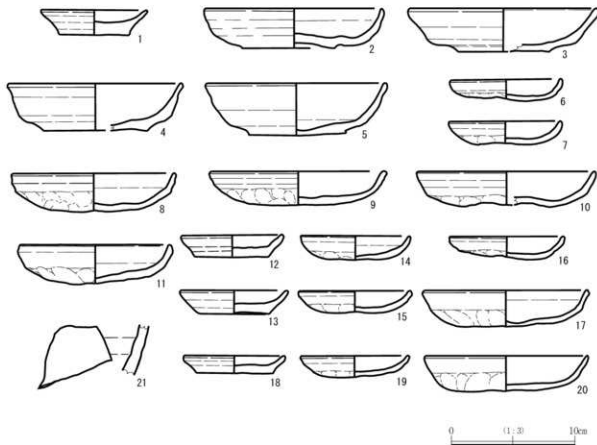


図 12 69SX3・21SX4・整地層出土土器実測図

21SX4からは図示可能な遺物は少ないが、小片は多く含まれていた。

整地層（A・B層）からはかわらけが796.8g出土し、ここではかわらけ3点を図示した（18～20）。18はロクロかわらけの小皿、19・20は手づくねかわらけの小皿と大皿である。整地層からは遺物の出土量が少なく、整地地業時にそれらの混入が少ないことがわかる。これらの層からの出土遺物は点数が少なく、破片が多いため図示可能な遺物は少ない。

遺物包含層（IV・V層）出土土器・陶磁器類（図13・14）

IV・V層は21SD2の上層に厚く堆積した遺物包含層で、土層の様相から洪水等に伴う自然堆積と考えている。遺物はかわらけや陶磁器類など多量に出土しているが、ここではかわらけ47点、国産陶器・須恵器21点、輸入陶磁器4点を図示した。22～29はロクロかわらけの小皿で、口径は8cm前後でまとまりを示すが、底径は4.8～6.7cmと幅がある。器形も外湾して立ち上がるもの、内湾して立ち上がるものとわかる。30～33はロクロかわらけの大皿である。椀形の器形と皿形の器形とがあり、法量値も幅がある。34～43は手づくねかわらけの小皿、44～68は手づくねかわらけの大皿である。小皿は法量値や器形に比較的まとまりをもつが、大皿では口径や器高にまとまりがない。これらから、IV・V層の出土遺物はいずれも12世紀代の遺物に限られるが、異なる時期の特徴をもつものが含まれている。洪水等によるとみられる堆積層の特徴と、これらの遺物にみられる多様さは整合する。国産陶器類も破片資料が多く、器形が復元できるものはない。69～78は渥美、79～86は常滑で、甕類が多いが片口鉢の口縁部片、体部片がそれぞれ1点ずつ含まれている。輸入陶磁器は小破片が多く、90は白磁四耳壺、92は白磁碗類の口縁部片、91・93は中国陶器である。

【瓦】（図15）

2点を図示した。丸瓦（94）は完形で、凸面に縄タタキ目、凹面に布目痕が残る。柳之御所遺跡内では大・中・小の3種類の丸瓦がみられるが、法量的には中と分類でき、出土量も比較的多い種類である。平瓦（95）は端部が残り、端部の屈曲が特徴的な形態である。凸面に縄目タタキ目と離れ砂、凹面に一部に布目痕が残る。（櫻井）

【木製品】（図16）

全て21SD2のDトレンチからの出土である。折敷・下駄・杭・漆桶があり、8点を掲載した。その他に種子も出土している。

木製品

折敷（96・97）薄い板状で残存幅が2.0cm以上のものを一括した。いずれも細長い板状であり、榑木に転用する途中のものと考えられる。

下駄（101）連筒式の下駄が1点出土した。腐朽が著しく、踵側の歯などは残っていない。

杭（98～100）欠損もしくは腐朽が著しく、全形を留めているものは無い。98は端部の一面を削って先端部を作り出している。99は端部全面を削って先端部を作り出していると思われるが、腐朽が著しいため不明である。両者とも樹皮が残存している。100は先端部が腐朽のため残存していないが、長さが1m近い大型の杭である。

漆製品

椀（102・103）いずれも口縁部を欠損しており、体部下半及び高台付近のみ残存している。体部内外面に黒漆が塗布されるが、高台内は木地のままである。102は偽高台風の削り出し高台である。

（村田）

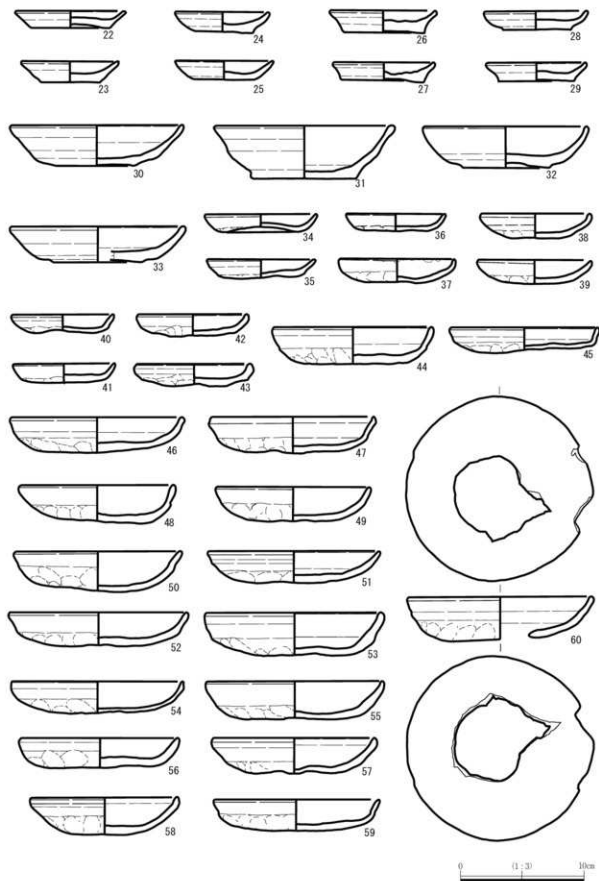


图 13 包含層出土土器類実測図 1

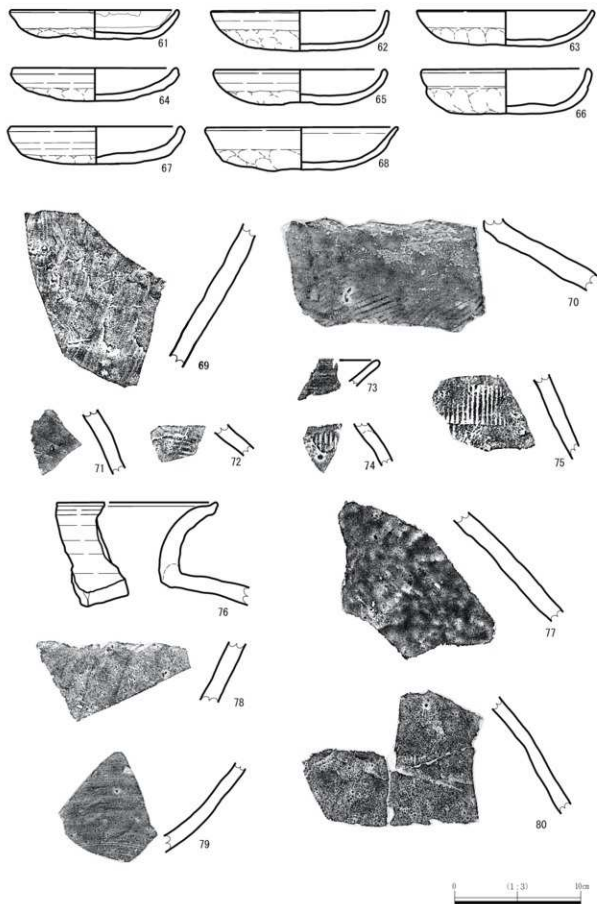


图 14 包含層出土土器類实测图 2

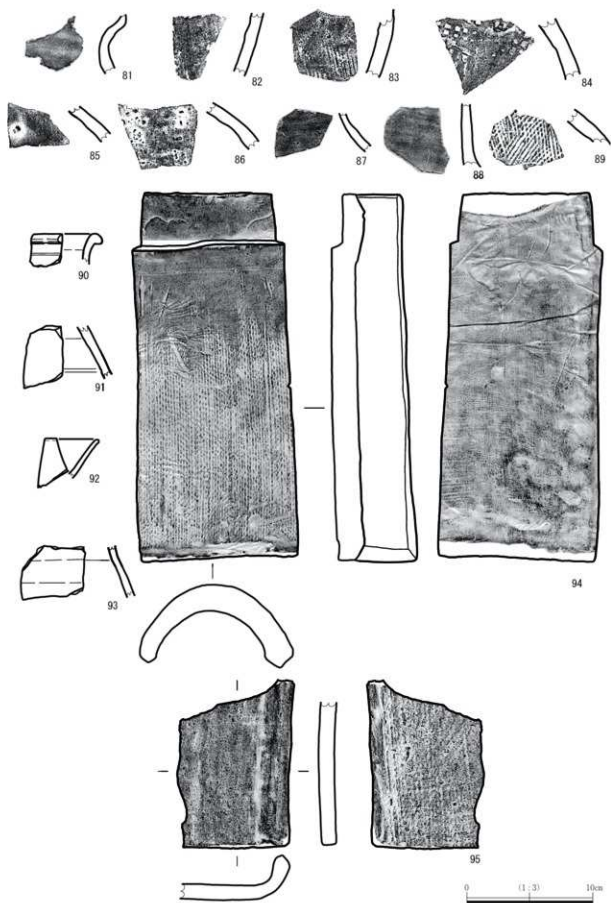


图 15 包含層出土土器類実測図 3

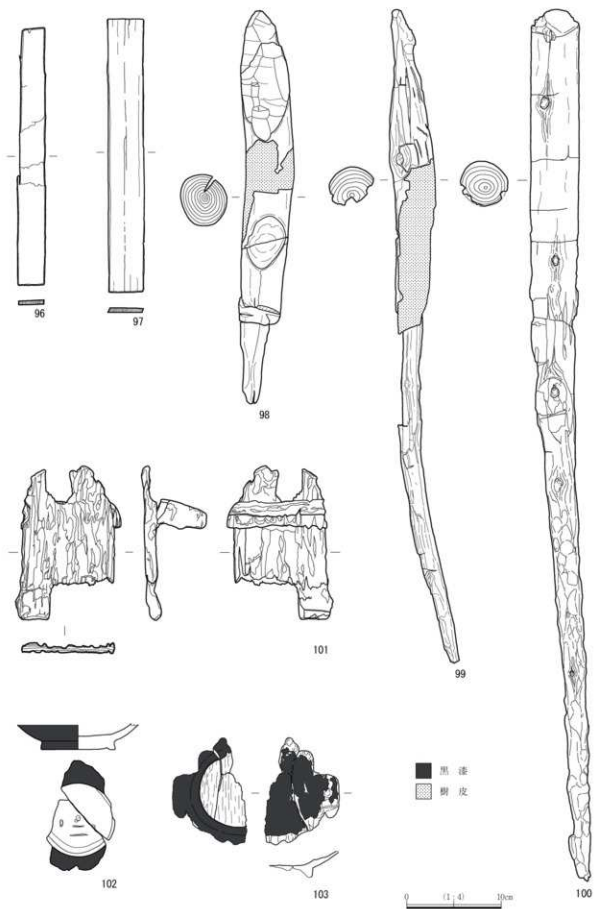


图 16 南区出土木製品実測図

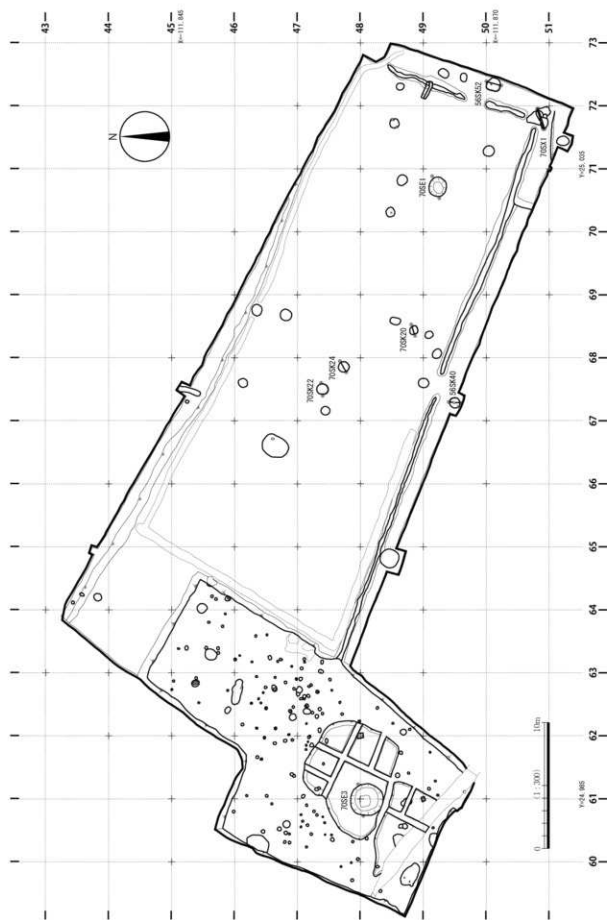


图 17 北区遺構配置図

2. 北 区

(1) 調査の概要

今年度設定した調査区は、遺跡北端付近の1,500㎡である。この範囲は北側の現在の平泉バイパスが通る北上川旧河道沿いを59次調査、南側を56次調査の調査範囲に挟まれている。今回の調査範囲は一部に56次調査の範囲を含むが、大部分はこれまで未調査の範囲である。

調査の結果、井戸跡3基、トイレ状土坑を含む土坑35基などの遺構を確認した。調査範囲では東西でY=63～64のラインを境に大きく標高の異なる範囲に分かれている。この部分は調査以前より、不自然な地形の高まりと認識されてきたが、今回の調査で東側の低い部分が水田造成によって削平された範囲であることがわかった。従来の地形面をやや残している部分が、地形の高まりとして残されたものである。このことは70SK1,70SK11が断面にかけて半裁されて削られていることからわかる。両者のこの範囲の高低差は1mほどである。そのため、今回の調査範囲では東側部分は、当時の遺構の多くが大きく削平され、残存していないことが想定される。

また、今回の調査範囲より西側にも同様の高まりが存在するが、この部分も削平されずに残った範囲とみられる。今回の調査範囲から堀外部地区へと至る部分である西側の平坦部についても、標高の低い部分があり、削平された範囲が含まれることが推定できる。このことは現地地形を基に評価されてきた内容に参考となる調査結果である。

調査区は、全域に表土である暗褐色土と水田時の旧耕作土が10～20cm程度堆積し、これらの表土の直下がいわゆる地山である黄褐色土となっている。遺構は全て、この黄褐色土の面で検出している。大規模な削平など改変の影響からか、この範囲には表土・旧耕作土に多くの遺物が含まれていた。標高が高い範囲でも、同様に10～20cm程度の表土の直下に地山である黄褐色土が確認でき、この面で遺構を検出している。

検出した遺構は以下の通りである。なお、(2)以下では精査した遺構を中心に述べる。

井戸跡	3基
土坑（トイレ状土坑を含む）	37基（うち新規34基）
ピット（小穴）	137基
性格不明遺構	1基
溝跡	1条

(2) 検出遺構

【井戸跡】

70SE1（図17・18）

70-49グリッド付近に位置する井戸跡である。規模は検出面で長径152cm、短径146cm、中端で長径92cm、短径75cm、下半から底面は一辺が約75cmの隅丸方形である。深さが211cmである。底面標高は25.5mとなる。平面形は上面が円形で、下半部は方形になる。井戸枠は確認されていない。壁面は下半部は垂直に立ち上がり、上面では外傾して外に開く。なお、遺構の掘り込み面は、黄褐色または明褐色の地山層だが、13層以下は断面で確認できる部分の地山は木片などを含む暗褐色土層である。

層序は13層に分類した。1～3層は、褐灰色から黄灰色の粘質土シルトで、黄褐色や明褐灰色などの地山ブロックを多量に含む。土器片や炭化物を含む層で、堆積土や遺物の様相から人為堆積とみられる。井戸跡出土遺物の多くはこの層から出土しており、図示可能なものはこの層から出土している。以下の層は自然堆積で、8層以下からは遺物は細片が少量でほとんど出土していない。4～10層は灰色を基本にした粘土から粘質土シルトで粘性が強く、地山ブロックを少量含む壁面等の崩落を含む自然堆積による土層である。11層以下は水平に堆積した自然堆積層で、下層は粘性が強くグライ化している。4層以下からは遺物がほとんど出土せず、細片で図示可能なものはない。

遺物は1～3層の人為堆積層から主に出土し、かわらけが5,095g、木製品が出土した。そのうちかわらけ10点を図示している。

70SE3 (図17・18)

61-48グリッド付近に位置する井戸跡である。規模は検出面で長径261cm、短径248cm、底面で長径85cm、短径81cm、深さが382cmである。底面標高は24.35mである。平面形は上面では円形で、15層以下は一辺が約145cmの隅丸方形となる。17層以下は壁がほぼ垂直に立ち上がり、底面は約80cm前後の隅丸方形となる。

層序は27層に分類した。1層は近現代の耕作土、表土である。3～12層は、壁面などの崩落による自然堆積とみられる遺物をほとんど含まない9・10層を間に挟んで上・下層の2つにわかれる。上層の3～8層、下層の11～12層はいずれも黄褐色や灰白色の地山ブロックを多量に含み土器片も含む層である。遺物の多くはこれらのうち、上層の3～8層から出土した。13～15層は地山ブロックを少量含み、遺物を少量含む。14層では自然木や葉などの有機質遺物が薄く層をなして堆積している。これらの層は自然堆積による堆積で、壁面の崩落等によるものとみられる。16層以下は水平に堆積した粘性の強いグライ化した土層で、20層では暗灰色で木片を比較的多く含むが、いずれも自然堆積である。遺物は、一部に炭化物片が含まれるが、かわらけの微細片が含まれるのみでほとんど出土していない。

遺物は4～12層から主に出土し、かわらけが21,905g、陶磁器類が805.5g、木製品が出土した。そのうちかわらけ29点、国産陶器14点、輸入磁器1点、木製品4点を図示している。

【土坑ほか】

70SK20 (図17・19)

68-48グリッド付近に位置する土坑である。規模は検出面で長径65cm、短径62cm、底面で直径55cm、深さが54cmである。底面標高は27.1mである。平面形はやや楕円形を呈し、断面形は矩形・台形である。底面まで壁は垂直に近く立ち上がる。

層序は4層に分類した。1層は黒褐色のやや粘性のあるシルトで、明黄褐色の地山ブロックやかわらけ片を多量に含んでいる。地山土が塊状に入り、遺物や土層の様相から人為堆積による埋土と考えられる。2・3層は灰色の粘質土で、粘性が強く、有機質分と水分を多く含む層である。有機質分を多く含み、粘性の強さや色調から、過去の調査で検出されているトイレ状土坑で確認された廃棄土層と同様の性格をもつ土層と考えられる。2・3層は植物の種子を含むが、かわらけや木製品などの遺物は少ない。4層は黄灰色の砂質シルトで、明黄褐色のブロックを少量含む層で、自然堆積とみられる。この土坑は籐木などの遺物が少なく確定はできないが、土質からは廃棄土層と捉えることができ、トイレ状土坑の可能性が高い。

遺物はかわらけが265.3g、陶磁器類が198.9g出土した。かわらけは1層から234.7gと多く、下層

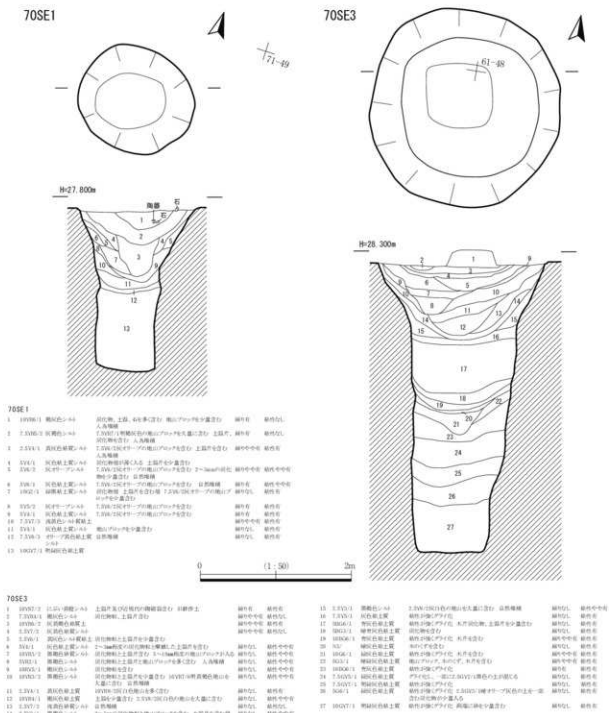


図 18 70SE1・SE3 平面・断面図

からの出土は2層から破片が少量出土したのみで、図示可能なものはない。国産陶器2点を図示した。

70SK22 (図 17・19)

67.47 グリッド付近に位置する土坑である。規模は検出面で長径 94cm、短径 82cm、底面で長径 84cm、短径 75cm、深さが 290.9cm である。底面標高は 24.7 m となる。平面形は円形で、断面形は矩形・台形である。

層序は7層に分類した。1～3層は浅黄色から灰色のシルト土層である。炭化物、遺物を多く含む

地山ブロックを含んでいる。塊状に入る地山土や遺物の入り方から人為堆積と考えられる。4～6層は灰色を基調にした粘質シルトで、粘性が強く有機質分と水分を多く含む層である。6層では、多くのかわけ片とともに籬木が出土した。下層の6層では土坑一面に広がって大量に出土した。籬木は、立った状態のものから、横になったものまで乱雑な状態で出土した。それぞれ一括して廃棄された状態と考えられるが、廃棄の方向等は確定できない。堆積に厚さがあるものの、分層は難しく、遺物内容からも時間差は不明である。遺物の多くはこの層に含まれる。最下層の7層は粘性の強いグライ化した土層で、井戸跡の堆積土下層と同様の土質である。

堆積土の状況では4～6層が有機質分の多い土層で、かつ6層では籬木を大量に含んでいることから、トイレ状土坑と判断できる。堆積土最下層の7層は井戸跡などと同様の土質で、井戸を廃絶後にトイレ状土坑として転用した遺構と判断できる。なお、柳之御所遺跡内では、井戸跡をトイレ状土坑に転用したと考えられるものは55SK51、56SK33があり、いずれも深さが3m程度である。

遺物はかわらけが13616.7g、陶磁器類が1942g、籬木を中心に木製品が多量に出土した。かわらけは1～3層からは3798g、4層から5031g、6層からは9315.6g出土し、6層から多量に出土していることがわかる。木製品のうち、籬木は628本である。そのうち、かわらけ17点、国産陶器13点、輸入磁器1点、木製品は籬木114点をはじめ、折敷・漆器碗等計161点を図示している。

70SK24 (図17・19)

67-47グリッド付近に位置する土坑である。規模は検出面で長径86cm、短径82cm、底面で直径78cm、深さが62.6cmである。底面標高は27.01mとなる。平面形は円形で、断面形は矩形・台形である。層序は6層に分類した。1・2層は黄褐色の地山ブロックを多く含み、土器片も多く含まれている。黄褐色の地山土の塊状の混じり方などから、人為堆積による土層と考えられる。3・5層は粘性が強く、有機質分と水分を多く含む土質で、人為堆積による廃棄土層と考えられる。4・6層は、壁の崩落によるとみられる地山土を少量含み、自然堆積である。このため、3層以下では自然堆積層と人為堆積層が互層になって確認できる。この土坑は70SK22などと比較した場合に籬木などの遺物が少なく、確定はできないが、3・5層の堆積土の状況からトイレ状土坑と考えられる。後述する自然科学分析からもその可能性が指摘されている。

遺物はかわらけが557g、陶磁器類が1266g出土した。そのうち国産陶器17点、輸入磁器1点を図示している。

56SK40 (図17・19)

67-49グリッド付近に位置する土坑である。56次調査で検出された遺構で、平面形状や上層の土質などからトイレ状土坑の可能性が考えられた。規模は検出面で長径90cm、短径82cm、底面で直径70cm、深さが12.5cmである。底面標高は27.6mである。平面形は円形で、断面形は矩形である。層序は2層に分類した。いずれも自然堆積による堆積で、遺物は土器の細片が出土したのみである。平面形状や土質からトイレ状土坑の可能性があると考え精査したが、堆積土層が薄く確定できない。

遺物はかわらけが161.2g、国産陶器が81.1g出土している。多くは小片で、図示できたものはかわらけ1点、国産陶器1点である。

56SK52 (図17・19)

72-50グリッド付近に位置する土坑である。56次調査で検出された遺構で、平面形状からトイレ状土坑の可能性も考えられた。規模は検出面で長径118cm、短径112cm、底面で直径95cm、深さが

17cmである。底面標高は27.3mとなる。平面形は楕円形である。

層序は3層に分類した。2・3層は黄褐色の地山ブロックを少量含むが、遺物は少なく、崩落等による自然堆積層と考えられる。1層は遺物を多く含むが、土層に締まりがなく、土質からは自然堆積と考えられる。土層はいずれも自然堆積による土層とみられ、遺物は1層からかわらけ片が出土している。平面形状や土質からトレイ状土坑の可能性があると考え精査したが、堆積土や遺物からは確定できない。

遺物はかわらけが498.6g、陶磁器類が32.8g出土した。細片が多く、かわらけは図示できていない。国産陶器2点を図示した。なお、56次調査でもかわらけが80g出土した。

70SX1 (図17・20)

71-51グリッドに位置する。南側の一部を56次調査で検出しており、その際にはピットとして報告された遺構で(P282)、今回の調査で全体を検出した。薄い表土・旧耕作土の直下に、渥美壺やかわらけがまとめて確認できたが、遺構の土層は10cm弱と薄く、耕作等の擾乱により遺構の大部分が削られたと考えられる。

規模は検出面で長径約200cm、短径約155cmの不整形な楕円形である。一部を掘り下げたが、深さは最大で8cmで、底面も平坦ではない。検出時及び断面で観察できた土層の違いから4つの土坑の可能性も考えられるが、削平が著しいため、埋土の違いか遺構の切り合いか確定できない。土層は4層に分類した。いずれの土層もかわらけなどの土器片を多く含む、堆積土には塊状のブロックを含み締まりが強い土質で、堆積が薄く確定できないが人為堆積と考えられる。

検出時に多くの遺物を確認した(図20・25)。3層の上面に、ほぼ完形の渥美壺を確認している(215)。渥美壺は口縁部がなく、倒れた状態で出土した。渥美壺の周囲には壺の口縁部付近を中心に、かわらけ(205～208)が確認された。壺内部の土壌の分析を行っているが(Ⅲ自然科学分析参照)、用途等を特定する明瞭な痕跡は確認されていない。壺には打ち欠き等の痕跡は明瞭には確認できない。

この遺構は、完形に近い渥美壺の出土や周囲のかわらけや堆積土の状況から、祭祀や埋納などの性格をもつ遺構の可能性もあるが、削平が著しく性格は不明である。

遺構検出面で、かわらけ480g、陶磁器類3,143.4gが出土している。そのうちかわらけ4点、国産陶器8点を図示している。また、遺構には伴わないが周辺のグリッドからもかわらけ片や国産陶器が出土している。

(櫻井)

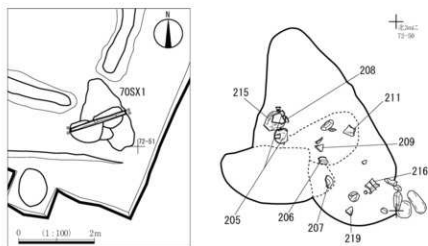


図20 70SX1 遺物出土状況

(3) 出土遺物

北区の出土遺物は全重量で77,650gである。そのうちかわらけが62,751g、国産陶器類が14,149.7g、輸入陶磁器類が279.5g、その他に瓦や木製品が出土している。出土遺物はかわらけが最も多く、約80%を占めている。また、北区は旧耕作土や表土に多くの遺物が含まれており、以前の地形改変で大きく削平を受けたことがわかる。

【土器・陶磁器類】

70SE1 出土土器・陶磁器類

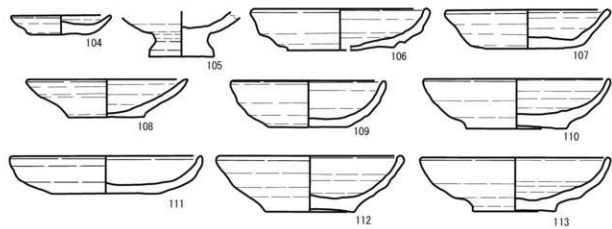
70SE1では主に上層の1～3層から遺物が出土している。ここではかわらけ10点を図示した。104はロクロかわらけの小皿で、口径7.9cm・底径4.5cm・器高1.5cmである。105は小型の柱状高台で、高台部から体部下半の破片である。106～113はロクロかわらけの大皿である。碗形を呈する108・110・112・113と、器高の低い皿形を呈する106・107・109・111がある。また碗形のものでは口径や器高からやや小型の108、大型の110・112・113がある。皿形のものでも、口径が大きい111と、口径がやや小さいその他の2点にわかる。

これらは上層の人為堆積とみられる層位からの出土で、井戸の廃絶後もしくはそれに近い時期の遺物と考えられる。小型の柱状高台が含まれることや、碗形に近い器高の高いロクロかわらけ大皿の器形が特徴的である。手づくねかわらけは破片のみで、破片数も少ない。これらは12世紀中葉の特徴をもつものが多く、その中でもやや古い様相を示す土器群と類似した特徴である。土器群の特徴から、12世紀中葉を前後する時期で、その中でもやや古相の特徴を示すと考えている。

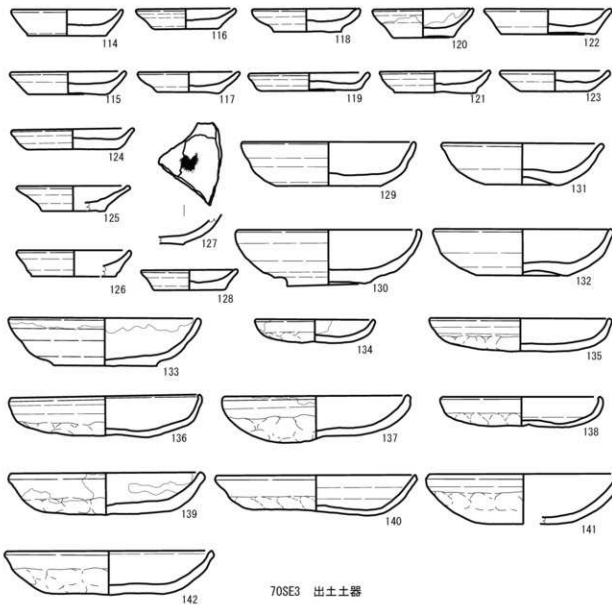
70SE3 出土土器・陶磁器類

70SE3では上層の3～8層から多くの遺物が出土している。ここではかわらけ29点、国産陶器13点、須恵器1点、輸入磁器1点を図示した。

114～128はロクロかわらけの小皿である。器形の特徴や法量値から、いくつか差異が認められる。120は、底径が小さく、器高が2cmを超えるやや器高が高い器形である。119・124は底径が大きく器高が低い、扁平な皿形の器形である。このほかには、器高が2cm以下で低い器形のものも多く、器形などが规格的なものである。127は内面に墨痕が確認できるが、文字か絵とも判別できない。129～133はロクロかわらけの大皿である。131は口径が13cm以下でやや小型の器形だが、その他のものはいずれも口径14cm前後で底径や器高も1cm程度の幅にまとまっており、规格的な傾向がみられる。底部からの立ち上がりでは、いずれも内湾して緩やかに立ち上がるが、130は底部が突出する特徴をもつ。120・133は口縁部付近に油煙が付着する。134は手づくねかわらけの小皿、135～142は手づくねかわらけの大皿である。口径が12.6cmと小さい138、14cm前後の135・137、15cmを超えるものがある。139～142は口径が15cmを超える大型の器形である。16cmを超えるものは1点と少ないが、15cmを超えるものと合わせ口径の大きいものが一定量含まれる点は注目できる。いずれも器高は3cm前後のものも多く、器高の低い皿形の器形が多いが、器高4cmとやや高いものも含まれる。143～155は国産陶器・須恵器で、143～151は渥美窯産、152～155は常滑窯産である。149は甕の口縁部片、その他は体部片である。破片のため、全体の器形がわかるものはない。押印は格子文(147)や三巴文や縦長格子文(148)、平行条線文(145)がみられる。152～155は甕類の体部片である。152は縦方向に軸がかかる。157は白磁碗Ⅱ類の体部片である。二次被熱を受けているが、釉は黄灰色で、胎土はやや青みがかった灰色である。



70SE1 出土土器



70SE3 出土土器



图 21 井戸跡出土土器類実測図

これらは上層の人為堆積とみられる層位からの出土で、井戸の廃絶後もしくはそれに近い時期の遺物と考えられる。ロクロかわらけの大皿では椀形と皿形があり、器高が低くなってきていること、手づくねかわらけの大皿では口径に幅があるが、16cm前後と大きいものも含まれ、12世紀中葉の特徴をもつものが多く、その中でもやや後出の時期とされる土器群にみられる要素が多い。これらから12世紀中葉の中でも後半の時期と考えられる。

70SK22 出土土器・陶磁器類 (図 23)

70SK22 からは、有機質分を多く含む廃棄土層から篝火とともに、かわらけが多量に出土した。158 はロクロかわらけの小皿で、159・160 はロクロかわらけの大皿である。159 はやや器高が高いが、いずれも底径が大きく器高の低い皿形の器形である。163～168 は手づくねの小皿である。口径が7.6～8.6cm と8cm前後で、器高が1.2cm～1.9cm と2cm以下の小型の器形である。底部が平坦に近い形態のもの(163～165)、丸底のものがある(166～168)。169～174 は手づくねかわらけの大皿である。169～173 は口径が13cm以下で12cmを前後するものが多く、器高は3.0cm以下で口径が小さく、縮小した段階である。174 は口径がやや大きく14.5cmである。

175・176 は渥美窯産の甕類の体部で、それぞれ縦長格子文と平行条線文のランダム施文が行われる。177～179、181～186 は常滑窯産の甕、壺類である。182 は甕の体部上半の破片で縦長格子文が帯状連続施文される。183 は甕の口縁部である。薄手のつくりで、口縁部は外に折れ曲がるように開く形態である。頭部は下部が残存していないが、断面形状や軸のかかり方から、口縁部までの頭部が低い形状が推定できる。

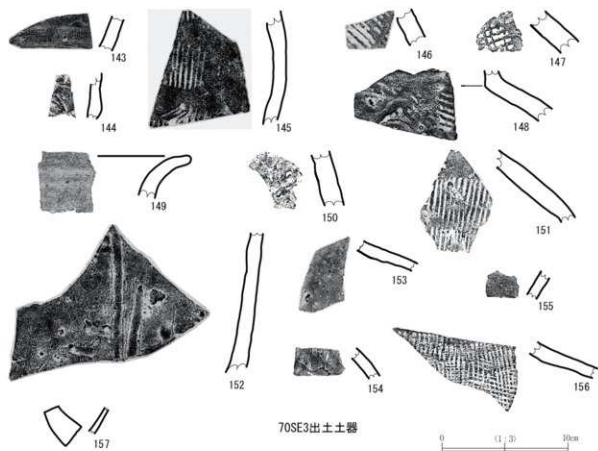


図 22 井戸跡出土土器類実測図 2

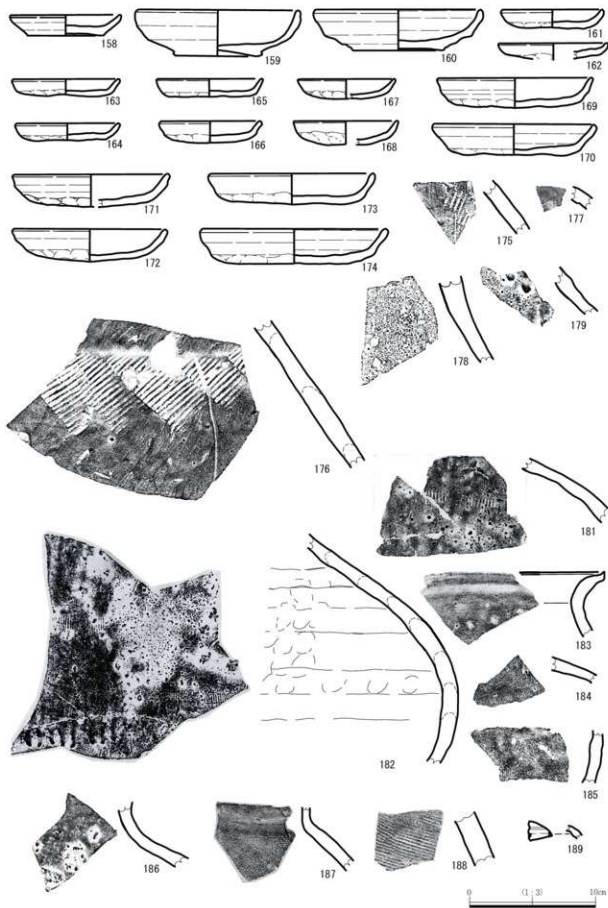


图 23 70SK22 出土土器类实测图

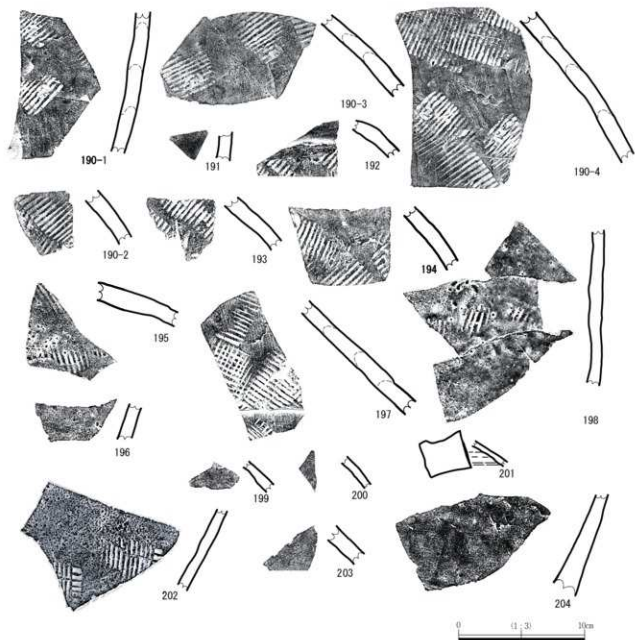


図24 70SK24 出土土器類実測図

70SK22 出土遺物では、手づくねかわらけの大皿では口径が12cm 前後の小さいものが多く、手づくねかわらけの小皿でも同様に口径が8cm 前後と小さいものが多い。参考として平均値をみると、手づくねかわらけ大皿は口径 12.6cm・器高 2.5cm に、手づくねかわらけ小皿は口径 8.1cm・器高 1.7cm になる。これは柳之御所遺跡で出土するかわらけの中でも、最も縮小化した段階に近い値である。ロクロかわらけも含め、これらのかかわらけの特徴は 12 世紀後半段階と考えられる土器群と共通した特徴を示す。ここでは 12 世紀後半の時期と考えている。これは国産陶器の特徴から考えられる時期とも大きく矛盾しない。また、国産陶器では、北区では渥美窯産が多く出土したが、この遺構では常滑窯産が多く出土し注目できる。

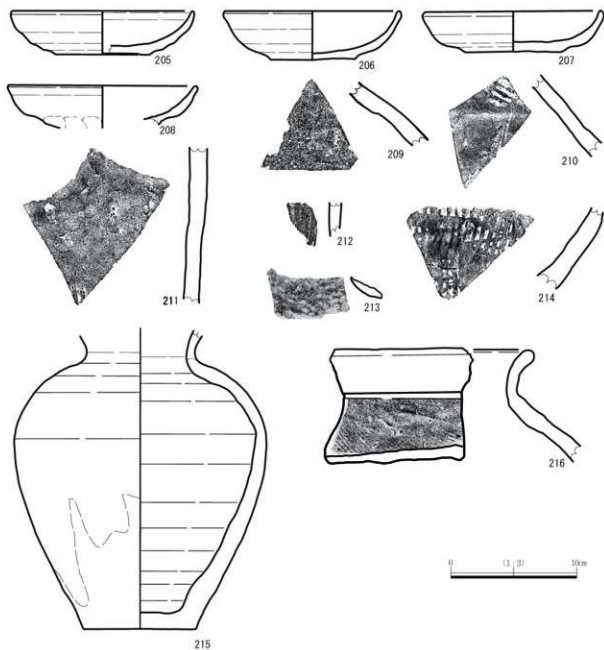


図25 70SX1 出土土器類実測図

70SX1 出土土器・陶磁器類

70SX1 としての遺構から出土した。215 渥美壺は倒れた横位の状態で確認でき、206・208 の 2 つのかわらけがその口縁部付近で出土した。205～207 はロクロかわらけの大皿である。206 は器高の高い椀形の器形だが、内湾して立ち上がるものである。205・207 は器高がやや低く、207 は底径が 7.7cm である。208 は手づくねかわらけの大皿で、口径が 15.1cm とやや大きい値である。215 は渥美窯産の壺である。口縁部を欠いているが、頸部から底部にかけてほぼ完形に近く残存する。器形は、やや肩が張る部分もあるが全体になで肩で、体部に押印はみられず、頸部から底部までほぼ全面に施軸される。体部は内外面ともに横方向のナデで、外面は一部に弱いケズリ調整の可能性がある。周囲で確認された陶器類は接合していない。器高は残存高で 23.6cm、底径 9.1cm、胴部最大径が 20.1cm である。

209～214は渥美窯産の甕や壺の体部片である。216は壺の口縁部で、胎土の特徴が他のものと異なる。異なる産地のものと考えられるが、遺跡内でも類似のものが少ない。

これらの特徴では、かわらけは個体数が少ないが、ロクロかわらけと手づくねかわらけがあり、ロクロかわらけは口径14cm前後、器高3.5cm、底径7.1cmである。12世紀中頃にみられる特徴が多くみられるが、渥美壺は口縁部の欠損やかわらけの個体数の少なさなど不明確な点もある。渥美壺は生産地に大アラコ窯も想定され、年代がややさかのぼる可能性もある。ここでは70SX1を一つの土器群として、やや時間幅を広く12世紀中葉を前後する段階と考えておく。

その他出土土器・陶磁器類

70SK24からはかわらけが557g出土したが小破片で、器形の図示可能なものはない。国産陶器12点、輸入磁器1点を図示した。190～195は渥美窯産で、甕類の体部片である。口縁部、頸部はなく、押印も平行条線文と縦長格子文のランダム施文が多い。199・200・202は常滑窯産の甕類体部片である。格子文と縦長格子文が組み合わせて施文される。201は白磁壺類の胴部片である。70SK20からはかわらけが265.3g出土したが小破片で、器形が復元図示可能なものはない。国産陶器2点を図示した。203は渥美窯産の甕体部片、204は須恵器系陶器の体部片である。56SK40からはかわらけ1点(223)、国産陶器1点を図示した(180)。56SK52からは国産陶器2点を図示した(226・227)。

この他、精査していない遺構から出土したかわらけを8点(217～222・224・225)、国産陶器・須恵器を13点(228～240)、輸入磁器を1点図示した(241)。いずれも検出面及び、1層からの出土である。国産陶器では渥美窯産が7点、常滑窯産が3点、須恵器が3点である。また、表土掘削時や事前の試掘時に出土した遺物のうち、輸入陶磁器を8点、国産陶器類を図示した。渥美窯産が61点、常滑窯産が27点、その他の須恵器系陶器・須恵器などが12点である。347は、70次調査区の西側に設定した試掘トレンチの表土からの出土だが、古瀬戸の可能性がある。なお、この範囲は平成22年度に実施した72次調査の範囲と重なる。

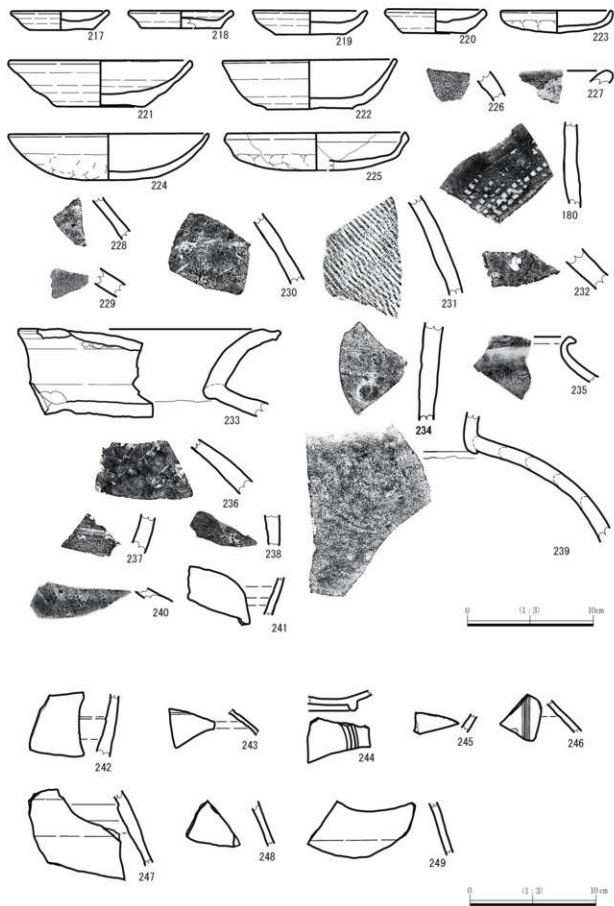


图 26 遺構出土土器類・遺構外出土陶磁器類実測図

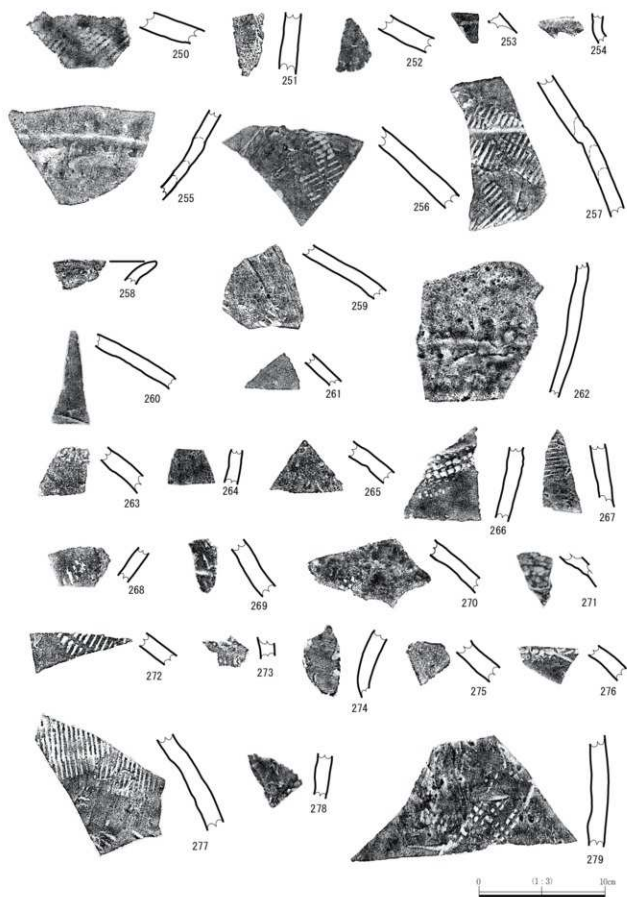


图 27 遺構外出土陶磁器実測図 1

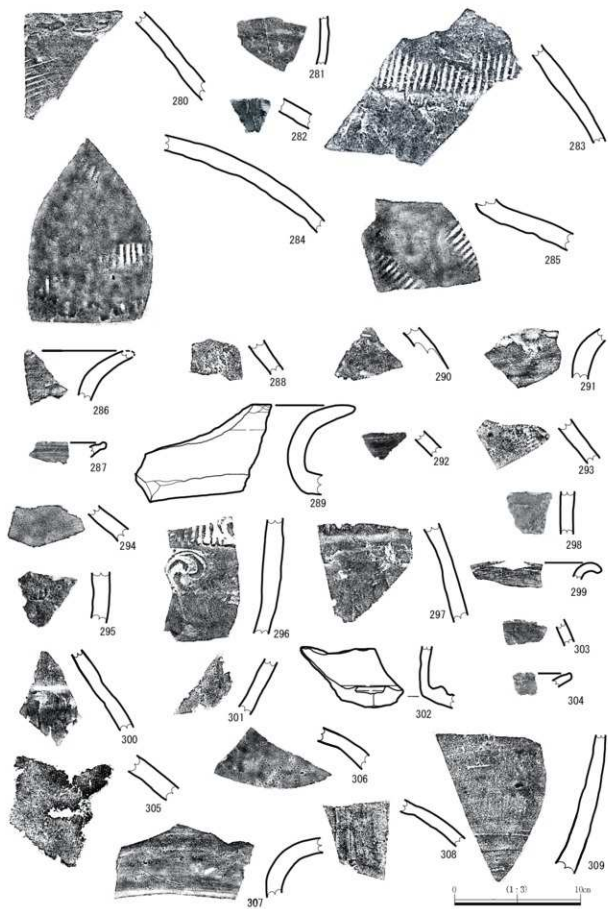


图28 遺構外出土陶磁器実測図2

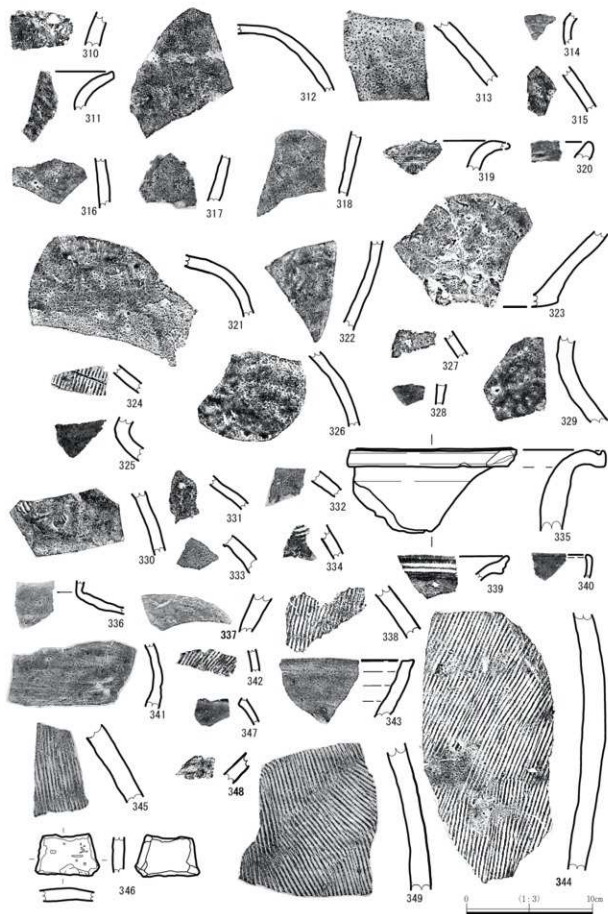


図29 遺構外出土陶磁器実測図3

【瓦】(図 30)

軒瓦は出土していないが、柳之御所遺跡からは瓦の出土が少ないため、小破片でも図示可能なもの 6 点を図示した。丸瓦 (350) は凸面に縄タタキ目、凹面に布目痕があり、南区出土の丸瓦 (94) と同じ種類のものである。平瓦 (351～355) はいずれも小破片だが、凸面凹面の両面に離れ砂があるもの (351～353)、凸面に縄タタキ目があり凹面に糸切り痕があるもの (354) があり、製作時の痕跡から分類が可能である。 (櫻井)

【木製品】(図 31～34)

70SE3・70SK22 から出土しているが、70SK22 からの出土量が圧倒的に多い。種別は、折敷・籌木・部材・曲げ物・栓・紡輪・その他、漆製品があり、164 点を掲載した。

折敷 (356・357・360～379) 薄い板状で、残存幅が 2.0cm 以上のものを一括した。籌木として転用する途中のものも多く、完形品は 356 のみである。356 はややいびつな長方形で、両面に刃物痕が明瞭に残る。370 は棧の留め穴が残存している。361・366 には墨書が認められる。360 にも墨書のような痕跡が認められるが判然としない。379 は棧と考えられる棒状の材である。

籌木 (380～493) おおむね幅が 2.0cm 以下の棒状の製品を籌木とした。645 点登録しており、今回出土した木製品の 8 割近くを占める。多くが折敷からの転用品と考えられ、381・382 については接合関係にある。形状と小口部の加工方法によって 5 類に分類した。なお、D・E 類は著など他の棒状の製品の可能性もあるが、今回は籌木とした。

A 類…一方の端部に面取り加工を施すもの (380～405)

B 類…両側の端部に面取り加工を施すもの (406～427)

C 類…端部に面取り加工を施さないもの (428～469)

D 類…幅が 1.0cm 以下で、一方の端部が細くなるもの (470～485)。幅広い方の端部に面取り加工が施されるものもある (472～476)。

E 類…側面全体を面取りして横断面形が多角形状になるもの (486～493)

A～C 類は側面に面取り加工を施すものがあり、観察表では○類と表記している。出土量が最も多いのは C 類 (375 点) で、次いで A 類 (131 点)、D 類 (85 点)、B 類 (46 点)、E 類 (8 点) となっており、加工が簡略化されたものほど点数が多い。横幅は 0.3～2.3cm と幅があるが、特に 0.5～1.0cm のものが多く全体の 7 割近くを占める。完形品をみると、長さは 18～21cm のものが約 3 割と主体となるが、一方で欠損品と考えられる長さ 14cm 以下のものも全体の約 3 割を占めている。

折敷からの転用品の中には墨書や墨痕が認められるものがある (380～382・396・428・444・469)。このうち 381・382 は接合し、平仮名で「このち□□□□□□□□」と書かれているが、他は断片もしくは墨が薄いため読み取ることができない。

部材 (494) 仕口が認められるもので、格子の一部と考えられる。

曲げ物 (495) 円形曲げ物の側材が 1 点出土している。黒く変色している部分が 4 箇所ありここで留められていたと考えられる。

栓 (496) 容器の口を塞ぐ道具である。螺子頭状で、削り出し成形である。

紡輪 (497) 機織に使用された道具で、小型の円盤状である。

その他 (498～516) 加工痕跡はあるが形状・用途を特定できないものを一括した。498 は題籤状木製品の頭部の可能性があるが、軸部は欠損している。500 は薄い板状の材に溝状の加工が多量に施されたものであるが、用途は不明である。501・502 は角柱状の材で、部材の可能性もある。516 は板状の竹製品である。一端が削られて細くなっているが、用途は不明である。この他、505～515 のよ

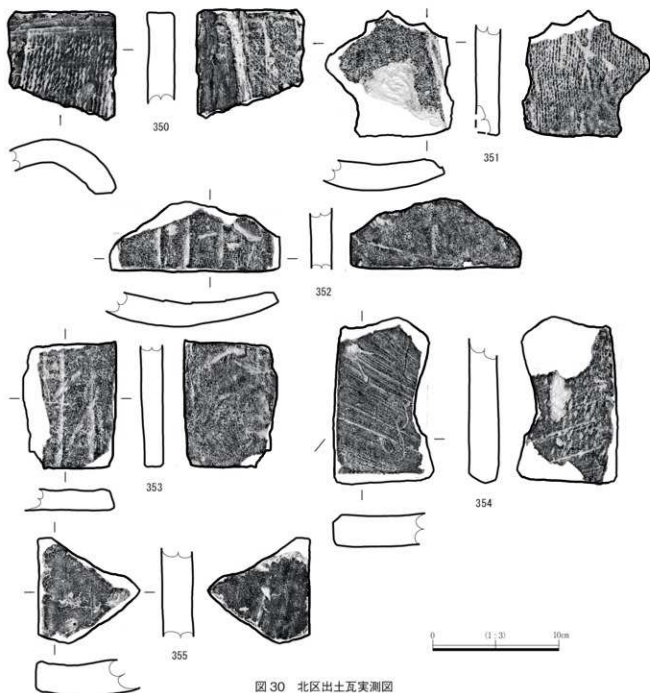


図30 北区出土瓦実測図

うに端部や側面が焼け焦げているものがある。

漆椀 (359・517) 359は70SE3から出土した底部付近の破片である。高台を除いて内面に黒漆が塗布される。高台内は腐朽のため黒く変色している。517は70SK22から出土した口縁部から体部の破片である。体部外面中央には明瞭な稜線が認められる。外面に黒漆、内面に赤漆?が塗布される。

その他 (518～520) 518は刀子・小刀等の柄の残欠の可能性がある。断面形が扁平な半円形で、外面に黒漆が残存している。519・520は箱の残欠の可能性がある。側面が面取りされており、黒漆が残存している。

種子 70SK22の4層から出土している。

【鉄製品】

刀子 (70RM1) 70SK25の検出面から出土した関部の破片である。今回は写真掲載とした。(村田)

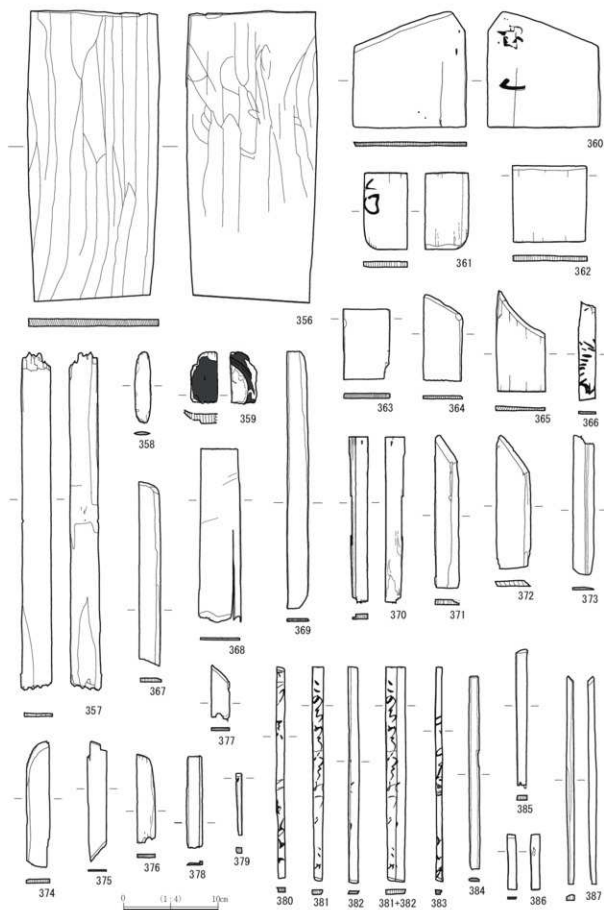


图 31 北区出土木製品実測图 1

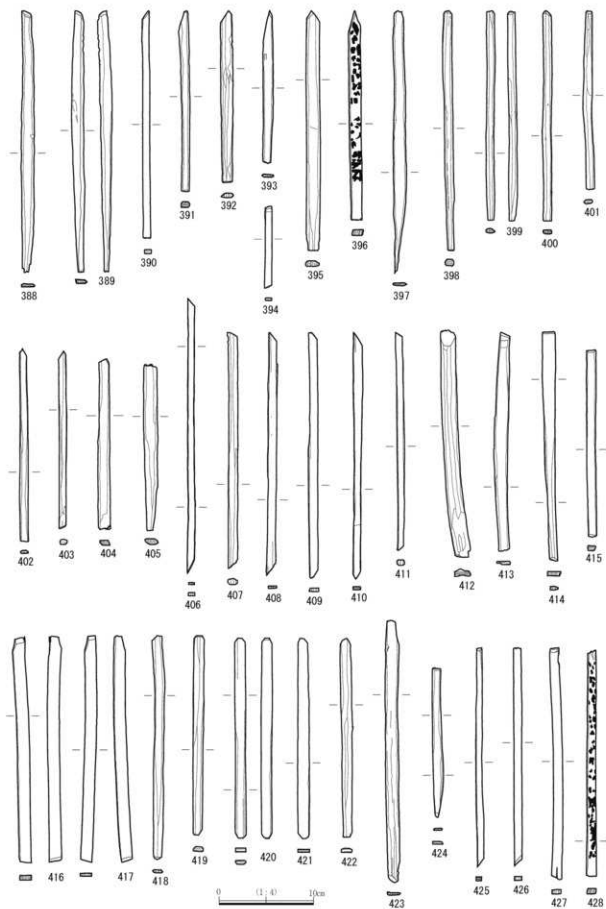


图 32 北区出土木製品実測図 2

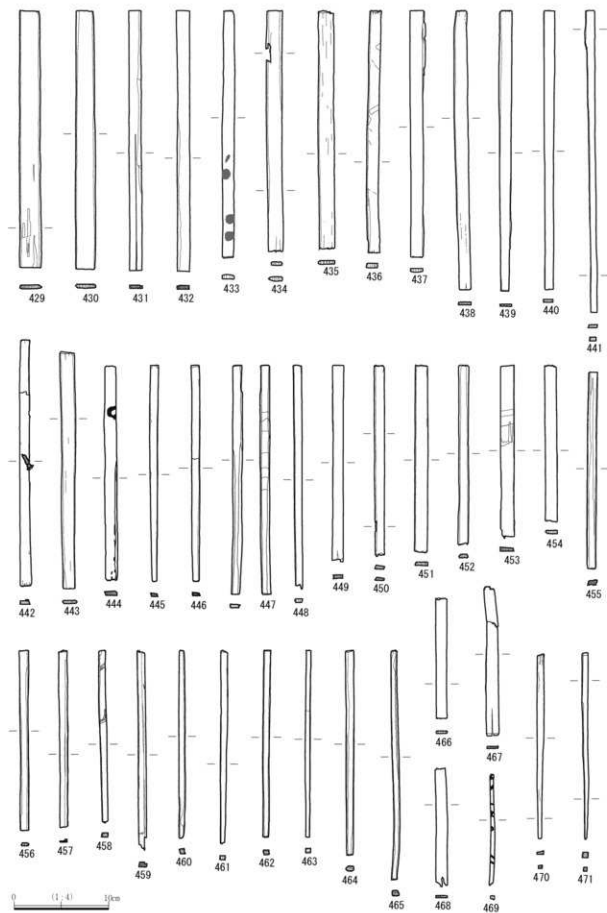


图 33 北区出土木製品実測图 3

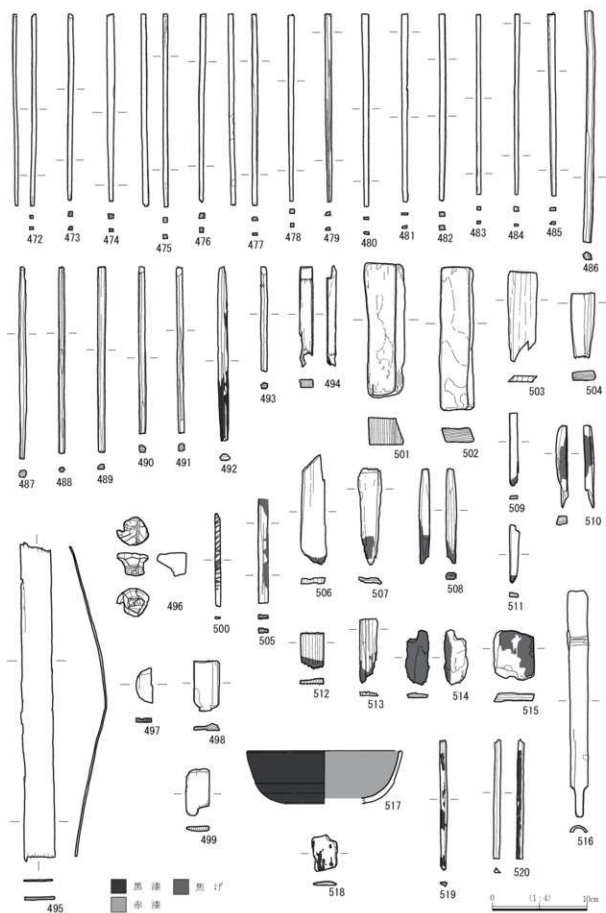


图 34 北区出土木製品実測图 4

Ⅲ 自然科学分析

パリオ・サーヴェイ株式会社

はじめに

柳之御所遺跡第70次調査は、堀内部地区の南区（調査区②）と北区（調査区①）で実施された。このうち北区では、トイレ状遺構20基（以下「トイレ遺構」と表記）、井戸3基をはじめ、土坑や柱穴などが検出されている。そのうちトイレ遺構からは種子類や木が検出され、排泄物を廃棄した遺構と考えられている。一方南区では堀跡が確認され、少なくとも4回の改修が行われたと考えられており、敷土工法とよばれる粗朶を引き結める土木技法が確認されている。

今回の分析調査では、堀跡出土の橋部材の年代観を知る目的で、放射性炭素年代測定を実施する。また渥美壺の内容物に関する情報を得る目的で、脂質分析を実施する。さらにトイレ遺構については、花粉分析、寄生虫卵分析、種実分析を行い、当時の食物利用状況等に関する資料の作成を行う。なお、これに関しては当初仕様書には指定されていなかったが、当社ではその効果を期待して脂質分析を追加実施した。一方井戸遺構に関しては、花粉分析、寄生虫卵分析、種実分析を行い、当時の古植生や植物利用状況に関する情報を得るとともに、トイレ遺構との比較検討材料とした。

また堀跡出土の材木列等の用材に関する情報を得るために、樹種同定を実施する。さらに、各遺構覆土試料より洗浄済みの種実遺体の同定を行い、上記の井戸やトイレ遺構試料の土壌洗浄によって得られた種実遺体の同定結果と合わせて、当時の植物利用状況に関する情報を作成した。

1 試 料

放射性炭素年代測定用試料は、堀（21SD2）出土の炭化物1点（No.774）である。花粉分析ならびに寄生虫卵分析は、トイレ遺構5点（SK22 4層、SK22 5層、SK24、56SK51、SE1 5層）と井戸跡（SE3）の6点（No.779、782、778、777、770、771）の土壌試料を対象とする。種実同定は、花粉分析試料と同試料6点について、水洗選別による種実の抽出、同定を行う。さらに、すでに洗浄済の状態の植物遺体試料16点（No.618、620、621、622、623、624、625、626、629、630、631、632、633、634、635、723）を分析対象とする。

樹種同定試料は、堀跡（21SD2）から検出された材木列の杭2点と敷き詰められていた樹木片3点である。このうちNo.734には、分割材状を呈する木片や枝状の木片が10点以上認められたため、分割材状1点と枝状木片から無作為に選択した4点の合計5点について同定を行う。No.789は、枝状の木片数片と樹皮と考えられる多数の植物遺体が認められたため、枝状の木片から最も状態の良い1点を選択した。No.788は、樹皮や葉等の植物遺体が密集した状態の中から、木片1点を抽出した。年代測定を実施した炭化物（No.774）は、観察した中に炭化材が認められたため、樹種同定に含めて同定を行う。

骨試料は、SE3から出土した動物骨の1点（No.766）である。土塊状で複数点の骨片がみられる。脂質分析用試料は、渥美壺内部の土壌1点である（No.774）。なお、当初仕様書に指定されていなかったが、トイレ遺構の利用状況に関する情報を充実させる目的で、トイレ遺構4点（SK22 4層、SK22 5層、SK24、56SK51）について分析対象とした（No.779、782、778、777）。

2 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

ピンセット、超音波洗浄機等を用いて表面付着物を物理的に除去したあと、塩酸と水酸化ナトリウムで洗浄し、試料内部の汚染物質を化学的に除去する (AAA 処理)。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅 (II) と銀箔 (硫化物を除去するため) を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃ (30分) 850℃ (2時間) で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置 (NEC Pelletron 9SDH-2) を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局 (NIST) から提供されるシュウ酸 (HOX-II) とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定と同時に¹³C/¹²Cの測定も行うため、この値を用いてδ¹³Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代 (BP) であり、誤差は標準偏差 (One Sigma 68%) に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0 (Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer) を用い、誤差として標準偏差 (One Sigma) を用いる。

(2) 花粉分析・寄生虫卵分析

分析は、金原・金原 (1992) 等を参考に処理を行った。試料10ccを正確に秤り取り、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液 (臭化亜鉛、比重2.3) による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物粒の溶解、アセトリシス (無水酢酸9、濃硫酸1の混合液) 処理によるセルロースの分解、の順に物理・化学的処理を施す。処理後の残渣を定容してから一部をとり、グリセリンで封入してプレバートを作成する。試料中の花粉化石含量と寄生虫卵含量が異なる場合は、濃度を変えてそれぞれプレバートを作成し、同定を行う。含量に差がない場合は、1枚のプレバートを用いて、花粉化石、寄生虫卵を同時に計数する。また、分析残渣中の花粉化石量や寄生虫卵量を測定するため分析量や分析残渣量、プレバート作成量などを精密に測定し、1ccあたりの含量が求められるようにする。寄生虫卵の同定に際しては、当社保有の現生標本の他、佐伯ほか (1998)、斉藤・田中 (2007) 等を参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表、および花粉化石・寄生虫群集の分布図として表示する。花粉分析に関しては、総数から不明花粉を除いた数を基数として百分率で図示する。寄生虫卵に関しては、1cc当たりの寄生虫卵量に換算した値で示す。

(3) 種実分析

土壌試料は、200ccを水に浸し、粒径0.5mmの篩を通して水洗する。篩内の試料を粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて同定可能な種実や葉などの大型植物遺体を抽出する。

抽出された大型植物遺体を双眼実体顕微鏡下で観察する。現生標本および石川 (1994)、中山ほか (2000) 等の図鑑との対照から、種類と部位を同定し、個数を数えて表示する。実体顕微鏡下による

区別が困難な複数の分類群は、ハイフォンで結んで表示する。試料中に確認された木材は個数または容量を、炭化材は70℃ 48時間後の重量と最大径を表示する。分析後は、抽出物を種類毎に容器に入れて保管する。種実遺体は、70%程度のエタノール溶液で液浸保管する。

(4) 樹種同定

生木は、剃刀の刃を用いて木口(横断面)・柃目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラル(抱水クロラル、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入し、プレバートを作製する。作製したプレバートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。炭化材は、自然乾燥させた後、3断面の剖断面を作製して実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。各試料の観察で確認された特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称と特徴は、鳥地・伊東(1982)やWheeler他(1998)を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

(5) 骨同定

試料に付着した土壌は、外すと骨自体が破片となるおそれがあったため、可能な限り土壌分を除去した後、試料を肉眼で観察して、その形態的特徴から種類および部位の特定を行う。

(6) 脂質分析

分析は、坂井ほか(1996)に基づき、脂肪酸およびステロール成分の含量測定を行う。試料が浸るに十分なクロロホルム:メタノール(2:1)を入れ、超音波をかけながら脂質を抽出する。ロータリーエバポレーターにより、溶媒を除去し、抽出物を塩酸-メタノールでメチル化を行う。ヘキササンにより脂質を再抽出し、セップバックシリカを使用して脂肪酸メチルエステル、ステロールを分離する。脂肪酸のメチルエステルの分離は、キャピラリーカラム(UPLBON,HR-SS-10,内径0.25mm,長さ30m)を装着したガスクロマトグラフィー(GC-14A,SHIMADZU)を使用した。注入口温度は250℃、検出器は水素炎イオン検出器を使用する。ステロールの分析は、キャピラリーカラム(J&W SCIENFIC,DB-1,内径0.36mm、長さ30m)を装着する。注入口温度は320℃、絡む温度は270℃恒温で分析を行う。キャリアガスは窒素を、検出器は水素炎イオン化検出器を使用する。

3 結果

(1) 放射性炭素年代測定

同位体効果による補正を行った測定結果は、 $905 \pm 30BP$ である(表5)。暦年較正とは、大気中の

表5 放射性炭素年代測定

試料名	種類	補正年代 BP	$\pm 1\sigma$ C (%)	校正用 年代値	暦年較正年代 (cal)				相対比	Code No.	
					σ	cal AD 1046	- cal AD 1092	cal BP 904			- 858
21532 No.774	炭化材 (方エギ)	910 \pm 30	29.57 \pm 0.65	905 \pm 25	σ	cal AD 1046	- cal AD 1092	cal BP 904	- 858	0.565	IAAA-93255
						cal AD 1120	- cal AD 1140	cal BP 830	- 830	0.208	
						cal AD 1148	- cal AD 1169	cal BP 802	- 781	0.227	
					2 σ	cal AD 1039	- cal AD 1190	cal BP 911	- 760	0.967	
				2 σ	cal AD 1197	- cal AD 1207	cal BP 753	- 743	0.033		

1) 年代値の算出には、Libbyの手続期1968年を使用。

2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。

3) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

4) 暦年較正には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0 (Copyright 1996-2010 M Stuiver and P Reimer) を使用

5) 暦年較正には共に示した丸める前の値を使用している。

6) 暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改訂された場合の再計算や比較が行いやすいように、1冊目を丸めていない。

7) 統計的に真の値が入る確率は σ は68%、2 σ は95%である

8) 相対比は、1 σ 、2 σ のそれぞれを1とした場合、標準的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

表6 花粉分析結果

種 類	SK22	SK22	SK24	56SK52	SEI	SE3
	4層 779	5層 782	4層 778	1層 777	5層 770	4層F 771
木本花粉						
モミ属	4	3	-	-	4	5
ツガ属	1	5	1	-	25	41
トウヒ属	2	6	-	2	211	86
マツ属単維管束亜属	-	-	-	-	7	4
マツ属複維管束亜属	1	1	-	2	2	5
マツ属(不明)	7	7	2	3	43	77
スギ属	9	4	6	2	3	4
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	-	-	-	-	1	-
ヤマモモ属	-	-	-	-	10	3
サワグルミ属	1	-	-	1	-	2
クルミ属	-	-	-	-	-	1
クマシダ属-アサダ属	-	-	1	-	1	-
ハシバミ属	-	-	1	-	-	-
カバノキ属	-	-	-	-	1	-
ハンノキ属	3	1	-	-	5	3
ブナ属	1	-	4	-	-	-
コナラ属コナラ亜属	1	1	-	-	-	6
コナラ属アカガシ亜属	1	1	-	-	-	-
クリ属	1	-	1	-	-	1
シイ属	-	1	-	-	-	-
ニレ属-ケヤキ属	1	1	1	-	-	5
エノキ属-ムクノキ属	-	-	-	-	1	-
ツタ属	-	-	2	7	1	-
ノボドウ属	-	1	1	-	-	-
ウコキ科	-	-	1	-	1	-
ツツジ科	-	-	-	-	4	1
クサキ属	-	-	-	-	-	1
草本花粉						
ガマ属	1	-	-	-	-	-
サジオモダガ属	-	-	-	-	-	1
イネ科	286	251	43	44	4	59
カヤツリサ科	11	9	2	2	24	14
クワ科	2	1	1	-	-	8
サナエタデ節-ウナギツカミ節	10	3	8	10	-	13
ツバ属	1	-	1	3	-	1
アカザ科	47	-	17	13	-	9
ナデシコ科	1	-	8	2	-	1
カラマツソウ属	-	-	-	-	1	-
キンボウゲ科	-	-	-	-	-	1
アブラナ科	2	1	6	1	-	-
ワレモコウ属	-	-	-	-	2	-
マメ科	-	-	6	1	-	-
アリノトウグサ属	-	-	-	-	-	1
セリ科	1	-	-	-	-	2
ネナシカズラ属	1	-	-	-	-	-
オオバコ属	1	-	1	-	-	1
ヤエムグラ属-アカネ属	-	-	6	-	-	-
ヨモギ属	20	22	6	6	2	19
オナモミ属	1	-	-	2	-	4
ベニバナ属	1	1	-	5	-	2
キク亜科	2	8	-	1	1	9
タンポポ科	1	-	-	-	3	5
不明花粉	4	6	1	5	-	7
シダ類孢子						
ヒカゲノカズラ属	-	-	-	-	13	-
ゼンマイ属	-	-	-	-	-	32
ミズニラ属	-	-	-	-	-	1
他のシダ類孢子	37	41	20	45	14	-
合 計						
木本花粉	33	32	21	17	320	-
草本花粉	389	296	105	90	37	-
不明花粉	4	6	1	5	0	-
シダ類孢子	37	41	20	45	27	-
総計(不明を除く)	459	369	146	152	384	-

^{14}C 濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い(^{14}C の半減期 $5,730 \pm 40$ 年)を校正することである。暦年校正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年校正プログラムや暦年校正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。暦年校正は、測定誤差 σ 、 2σ 双方の値を計算する。 σ は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。暦年校正値は、測定誤差が σ の場合はcalAD1,046-1,169、測定誤差が 2σ の場合はcalAD1,039-1,207である。

(2) 花粉分析

結果を表6、図35に示す。図表中で複数の種類をハイフォンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。花粉化石はいずれの試料からも産出するものの、産出傾向は試料により異なる。

SK22の2試料番号779,782、SK24の試料番号778、56SK52の試料番号777は、いずれも草本花粉が優占する。群集組成はいずれも類似しており、イネ科が多産あるいは優占し、カヤツリグサ科、サナエタデ節-ウナギツカミ節、アカザ科、ナデシコ科、アブラナ科、ヨモギ属等を伴う。また、栽培種ではソバ属、ペニバナ属が認められる。また、イネ科花粉の中にもイネ属の形態を有する花粉が検出される。木本花粉では、モミ属、トウヒ属、マツ属、スギ属、ハンノキ属、ブナ属、ツタ属等が検出される。

SK4の試料番号770では、木本花粉が優占し、トウヒ属が多産する。その他ではツガ属、マツ属、ヤマモモ属、ハンノキ属、ツツジ科等を伴う。草本花粉は、少ないながらもイネ科、カヤツリグサ科、タンポポ亜科等が認められる。

SE3の試料番号771では、群集組成はSK4の試料番号770に似るが、草本花粉の割合がやや高くなる。木本花粉ではツガ属、トウヒ属、マツ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ属等が、草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科、サナエタデ節-ウナギツカミ節、ヨモギ属、キク亜科等が多く認められる。本試料からもソバ属、ペニバナ属、イネ属が検出される。

(3) 寄生虫卵分析

結果を表7、図36に示す。SE1の試料番号770以外の5試料からは、寄生虫卵が検出された。検出された寄生虫卵は、線虫類の回虫卵、鞭虫卵、吸虫類のウエステルマン肺吸虫卵、宮崎肺吸虫卵、楡形吸虫卵、糸虫類の日本海裂頭糸虫卵の6分類群である。なお、分類群不明の寄生虫卵が3種類認められたため、それぞれ不明寄生虫卵A～Cとした。不明寄生虫卵Aは、卵蓋の形態は楡形吸虫卵に似るが、楡形吸虫卵に特徴的な卵蓋側と反対の端(尾端)で膜が厚

表7 寄生虫卵分析結果

種 類	SK22		SK24	56SK52	SE1	SE3
	4層	5層	4層	1層	5層	4層下
試料番号	779	782	778	777	770	771
線虫類						
回虫卵	<100	700	7300	<100	0	<100
鞭虫卵	<100	200	4800	0	0	<100
吸虫類						
ウエステルマン肺吸虫卵	0	0	<100	0	0	0
宮崎肺吸虫卵	0	0	100	0	0	0
楡形吸虫卵	0	<100	100	0	0	0
糸虫類						
日本海裂頭糸虫卵	<100	900	2300	0	0	0
不明						
不明寄生虫卵A	0	0	<100	0	0	0
不明寄生虫卵B	0	100	100	0	0	0
不明寄生虫卵C	0	0	<100	0	0	0
合 計						
寄生虫卵	100	1900	14800	<100	0	<100
花粉化石	3600	5500	1400	300	32400	1800

1) 寄生虫卵含量は、10の位で丸めて100単位とする。

2) <100:100個/cc未満。

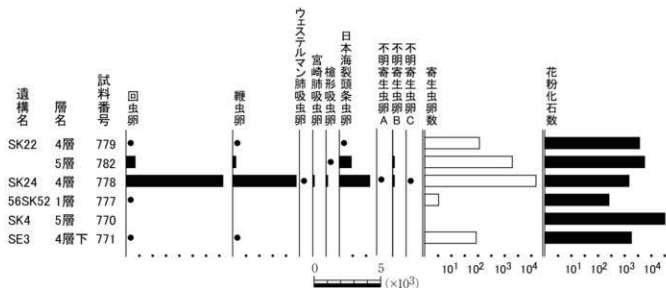


図 36 寄生虫卵群集

堆積物1ccあたりの個数を示す。なお、●は100個未満を示す。

くなる傾向が認められない。不明寄生虫卵 B 宮崎肺吸虫卵や日本海裂頭条虫卵に形態は似るが、決め手に欠けるために不明とする。不明寄生虫卵 C は、卵蓋が明瞭であり、両端で膜が厚くなる形態を示す。試料ごとの検出状況を見ると、SK22 の試料番号 779 からは回虫卵、鞭虫卵、日本海裂頭条虫卵が検出されるが、いずれも 1cc あたり 100 個体未満で、寄生虫卵総数は約 100 個 /cc である。なお、花粉化石の総数は約 3600 個 /cc であった。

同じく SK22 の試料番号 782 からは回虫卵が約 700 個 /cc、鞭虫卵が 200 個 /cc、榎形吸虫卵が 100 個体未満、日本海裂頭条虫卵が約 900 個 /cc、不明寄生虫卵 B が約 100 個 /cc 検出され、寄生虫卵総数は約 1,900 個 /cc である。なお、花粉化石の総数は約 5,500 個 /cc であった。

SK24 の 4 層からは寄生虫卵が大量に産出し、総数は約 14,800 個 /cc であった。多産する種類は、回虫卵が約 7,300 個 /cc、鞭虫卵が約 4,800 個 /cc、日本海裂頭条虫卵が約 2,300 個 /cc であり、その他のウエステルマン肺吸虫卵、宮崎肺吸虫卵、榎形吸虫卵、不明寄生虫卵 A ~ C は、約 100 個 /cc ~ 100 個体未満である。なお、花粉化石の総数は約 1,400 個 /cc であった。

56SK52 の試料番号 777 では回虫卵が 100 個体未満検出され、花粉化石の総数も約 300 個 /cc と少ない。

SE1 の試料番号 770 からは寄生虫卵が 1 個体も検出されなかったが、花粉化石は約 32,400 個 /cc と多量に産出する。

SE3 の試料番号 771 では回虫卵、鞭虫卵が検出されるが、いずれも 100 個体未満で、総数でも 100 個体未満である。なお、花粉化石の総数は約 1,800 個 /cc であった。

(4) 種実分析

結果を表 8 に、洗浄済試料の結果を表 9 に示す。全試料を通じて、裸子植物のバラモミ節の針葉 30 個と、被子植物 50 分類群 (落葉広葉樹のオニグルミ、クリ、アケビ属、サルナシ近似種、マタタビ近似種、マタタビ属、キイチゴ属、モモ、サンショウウ属、キブシ、アキグミ、タラノキ、草本のサジオモダカ属、オモダカ科、イボクサ、イネ、ヒエ近似種、エノコログサ属、イネ科、ウキヤガラ近似種、ホタルイ属、カヤツリグサ属、カヤツリグサ科、ミズ属、ギシギシ属、イヌタダ近似種、サ

ナエタデ近似種、タデ属、スベリヒユ科、ナデシコ科、アカザ科、ヒユ科、タガラシ、アブラナ科、キジムシロ属-ヘビイチゴ属-オランダイチゴ属、カタバミ属、メロン類（モモルディカメロン型、マクワ・シロウリ型、雑草メロン型）、ヤブヅラミ属、セリ科、サクラソウ科、アカネ科、イヌコウジュ属、シソ属、エゴマ、メハジキ属、ナス近似種、ナス科、メナモミ属、オナモミ属、キク科）2305個の種実が検出された。その他に、種類や部位の特定に至らなかった不明種実33個、樹皮、木材、炭化材、木材組織が確認されない不明の炭化物、シダ植物の葉、蘚苔類、植物の地下茎、昆虫、動物遺存体？、土器が確認された。

大型植物遺体群は、栽培種を含む可食種実が多い。栽培種は、モモの核8個、イネの穎548個、胚乳9個、ヒエ（近似種）の穎・胚乳1個、メロン類の種子279個（モモルディカメロン型17個、マクワ・シロウリ型126個、雑草メロン型11個）、エゴマの果実2個、シソ属の果実7個、ナス（近似種）の種子121個が確認され、イネの胚乳と穎35個、ヒエ近似種は炭化している。野生種の可食種実は、オニグルミの核16個、クリの果実4個、アケビ属の種子1個、サルナシ（近似種）の種子80個、キイチゴ属の核135個、アキグミの種子4個が確認され、オニグルミ2個とクリは炭化している。上記の有用植物を除いた分類群は、明るく開けた場所に生育する、いわゆる人里植物に属する草本主体で、サジオモダカ属、オモダカ科、イボクサ、ウキヤガラ近似種、ホタルイ属などの水生植物や、ミズ属、タガラシなどの湿生植物もみられる。以下に、遺構別の検出状況を記す。

・SK20 1層 (No.629)

表面が炭化したオニグルミの破片1個が検出された。

・SK22

洗浄済試料では、5層（下層）から栽培種のモモ2個（No.620.630）、5層から栽培種のナス近似種106個、メロン類29個、イネの穎1個、野生種で可食種実のアケビ属1個（以上No.723）、頂・側部欠損がみられるオニグルミ10個（No.622.626）、4層から表面が炭化したオニグルミ1個（No.631）が検出された。

土壌試料では、5層（No.782）から栽培種のモモ1個、イネの穎369個（15個炭化）、胚乳？1個、ヒエ近似種1個、シソ属5個、ナス近似種4個が確認されたほか、落葉低木のキイチゴ属、キブシ各1個、水生植物のサジオモダカ属、イボクサ各1個、アカザ科81個を含む中生草本142個が検出された。4層（No.779）からは、栽培種のイネの穎8個（5個炭化）、胚乳2個、メロン類2個、エゴマ1個、ナス近似種3個が確認されたほか、木本3分類群（炭化したクリ、落葉低木のキブシ、落葉藤本のマタタビ近似種、マタタビ属）10個、水生植物のオモダカ科、イボクサ、ウキヤガラ近似種各1個、ホタルイ属6個、アカザ科99個を含む中生草本125個が検出された。

・SK24 4層 (No.778)

栽培種のメロン類248個、ナス近似種43個、イネの穎8個、胚乳6個、シソ属1個、エゴマ1個、ゴマの可能性のある不明種実17個、野生種で可食種実のサルナシ近似種80個、キイチゴ属130個、アキグミ4個が検出されたほか、落葉藤本のマタタビ近似種、落葉低木のサンショウ亜属各1個、水生植物のホタルイ属6個、アカザ科127個を含む中生草本192個が検出された。

・56SK52 1層 (No.777)

落葉藤本のマタタビ近似種2個、草本のイネ科、カヤツリグサ科各1個が検出される。

・SE1 5層 (No.770)

栽培種のイネの穎2個と、常緑高木のバラモミ節30個、草本6分類群（カヤツリグサ科、サナエタデ近似種、ナデシコ科、アカザ科、ヒユ科、キジムシロ類）67個が検出された。

・SE1 (No.635)

オニグルミ 2 個が検出され、1 個は頂部が欠損している。

・SE3

洗浄済試料では、5 層からオニグルミ 2 個 (No.624,633: 頂部欠損)、3 層から栽培種のモモ 3 個 (No.618,621,625)、2 層からモモ 2 個 (No.623,632) が検出された。土壌試料では、4 層下 (No.771) から、栽培種のイネの類 160 個 (うち 13 個炭化)、シソ属 1 個、ナス近似種 5 個が確認されたほか、木本 5 分類群 (落葉低木のキイチゴ属、サンショウ亜属、キブシ、タラノキ、落葉藤本のマタタビ属) 12 個、ヒユ科 (114 個) やイネ科 (86 個)、ナデシコ科 (72 個)、アカザ科 (56 個) を含む人里草本 487 個が検出され、水生植物のサジオモダカ属、オモダカ科、ホタルイ属や、湿生植物のミズ属、タガラシなどを含む。

以下に、主な大型植物遺体の形態的特徴等を記す。

<木本>

・バラモミ節 (*Picea Sect. Picea*) マツ科トウヒ属

針葉の破片が検出された。黒灰褐色、線形。破片の長さは最大 3.2mm、最大径は 1.2mm 程度。基部は楔形に細まり、葉痕は切形。先端部は鋭頭。横断面は菱形状四角形で、四面には気孔条が配列する。1 個の横断面を確認したが、状態が悪く、樹脂道の位置は不明であった。

・オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Miyabe et Kudo) Kitamura) クルミ科クルミ属

核が検出された。灰褐色、SK20 の 1 層 (No.629) と SK22 の 4 層 (No.631) より確認された核は炭化しており、黒色を呈す。長さ 21.32cm、径 21.28cm 程度の頂部が尖る広卵体。完形個体の大きさは、SK22 取り上げ 5 層 (No.626) で長さ 22.21mm、幅 21.53mm、厚さ 21.61mm。縦に 1 周する縫合線に沿って割れた半分以下の破片や、縫合線上に齧歯類 (ネズミなど) による食痕と考えられる円形の孔をもつ個体がみられる。また、頂部や側部を欠損する個体がみられることから、人為による打撃痕の可能性がある。核は硬く緻密で、表面には縦方向に溝状の浅い彫紋が走り、ごつごつしている。内部には子葉が入る 2 つの大きな窪みと隔壁がある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

果実の破片が検出された。炭化しており黒色。完形ならば、径 2.3cm 程度の三角状広卵形で、一側面は偏平、反対面は丸みがある。頂部は尖り、基部は切形。基部全面を占める着点は別組織で、灰褐色、粗く不規則な粒状紋様がある。果皮外面は平滑で微細な縦筋がある。果皮内面は灰褐色の内果皮 (渋皮) がある。破片は大きさ 4.5mm 程度。

・アケビ属 (*Akebia*) アケビ科

種子の破片が検出された。黒褐色、破片は縦半分に割れた 1 片で、長さ 5.7mm、幅 3.67mm 程度の狭倒卵体。基部に淡褐色、径 2mm 程度の斜切形の臍がある。種皮表面は平滑で光沢があり、頂部から臍に向かう微細な筋が流れる。

・サルナシ近似種 (*Actinidia cf. arguta* (Sieb. et Zucc.) Planch. ex Miq.) マタタビ科マタタビ属

種子が検出された。灰・黒褐色、長さ 2.2-2.5mm、幅 1.5-1.7mm 程度の両凸レンズ状楕円体。基部は斜切形でやや突出する。種皮は硬く、表面には円・楕円形の凹点が密布し、網目模様をなす。

・マタタビ近似種 (*Actinidia cf. polygama* (Sieb. et Zucc.) Planch. ex Maxim.) マタタビ科マタタビ属

種子が検出された。黒褐色、長さ 1.5-1.7mm、幅 1.0-1.2mm 程度の両凸レンズ状楕円体。サルナシよりも小型である。基部は斜切形でやや突出する。種皮は硬く、表面には円・楕円形の凹点が密布し、網目模様をなす。なお、サルナシとの判別が困難な破片を、マタタビ属としている。

・モモ (*Prunus persica* Batsch) バラ科サクラ属

核(内果皮)が検出された。灰褐色、長さ2.3cm、幅1.5-2.2cm、厚さ1.3-1.7cm程度のやや偏平な広楕円体。SE3の3層(No.621)で長さ28.85mm、幅18.49mm、厚さ14.03mm、SE3の3層(No.625)で長さ31.08mm、幅20.25mm、厚さ13.01mm程度。頂部は尖り、基部は切形で中央部に湾入した臍がある。1本の明瞭な縦の縫合線が発達し、背面正中線に細い縦隆条が、腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。縫合線に沿って割れた半分以下や、内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の深い窪みがあり、全体として粗いしわ状にみえる。半割した内側表面は平滑で、種子1個が入る楕円状の窪みがみられる。

・キイチゴ属(Rubus) パラ科

核(内果皮)が検出された。灰褐色、長さ1.8mm、幅1.2mm、厚さ0.5mm程度の偏平な半円-三日月状半倒卵形。腹面方向にやや湾曲する。表面には大きな凹みが分布し、網目模様をなす。

・アキグミ(Elaeagnus umbellata Thunb.) グミ科グミ属

種子が検出された。灰褐色、頂部を欠損するため、長さは6mm以上、径2.5mm程度の線状長楕円体。両端は急に尖る。種子は核状で硬く、8個の茶褐色の縦隆条と縦溝が交互に並ぶ。

・キブシ(Stachyurus praecox Sieb. et Zucc.) キブシ科キブシ属

種子が検出された。黄褐色、炭化個体は黒色。長さ1.3-1.8mm、径1-1.3mm程度の三角状広倒卵形。一側面観は狭倒卵形で、他方は稜になり薄くなる。種皮表面は平滑で光沢があり、内部に微細な粒状の網目模様が密布する。

<草本>

・サジオモダカ属(Alisma) オモダカ科

果実が検出された。淡-灰褐色、長さ2mm、幅1.7mm程度のやや偏平な広卵形。基部は切形。背面に深い縦溝が1本走る。果皮は海綿状で、中に入る1個の種子が透けてみえる。種子は灰-黒褐色、径0.5mm程度の倒U字状に曲がった円柱状で偏平。種皮は薄く膜状で、表面には縦長の微細な網目模様が配列する。種子のみの検出をオモダカ科(Alismataceae)としている。

・イネ(Oryza sativa L.) イネ科イネ属

穎(果)と胚乳が検出された。穎は淡-灰褐色、胚乳と一部の穎は炭化しており黒色。長楕円形でやや偏平。胚乳は4.5-5.5mm、幅2.3mm、厚さ1.5mm程度。基部一端に胚が脱着した斜切形の凹部がある。表面はやや平滑で、2-3本の隆条が縦列する。胚乳を包む穎(果)は長さ6.5-7mm、幅3-4mm、厚さ2mm程度。基部に斜切状円柱形の果実序柄と1対の護穎を有し、その上に外穎(護穎と言う場合もある)と内穎がある。外穎は5脈、内穎は3脈をもち、ともに舟形を呈し、縫合してやや偏平な長楕円形の稲初を構成する。果皮は柔らかく、表面には顆粒状突起が縦列する。

・ヒエ近似種(Echinochloa cf. utilis Ohwi et Yabuno) イネ科ヒエ属

穎・胚乳が検出された。炭化しており黒色。胚乳は、長さ1.8mm、幅1.5mm、厚さ0.7mm程度のやや偏平な倒卵形で、背面は丸みがあり腹面はやや平ら。基部正中線に、胚乳の長さの2/3以上を占める縦長で馬蹄形の胚の凹みがある。胚乳表面は粗面で、穎(果)の破片が付着する。果皮表面には、縦方向に目立つ網目模様が縦列する。

・ホタルイ属(Scirpus) カヤツリグサ科

果実が検出された。黒褐色、長さ2-2.5mm、径1.8-2.2mm程度の片凸レンズ状広倒卵形。頂部は尖り、基部は切形で刺針状の花被片が伸びる個体がみられる。背面正中線上は鈍稜。果皮表面は光沢があり、不規則な波状横皺状模様が発達する。

・アカザ科(Chenopodiaceae)

種子が検出された。黒色、径1-1.4mm程度のやや偏平な円盤状。基部は凹み、臍がある。種皮表面

表8 種実分析結果(1)

分類群	部位	状態	SK22 4層 779	SK22 5層 782	SK24 4層 778	56SK52 1層 777	SE1 5層 770	SE3 4層下 771	備考
木本									
バラモミ節	葉	破片 破片 破片					9 18 3		
		先端部 基部							
クリ	果実	破片	4						
サルナシ近似種	種子	破片			80				
マタタビ近似種	種子	完形	1		1	2			
		破片	1						
マタタビ属	種子	破片	1					1	
キイチゴ属	核	完形			115			1	
		破片			15			3	
モモ	核	破片		1					
サンショウ亜属	種子	破片			1			1	
キブシ	種子	完形	2	1				3	
		破片	1					1	
		破片						1	
アケグミ		完形			2				
		破片			2				
タラノキ	核	破片						1	
草本									
サジモダカ属	果実	完形		1				3	
		破片						1	
オモダカ科	種子	完形	1					2	
イボクサ	種子	完形	1	1					
イネ	穎	完形						1	
		基部	1	115			2	53	
		基部	2	239	6			93	
		炭化	3	7	2			6	
		炭化	2	8				7	
	胚乳	炭化							
		炭化	2		4				
		炭化			2				
	胚乳?	完形		1					
ヒエ近似種	穎・胚乳	完形	炭化		1				
エノコログサ属	果実	完形						3	
		破片						5	
イネ科	果実	完形		1	1			58	
		破片		2	1			26	
	穎・胚乳	完形	炭化	1					1
	胚乳	完形		1		1		1	
ウキヤガラ近似種	果実	完形	1						
ホタルイ属	果実	完形	4		6			8	
		破片	2					1	
カヤツリグサ属	果実	完形						4	
カヤツリグサ科	果実	完形	3	9	1		27	4	
		破片	2	1		1	24	1	
ミス属	果実	完形						10	
		破片						3	
ギシギシ属	果実	完形		1				6	
イスタデ近似種	果実	完形		1				6	
		破片						9	
サナエタデ近似種	果実	完形	1	1	2			3	
		破片		1	1		4	2	
		破片	1						
	花被	破片						3	
クダ属	果実	完形	2						
		完形						7	
		破片						5	
スベリヒユ科	種子	完形	2						
		破片	2						
ナデシコ科	種子	完形		7	11		3	72	
		破片		1	2				
アカザ科	種子	完形	71	67	95		4	44	
		破片	28	14	32			12	
ヒユ科	種子	完形	3	24	29		2	88	
		破片		4	12			26	

表8 種実分析結果(2)

分類群	部位	状態	SK22 4層 779	SK22 5層 782	SK24 4層 778	56SK52 1層 777	SE1 5層 770	SE3 4層下 771	備考
タカラシ	果実	完形						12 22	
アブラナ科	種子	完形						1	
*キジムシロ属-ヘビイチゴ属- オウنداイチゴ属	核	完形	1				1 1	1	
カタバミ属	種子	完形		2	1				
	破片						1		
メロン類 (モルデイホメロン型)	種子	完形			15				
メロン類 (マクワ・シロウリ型)	種子	完形	1		107				
	破片				1				
メロン類 (雑草メロン型)	種子	完形			5				
メロン類	種子	破片	1		120				
ヤブジラミ属	果実	完形						1	
	破片							5	
セリ科	果実	完形	1					2	
サクラソウ科	種子	完形	1						
アカネ科	核	完形						1	
イヌコウジュ属	果実	完形	1	1				2	
イヌコウジュ属-シツ属	果実	破片			4			5	
シソ属	果実	破片		5	1			1	
エゴマ	果実	完形	1		1				
メハジキ属	果実	完形						2	
ナス近似種	種子	完形		1	26				
	破片		3		17			5	
ナス科	種子	完形	4	3	1			5	
	破片		1					2	
メナモミ属	果実	完形						7	
	破片							1	
オナモミ属	総苞	破片						1	
キク科	果実	完形		1				1	
不明種実	破片				2			11	
					15		5		
樹皮			1						
木材			1						
炭化材			4.10g 20.7mm	3 c c 2.75g 19.8mm	1cc 0.57g 9.5mm	0.53g 8.5mm <0.01g	12 0.07g 5.7mm	6cc 0.98g 8.1mm	重量 最大径
不明炭化物			0.02g	0.02g					
不明								6	
シダ植物の葉								+	
蕨苔類							+	+	
昆虫			30	86	26		33	35	
動物遺存体?								1	
土器			12		2	1		3	
分析量			200cc 282.97g	200cc 252.98g	200cc 315.10g	200cc 329.90g	200cc 287.34g	200cc 300.89g	

には臍を取り囲むように微細な網目模様が放射状に配列し、光沢がある。

・メロン類 (*Cucumis melo* L.) ウリ科キュウリ属

種子が検出された。淡・灰褐色、狭倒皮針形で偏平。SK22 取り上げ5層 (No.723) 出土種子の計測値は、長さ 4.75-9.17mm、幅 2.33-4.12mm、厚さ 0.55-1.86mmと、藤下 (1984) の基準による小粒の雑草メロン型 (長さ 6.0mm以下)、中粒のマクワ・シロウリ型 (長さ 6.1-8.0mm)、大粒のモモルディカメロン型 (長さ 8.1mm以上) が確認され、マクワ・シロウリ型が大半を占める (表4)。種子の基部には、倒「ハ」の字形の凹みがある。種皮表面は比較的平滑で、縦長の細胞が密に配列する。

・エゴマ (*Perilla frutescens* (L.) Britt. var. *japonica* Hara) シソ科シソ属

果実が検出された。灰褐色、径 2mm 程度の倒広卵体。基部には大きな臍点があり、舌状にわずかに突出する。果皮はやや柔らかく、表面には浅く大きく不規則な網目模様がある。なお、径 1.8mm 未満の果実をシソ属、径 1.6mm 未満の果実をイヌコウジュ属 (*Mosla*) としている。

・ナス近似種 (*Solanum* cf. *melongena* L.) ナス科ナス属

種子が検出された。灰褐色、偏平で歪な腎臓形。SK22 取り上げ5層 (No.723) 出土種子 100 個の計測値の平均は、長さ 2.82mm、幅 3.34mm、厚さ 0.74mm (表8)。基部はやや肥厚し、くびれた部分に臍がある。種皮表面には微細な星型状網目模様が臍から同心円状に発達する。なお、長さ 1mm、幅 1.7mm 程度の野生種に由来すると思われる小型種子を、ナス科 (*Solanaceae*) と区別している。

・不明種実

SK24 4層から完形2個、縦半分に割れた破片 15 個が検出された。淡・灰褐色、長さ 2.5-3mm、幅 1.5-2mm、厚さ 0.5mm 程度の偏平な倒皮針体で基部が尖る。皮は薄く、表面は粗面で微細な網目模様がある。金原ほか (1995) のゴマ (*Sesamum indicum* L.) の種子に似ることから、以後再検討を実施する機会を得た。

(5) 樹種同定

樹種同定結果を表 10 に示す。杭等の木材は、広葉樹 3 分類群 (ヤナギ属・コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ) に同定された。No 789 の木片は、散孔材の道管配列を有する広葉樹材であるが、保存が悪く種類は不明である。No 774 の炭化材は、広葉樹のカエデ属に同定された。同定された各分類群の解剖学的特徴等を記す。

表10 樹種同定結果

番号	遺構	位置	層位	試料名	状態	形状	樹種	備考
774	廻跡 (21SD2)	2区	V層中		炭化物	破片	カエデ属	年代測定試料
734	廻跡 (21SD2)	Dトレ		サンプル C	生木	ミカン割状 芯持丸木 (直径 1.3cm) 芯持丸木 (直径 1.1cm) 芯持丸木 (直径 1.0cm) 芯持丸木 (直径 1.0cm)	ヤナギ属 ヤナギ属 ヤナギ属 ヤナギ属	枝番-1 枝番-2 枝番-3 枝番-4 枝番-5
740	廻跡 (21SD2)	Dトレ		杭 2	生木	破片	クリ	
741	廻跡 (21SD2)			杭 1	生木	破片	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
788	廻跡 (21SD2)	Dトレ		サンプル A	植物遺体	破片	ヤナギ属	
789	廻跡 (21SD2)	Dトレ		サンプル B	植物遺体	破片	広葉樹 (散孔材)	

・ヤナギ属 (*Salix*) ヤナギ科

散孔材で、道管は単独または 2-3 個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は、単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1-15 細胞高。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圈部は 1-4 列、孔圏外でやや急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20 細胞高のものも複合放

射組織とがある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔部は3-4列、孔部外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

・カエデ属 (*Acer*) カエデ科

散孔材で、道管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独および2-3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列～交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1-4細胞幅、1-30細胞高。木繊維が木口面において不規則な紋様をなす。

(6) 骨 同 定

試料とされた骨片は、獣類の四肢骨片とみられる。保存状態が極めて悪いため非常に脆く、一部ピビナイトが析出する。骨体部のみで、骨端は残存しない。大きさからみて中型～大型の獣類とみられるが、詳細は不明である。

(7) 脂 質 分 析

結果を表11、図37に示す。脂肪酸組成をみると、渥美壺内部は、オレイン酸の割合が高く、パルチミン酸、ステアリン酸が低率で検出される。SK22の4層とSK22の5層は、いずれもベヘン酸のみ検出される。SK24はミリスチン酸が高率で、ステアリン酸、オレイン酸、ベヘン酸、エルカ酸が低率で検出される。56SK52は、パルチミン酸のみからなる。

ステロール組成をみると、渥美壺内部は、コレステロール、カンバステロール、ステイグマステロール、シトステロールが検出される。SK22の4層とSK22の5層は、コレステロールが全体の40%を占め、他はカンバステロール、ステイグマステロール、シトステロール、エルゴステロールのみみられる。SK24は、

ステイグマステロールが全体の半数以上を占め、コプロスタノール、コレステロール、エルゴステロール、カンバステロール、シトステロールが検出される。56SK52は、コプロスタノール、コレステロール、カンバステロール、シトステロールが検出される。

表11 脂質分析結果

種 類	試料名	渥美壺内部	SK22 4層	SK22 5層	SK24	56SK52
		779	782	778	777	
脂肪酸組成						
飽和酸 (C4)	-	-	-	-	-	-
ヘキサン酸 (C6)	-	-	-	-	-	-
オクタジエン酸 (C8)	-	-	-	-	-	-
デカン酸 (C10)	-	-	-	-	-	-
ラウリン酸 (C12)	-	-	-	-	-	-
ミリスチン酸 (C14)	-	-	-	-	78.9	-
パルチミン酸 (C16)	17.1	-	-	-	-	100.0
パルミトレイン酸 (C16:1)	-	-	-	-	-	-
ステアリン酸 (C18)	4.0	-	-	-	7.4	-
エライジン酸 (C18:1 trans)	-	-	-	-	-	-
オレイン酸 (C18:1 cis)	78.9	-	-	-	4.3	-
リノール酸 (C18:2)	-	-	-	-	-	-
αリノレン酸 (C18:3)	-	-	-	-	-	-
アラキジン酸 (C20)	-	-	-	-	-	-
イコセン酸 (C20:1)	-	-	-	-	-	-
アラキドン酸 (C20:4)	-	-	-	-	-	-
ベヘン酸 (C22)	-	100.0	100.0	-	5.1	-
ドコセン酸 (C22:1trans)	-	-	-	-	-	-
エルカ酸 (C22:1cis)	-	-	-	-	4.3	-
イコサペンタエン酸 (C20:5)	-	-	-	-	-	-
リグノセリン酸 (C24)	-	-	-	-	-	-
テトラコセン酸 (C24:1)	-	-	-	-	-	-
ドコサヘキサエン酸 (C22:6)	-	-	-	-	-	-
ステロール組成						
コプロスタノール	-	-	-	-	13.9	33.2
コレステロール	20.6	40.8	37.1	7.8	7.8	24.6
エルゴステロール	-	-	11.7	1.8	-	-
カンバステロール	18.7	20.1	12.1	2.6	10.5	-
ステイグマステロール	14.0	25.9	32.7	54.4	-	-
シトステロール	46.7	13.2	6.3	19.4	31.7	-
分析量 (g)	100.0	104.3	97.0	89.9	100.3	-

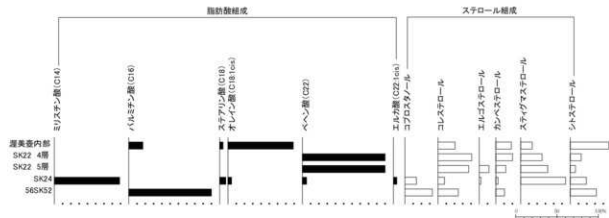


図 37 脂肪酸・ステロール分析

4 考 察

(1) 炭化物片の年代観

年代測定の結果、掘跡出土炭化材の年代は12世紀前後の値を示し、発掘調査所見より想定されている年代観と調和的である。

(2) 渥美壺の内容物推定

脂肪酸分析は、3種類検出され、オレイン酸の割合が最も高い。オレイン酸、パルチミン酸、ステアリン酸は共に、動物、植物共に含まれる脂肪酸である。なお、植物や動物に由来する脂質は複数の脂肪酸から構成されるため、土壌中の脂質分析の結果においても数種類以上検出されることが多い。今回のように種類数が少ないのは、土壌に含まれる脂肪酸の含量が少なく、使用した分析機器の感度では検出が難しかったためとみられる。青森県南津軽郡尾上町の李平下安原遺跡では、成人の骨骨を伴う古代の土坑墓において脂肪酸分析が行われている（小山，1995）。この成果によれば、C20以上のアラキジン酸、ペヘン酸、リグノセリン酸、テトラコセン酸（本文中では別名のネルボン酸となっている）が検出され、その割合は4種類合わせて30%以上である。また、動物質埋納の指標としては、複数分析した場合の組成の偏りや、C20以上の脂肪酸の多産が挙げられている（田中はか，2004）。今回の脂肪酸組成では、C20以上の脂肪酸は検出されていないことや、脂肪酸の含量が少なかった可能性が高いことから、過去の内容物について推定することは難しい。

一方、ステロール組成では、動物由来のコレステロールと、植物由来のカンベステロール、スティグマステロール、シトステロールが検出される。植物由来のステロールは、土壌に含まれる腐植等に由来する可能性が高いが、動物由来のコレステロールは、壺内に動物質が存在していたことを反映する可能性もある。しかし、コレステロールが土壌生物に由来する可能性も否定できないことから、今後土器外の土壌等を対照試料として同様の分析を行うことや、他にリン酸等の残留状況を把握するなどの追証が必要と考える。

(3) トイレ遺構の分析成果

寄生虫卵分析結果をみると、トイレ遺構とされる全ての遺構から寄生虫卵が検出され、特にSK24では約15,000個/ccと多産する。花粉化石は、SK22に比べSK24では少ないことから、SK24で検出された寄生虫卵は自然状態で流入したのではなく、人為的に集積したことが示唆される。このことが

ら、SK24の内部にはかつて排泄物が存在していた可能性がある。一方、SK22ではこれより少なく、5層で2000個/cc程度であるが、後述する他の分析結果も考慮すれば、SK24と同様に内部に排泄物が存在していたことが示唆される。なお、SK24は花粉化石数が多く寄生虫卵が少ないことから、廃絶時に埋積した土壌の影響を強く受けていると考えられる。また56SK52では寄生虫卵がほとんど検出されず、対照試料となる井戸(SE3)と同レベルであることから、検出された寄生虫卵はこの遺構内部に本来あったものではなく、周辺の自然状態の範囲内で含まれていたものと考えられる。

検出された種類のうち、回虫や鞭虫は体内より排泄物と共に排出された卵が野菜等に付着し、それを食することによって体内に侵入して成虫になるという生活環を示す。また、宮崎肺吸虫はサワガニ、イノシシ等、ウエステルマン肺吸虫はモクスガニ、イノシシ等をそれぞれ摂食することによって人体に感染する(佐伯ほか,1998等)。以上のことより、当時感染源となるこれらの食物が摂食されていたことが示唆される。現在では衛生環境の向上により激減したが、かつての日本国内でも多くの人が寄生虫に感染していたことを考えると、排泄物にこれらの寄生虫卵が多く混じることは当時普通であったと考えられる。なお、本遺跡では過去のトイレ遺構の分析例でも寄生虫卵が多量に検出されており、回虫卵、鞭虫卵をはじめ、今回と重複する種類が多く見だされている(金原ほか,1995)。またトイレ遺構では、花ごと食する植物(たとえば、アブラナ科など)の花粉化石が、多量に検出されることがあり(金原・金原,1994)、松江城番所跡の成果などが知られている。今回の花粉分析結果ではアブラナ科が検出されているものの、他の種類と比べて有意に高率ではなく、また花粉塊が検出されていないことなどから、排泄物ではなく周辺植生に由来するものと考えられる。花粉化石群集は、いずれの遺構でもイネ科を主とする草本花粉が多い。検出されるイネ科、カヤツリグサ科、アカザ科、ナデシコ科、ヨモギ属等は人里など開けた草地を好む種類であり、本遺跡内やその周辺に生育していたと考えられる。また、ソバ属、ペニバナ属といった栽培植物も検出されており、周囲での栽培、利用が考えられる。なお、イネ科の中には栽培種のイネ属花粉を含む。イネ属花粉は稲穂の中に残留するといわれ、今回種実分析で稲穂が多量に検出されたことから、今回検出されたイネ属花粉の一部は遺構内に廃棄された稲穂の中に残留していたものに由来することが示唆される。

種実分析結果では、SK22は単体試料、4層、5層を含めた特徴として、有用植物が多く検出される。野生種で食用となるものとしてはクリ、マタタビ、オニグルミ、アケビ属が検出されるほか、栽培種としてイネ、ヒエ、メロン類、シソ属、エゴマ、モモ、ナスが検出される。野生種はいずれも当時の周辺の山野で採取可能なものであると考えられ、採取によって食利用されていたと考えられる。栽培種は、周辺で栽培され遺跡内で利用されたものに由来する可能性がある。一般にトイレ遺構から出土する種実遺体は、種ごと食する種類が多量に検出する傾向がある。今回のSK22試料の結果では、マタタビ、アケビ属、メロン類、ナスがこれに該当するが、単体試料を除き検出数は少ない。これは、後述するSK24と対象的であり、稲穂の多産などその組成が井戸(SE3)に近いことから、遺構の機能時よりも、遺構廃絶後に混入した種実の組成を強く反映している可能性がある。

またSK24も有用植物が多く、サルナシ、マタタビ、キイチゴ属、アキグミ、イネ、メロン類、シソ属、エゴマ、ナスである。SK22と重複する種類も多く、当時広く食利用されていたことが示唆される。特筆すべき点として、種ごと食する種類の検出個体数がSK22に比べて非常に多いことであり、特にサルナシ、キイチゴ属、メロン類、ナスは、単体試料を除けばSK24の方が圧倒的に個数が多い。このような傾向は、各地で検出されているトイレ遺構に共通してみられる傾向であり、SK24では当時の排泄物に由来する種実遺体が遺構内に残存していることが確定される。

一方56SK52では、種実遺体の検出個体数が非常に少なく、有用植物もほとんど見られなかったこ

とから、排泄物を含めた内容物については不明である。

なお、トイレ遺構とされる試料では、周辺植生に由来する種実遺体も多く確認された。これらの草本類が多いのは、周辺は開けた場所であったことを示唆し、周辺の森林が伐開されていたことが推測される。また、タガラシ、ウキヤガラ、ホタルイ属、サジオモダカ属など水湿地を好む種類は、周辺の河川沿いなどに生育していたものに由来するとみられ、本遺跡の立地からみて調和的な結果である。さらに、イネ科、カヤツリグサ科、タデ類、スベリヒユ科、ナデシコ科、アカザ科、ヒユ科などは、人家等の近くに生育する種類を多く含む分類群である。花粉分析結果とも重複する種類が多く、本遺跡およびその周辺に生育していたものに由来すると考えられる。

脂肪酸分析結果は、SK22の4層、SK22の5層、56SK52では、1種類が検出されたに過ぎない。遺構覆土などを対象とした脂肪酸分析結果では、脂肪酸が数種類以上検出されるのが普通であることから、今回の3試料のように検出された種類が少ないのは、本来試料中に含まれる脂肪酸の含量が極めて少ないため、使用分析機器の感度では検出が困難であったことが示唆される。一方SK24では5種類の脂肪酸が検出される。最も高率なミリスチン酸は、動物、植物を含め天然に存在する脂肪酸である。ミリスチン酸は分子量が小さく、かつ二重結合が存在しない脂肪酸であることから、経年変化により強く、相対的に増加した可能性がある。また、テアリン酸やオレイン酸も、動物、植物を含め天然に存在する脂肪酸である。パヘン酸は、前述した李平下安原遺跡において多産しており、動物質埋納の指標となる可能性がある。エルカ酸は、菜種油等の植物油などに特徴的な脂肪酸である。

一方ステロールは、いずれの試料からも複数種類が検出される。このうち、カンベステロール、ステイグマステロール、シトステロールは植物由来であり、土壤中に含まれる植物遺体由来するとされる。エルゴステロールは、菌類由来するステロール、コレステロールは動物由来するステロールで、今回調査対象とした遺構の性格からは、特に後者によって排泄物由来する可能性が想定できると考える。さらにコプロスタノールは、コレステロールが大腸菌によって分解され生じるもので、動物の排泄物に特徴的に現れるとされており、トイレ遺構を検証する際には指標のひとつとして重視される。以上の点を考慮して、今回の調査試料で検出されたステロール組成を以下検討したい。

SK24と56SK52は、コプロスタノールの検出により、遺構内に排泄物の混入が示唆される。特にSK24は、上述の通り寄生虫卵や種ごと食する種実が多産しており、調和的な結果といえる。一方SK22では、コプロスタノールは検出されていない。同時に検出されたコレステロールやパヘン酸、エルカ酸が排泄物由来する可能性もあるが、他の分析結果からは過去の遺構内容物よりも埋積時に流入した周辺土壌の母材の影響を強く受けている可能性が高く、トイレ遺構と判断するにはいたらない。

以上、今回の分析結果を総括すると、SK24は全ての分析項目で排泄物の存在を支持する結果が得られており、当時トイレ遺構として使用された可能性が高い。一方SK22は、SK24に準じる分析結果を得たが、種実や寄生虫卵の検出数が少ないことから、当時トイレ遺構として使用された可能性があるが、埋積時に周辺から流入した土壌の影響を受けている可能性があり、流入した土壌にすでに排泄物が混入していた可能性も否定できない。また56SK52では、コプロスタノールの検出以外排泄物の存在を支持する結果が得られなかったことから、今回の分析結果から見る限り当該試料に排泄物の痕跡は明瞭ではなかったといえる。

(4) 井戸跡他の分析成果

井戸跡等とされる遺構試料の寄生虫卵分析を行った結果、SE1からは寄生虫卵が未検出であり、SE3からは寄生虫卵が微量検出された。100個体未満の寄生虫卵の検出は、通常の汚染の範囲内(金原・

金原,1994)とされていることから、これらの遺構はトイレではない可能性があり、井戸跡等とする考古学的所見と矛盾しない結果であった。

なお、SE1の花粉化石群集は、木本花粉の割合が高く、中でもトウヒ属の割合が高い。さらに、種実遺体は、トウヒ属パラモミ節の葉が検出されている。トウヒ属パラモミ節は、現在では日本の冷温帯上部地域に隔離分布しているが、最終氷期には低地にまで分布を拡大していたことが、各地の低湿地遺跡の調査などで明らかになっている(野手ほか,1996)。当時パラモミ節が本遺跡周辺に自然分布していても大きな矛盾はないが、既往の調査例で遺構覆土等からはほとんど検出されていないことから、遺構壁に露出した最終氷期以前の堆積土壌が遺構内に再堆積した可能性もある。今後は地山の堆積層の調査も合わせて行い、比較検討することが望まれる。一方草本類では、花粉化石、種実遺体ともカヤツリグサ科が多く、ナデシコ科、アカザ科、ヒユ科などの草本類を伴っていることから、トイレ遺構と同様に当時の周辺植生を反映しているとみられる。また、栽培種であるイネも、当時本遺跡内で利用されたものに由来すると思われる。

ところでSE3の種実遺体組成は、単体試料を含め有用植物が多く検出される点で、トイレ遺構とされるSK22に類似する。両遺構で検出された種類の多くは重複しているが、メロン類やエゴマが検出されない点でSK22よりも種類数がやや少ない傾向にある。いずれも、採取や栽培によって本遺跡内で利用されたものに由来するとみられ、利用後に廃棄される部位が検出されていることから、遺構廃絶後に投棄された可能性がある。また、イネ科、カヤツリグサ科、タデ類、スベリヒユ科、ナデシコ科、アカザ科、ヒユ科等、人家近くに生育する雑草を多く含むことから、これらは本遺跡およびその周辺に生育していた植物に由来すると考えられる。

一方、SE3の花粉化石群集は、SE1と同様にトイレ遺構とは異なり、木本花粉の割合が多い。しかしツガ属、トウヒ属、マツ属などの針葉樹は、SE1と同様周辺の地山から再堆積した可能性もある。試みに針葉樹を除くとほとんどが草本類でSK22と組成が近く、種実遺体も重複する種類が多いことから、他の遺構同様にこれらの草本類は本遺跡およびその周辺に生育していた植物に由来すると考えられる。

(5) 掘跡出土の樹種

掘跡2ISD2の材木列を構成する杭は、落葉広葉樹のコナラ節とクリに同定され、少なくとも2種類の木材が利用されていたことが推定される。クリとコナラ節は、ともに二次林を構成する落葉高木であり、木材は重硬で強度が高い材質を有し、クリは耐朽性も高い。これらは、現在でも本遺跡周辺地域の丘陵部を中心に生育していることから、本遺跡周辺で入手可能な木材を利用したことが推定される。なお、これまでの調査例では、クリは建築部材、下駄、板等、コナラ節は櫛菌状木製品、鋸、部材等に利用されている(能城,1995;高橋,1995,2003a,2003b;パリオ・サーヴェイ株式会社,2001)。

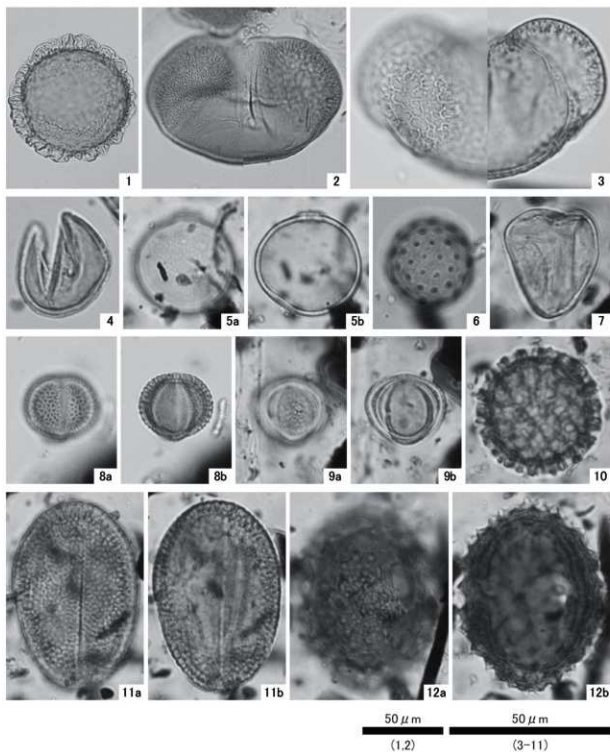
一方、杭の間に敷かれたと考えられる樹木には、ミカン割状の木片もみられるが、直径約1cmの小枝状(芯持丸木)の木材が多い。また、樹皮や葉などからなる植物遺体層も認められる。木材では、ミカン割状の資料にクリ、小枝状の資料にヤナギ属、植物遺体層中の木片にヤナギ属と種類不明の広葉樹が認められた。ヤナギ属には、河畔林を構成する種類が含まれており、木材は軽軟で強度・保存性が低い。

樹皮や葉等の植物遺体が集積していること、木材が全て小径の資料であること、木材に加工痕・切断痕が見られないことから、周囲に生育していた小径木、樹木の枝などの「粗柴」を採取して杭の間に敷いたと考えられる。発掘所見によれば、造成層中には敷敷工法と呼ばれる土工工法がみられるとされるが、ヤナギは柔らかくしなやかなので、このような工法には適材といえる。本遺跡出土の木質

遺物に関する既往の調査事例では、自然木に河畔林・湿地林を構成する種類であるハンノキ属、トネリコ属、クスギ節が確認されている（高橋 2003b）。今回の調査で確認されたヤナギ属もこれらと同様に、周辺河川沿いの河畔林等を構成していたことが推定される。

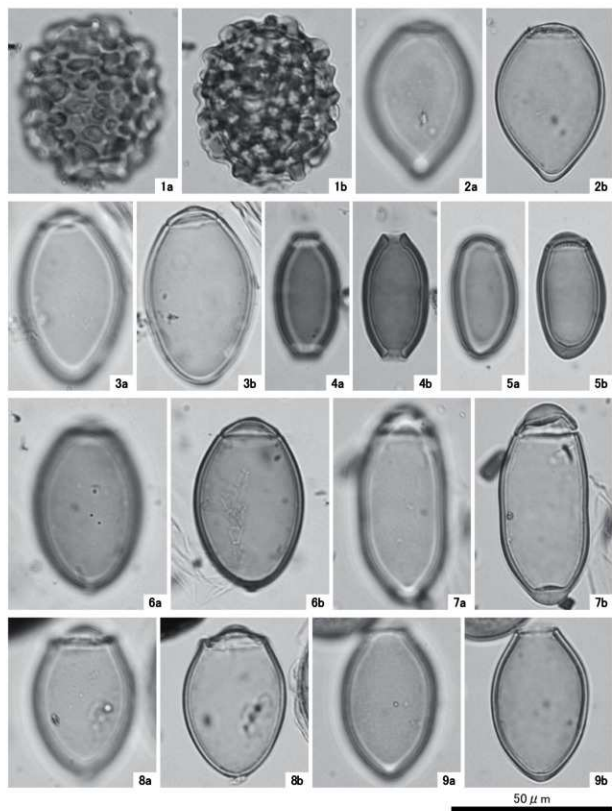
引用文献

- 藤下 典之, 1984. 出土遺物よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法. 古文化財の自然科学的研究, 古文化財編集委員会編, 同期会, 638-654.
- 林 昭三, 1991. 日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
- 石川 茂雄, 1994. 原色日本植物種子写真図鑑, 石川茂雄図鑑刊行委員会, 328p.
- 伊東 隆夫, 1995. 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東 隆夫, 1996. 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東 隆夫, 1997. 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東 隆夫, 1998. 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東 隆夫, 1999. 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- 金原 正明・金原 正子, 1992. 花粉分析および寄生虫, 藤原京跡の便所遺構 - 石右七条一坊西北坪 -, 奈良国立文化財研究所, 12-15.
- 金原 正明・金原 正子, 1994. 堆積物中の情報の可視化. 可視化情報, 14, 9-14.
- 金原 正明・金原 正子・中村 亮仁, 1995. 柳之御所跡の寄生虫卵・花粉・種実の同定分析. 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集 柳之御所跡 分冊1. (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター, 500-514.
- 小山崎道, 1995. 東北地方の脂肪酸分析結果. 考古学ジャーナル, 38, 617-21.
- 中山 至大・井之口希秀・南谷 忠志, 2000. 日本植物種子図鑑. 東北大学出版会, 642p.
- 野手 啓行・津津 進・百原 新, 1998. 日本のトウヒ属ハラモミ節樹木の現在の分布と最終氷期以降の分布変遷. 植生史研究, 6, 3-14.
- 能城 修一, 1995. 柳之御所遺跡から出土した木製品の樹種. 「柳之御所跡 一 関遊水地事業・平泉バイパス建設関連第21・23・28・31・36・41 次発掘調査報告」. 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集, (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター, 433-456.
- パリオ・サーヴェイ株式会社, 1995. 柳之御所跡自然科学分析調査. 「柳之御所跡 一 関遊水地事業・平泉バイパス建設関連第21・23・28・31・36・41 次発掘調査報告」. 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集, (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター, 463-499.
- パリオ・サーヴェイ株式会社, 2001. 柳之御所遺跡から出土した木製品の樹種. 「柳之御所跡 一 第52次発掘調査概報」. 岩手県文化財調査報告書第111集, 岩手県教育委員会, 153-160.
- 佐伯 英治・升 秀夫・早川 典之, 1998. 寄生虫鑑別アトラス オールカラー版. メディカルサイエンス社, 161p.
- 島地 謙・伊東 隆夫, 1982. 図説木材組織. 地球社, 176p.
- 高橋 利彦, 1995. 柳之御所遺跡第23次・31次調査出土材の樹種. 「柳之御所跡 一 関遊水地事業・平泉バイパス建設関連第21・23・28・31・36・41 次発掘調査報告」. 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集, (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター, 423-432.
- 高橋 利彦, 2003a. 柳之御所遺跡第55次調査出土材の樹種. 「柳之御所跡 一 第55次発掘調査概報」. 岩手県文化財調査報告書第117集, 平泉遺跡群発掘調査報告書, 岩手県教育委員会, 100-108.
- 高橋 利彦, 2003b. 柳之御所遺跡第56次調査出土材の樹種. 「柳之御所跡 一 第56次発掘調査概報」. 岩手県文化財調査報告書第117集, 岩手県教育委員会, 84-99.
- 田中 義文・坂井 良輔・千葉 博俊・植木 真吾・辻本 崇夫, 2004. 遺体埋納物推定における脂質分析の効果と問題点. 日本文化財科学会第21回大会研究発表要旨集, 122-123.
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998. 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東 隆夫・藤井 智之・佐伯 浩 (日本語監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].



- | | |
|-------------------------|---------------------------------|
| 1. ツガ属(SE1 5層:770) | 2. トウヒ属(SE1 5層:770) |
| 3. マツ属(SE1 5層:770) | 4. スギ属(56SK52 1層:777) |
| 5. イネ科(SK22 4層:779) | 6. アカザ科(SK24 4層:778) |
| 7. カヤツリグサ科(SK24 4層:778) | 8. アブラナ科(SK24 4層:778) |
| 9. ヨモギ属(SK22 4層:779) | 10. サナエタデ節-ウナギツカミ節(SK22 4層:779) |
| 11. ソバ属(SK22 4層:779) | 12. ペニバナ属(SK22 4層:779) |

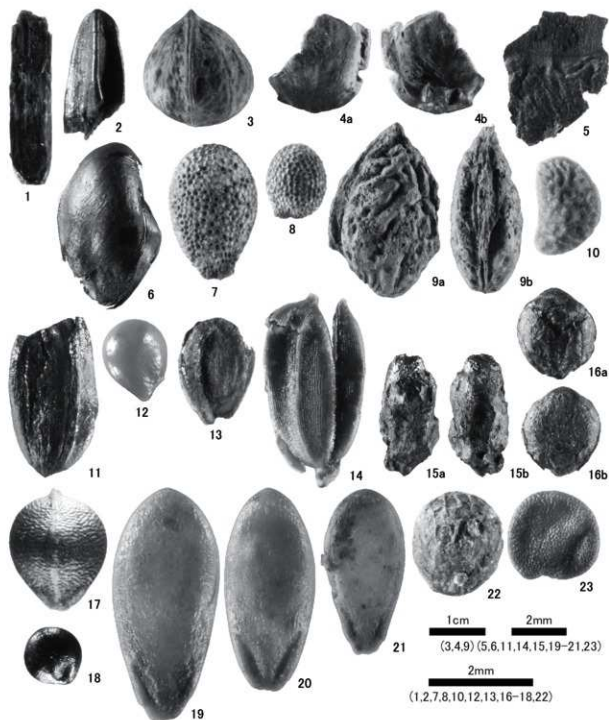
図 38 花粉化石



1. 回虫卵(SK24 4層:778)
3. 鞭虫卵(SK24 4層:778)
5. 宮崎肺吸虫卵(SK24 4層:778)
7. 不明寄生虫卵C(SK24 4層:778)
9. 不明寄生虫卵B(SK24 4層:778)

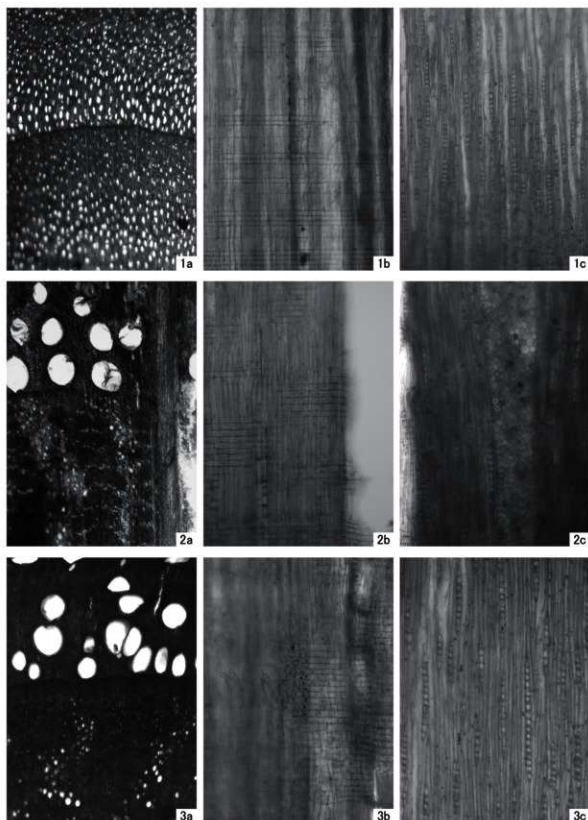
2. ウェステルマン肺吸虫卵(SK24 4層:778)
4. 楯形吸虫卵(SK24 4層:778)
6. 日本海裂頭条虫卵(SK24 4層:778)
8. 不明寄生虫卵A(SK24 4層:778)

図 39 寄生虫卵



- | | |
|---------------------------------------|--------------------------------------|
| 1 . パラモミ節 葉(SE1 5層:770) | 2 . パラモミ節 葉(SE1 5層:770) |
| 3 . オニグルミ 核(SK22 取り上げ5層:626) | 4 . オニグルミ 核(表面炭化)(SK22 4層:631) |
| 5 . クリ 果実(SK22 4層:779) | 6 . アケビ属 種子(SK22 取り上げ5層:723) |
| 7 . サルナシ近似種 種子(SK24 4層:778) | 8 . マタタビ近似種 種子(SK24 4層:778) |
| 9 . モモ 核(SE3 3層:625) | 10 . キイチゴ属 核(SK24 4層:778) |
| 11 . アキグミ 種子(SK24 4層:778) | 12 . キブシ 種子(SE3 4層下:771) |
| 13 . サジオモダカ属 果実(SE3 4層下:771) | 14 . イネ 籾(SK22 取り上げ5層:723) |
| 15 . イネ 胚乳(SK24 4層:778) | 16 . ヒエ近似種 籾・胚乳(SK22 5層:782) |
| 17 . ホタルイ属 果実(SE3 4層下:771) | 18 . アカザ科 種子(SK24 4層:778) |
| 19 . メロン類(モモルディカメロン型) 種子(SK24 4層:778) | 20 . メロン類(マクワ・シロウリ型) 種子(SK24 4層:778) |
| 21 . メロン類(雑草メロン型) 種子(SK24 4層:778) | 22 . エゴマ 果実(SK22 4層:779) |
| 23 . ナス近似種 種子(SK22 取り上げ5層:723) | |

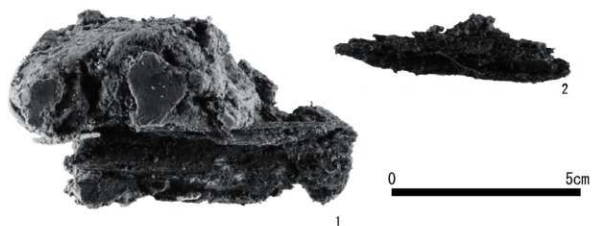
図40 大型植物遺体



1.ヤナギ属(21SD2:734-2)
 2.コナラ属コナラ亜属コナラ節(21SD2:741)
 3.クiri(21SD2:734-1)
 a:木口, b:柁目, c:板目

300 μ m a
 200 μ m b, c

図 41 木材



1. 獸類四肢骨 (SE3:766)

2. 獸類四肢骨 (SE3:766)

圖 42 出土骨

Ⅳ 総 括

今年度の調査成果について、調査区ごとに再度ふれつつまとめ、今後の調査の課題を述べる。

1 南 区

(1) 堀跡の調査成果

70次調査の南区は69次調査の補足調査である。69・70次調査の2カ年で遺跡南端部の堀跡周辺の調査を行った。21次調査の成果もあわせると、21SD2→21SX4→21SD1の順に構築されたことがわかる。このうち外側をまわる21SD2と21SX4は範囲の多くが、上下に重なる。21SX4は人為堆積土で埋められ、その下層では敷設工法のひとつと考えられる樹皮等を敷き詰めた痕跡を確認した。21SD2から南側で確認された整地層も含めて、遺跡南端部に位置する範囲は複雑な堆積を示し、一部に精緻な工法を取り入れながら複数回にわたる人為的な造作が行われたことがわかる。断面等で変遷を確認したが、同時期に行われたものを含む可能性もある。

69SX3土坑は69次調査で土坑の可能性を指摘した遺構である。70次調査で輪郭の一部を確認でき、土坑と認定した。この土坑は21SX4や整地層(A・B層)より古く、21SD2の堆積土を掘り込む。この遺構は21SD2廃絶後の土坑で、堆積は人為的に埋められた土層と判断できる。この層は、21次調査で「新規層」とされ、21・43・69次調査で橋部材を含む多くの遺物が出土した。このため、21SD2の廃絶後に、堀の廃絶から土坑の構築までの時間幅は確定できないが、これらの廃絶に伴う廃棄土坑として掘り込まれたものと考えられる。廃棄土坑としての性格、整地層や21SX4の構築にみられる本範囲の様相、21SD1下層の遺物との比較からは、長期間にわたる時間幅を想定することは難しいと考えているが、結論づけることはできない。

また、21SD2の外側で確認された21SX3溝跡について、西側に延長していくことが確認できた。21SD2との間には整地層(A・B層)と自然堆積の遺物包含層(Ⅳ・Ⅴ層)が堆積するのみで、介在する遺構などからの時期の決定が困難である。この遺構からは今回の範囲からは遺物が出土していない。21SD2などの堀跡と比較すると規模は小さいが、走向はほぼ同様である。今後、延長部分の調査のなかで、これらの課題を検討したい。

(2) まとめと課題

南区の調査範囲は69・70次調査と2カ年にわたって調査を行った。2カ年の調査で、2条の堀跡に時期差があることや新たに溝跡を確認したことなどの成果を挙げることができた。外側の堀跡21SD2と重複して、69SX3とした廃棄土坑や整地層などを確認することができ、この範囲が洪水堆積などの自然環境の影響を受けやすい範囲であるとともに、複数回にわたる地業が行われたことがわかる。遺跡南端部にあたる範囲が、遺跡が機能した期間のうち長期にわたって機能し、隣接する伽羅御所跡の範囲や現在の平泉町内に所在する遺跡へと続く重要な地点のひとつだったことがうかがえる。このほか、遺跡の南端部にあたる21SD2の南側で21SX3の範囲を確認し、溝跡として把握することができた。調査範囲では西側に延長することを確認したが、延長部分は未調査である。

今後の課題として堀跡については、2条の堀跡の猫間が淵と平行する範囲など今回の範囲の延長部分や、大溝跡として認識した21SX4の延長の確認などがある。また、遺跡南端部で堀跡の外側で確認した21SX3についても、性格や時期などが課題として残された。柳之御所遺跡を特徴づける遺構

のひとつである堀跡は、これまでの調査で多くが明らかにされてきたが、検討課題も多い。今回の調査では確認できていないが、囲繞施設として他の施設の有無についても、堀跡の周囲の遺構状況や旧地形の検討をあわせて、今後の課題である。柳之御所遺跡堀内部地区と周辺の遺跡群をつなぐ部分は、この南端部のみではなくその他にも想定される地点がある。今後、これらの検討を行うことで、柳之御所遺跡の全体像がより理解できると考えている。

表12 北区土坑属性表

遺構番号	遺構規模 (m)					出土遺物				
	検出面		底面		深さ	かわらけ			篝火	種子
	長径	短径	長径	短径		ロクロ	手づくね	小片		
70SK20	0.65	0.62	0.55	0.55	0.54	○	○	○		○
70SK22	0.94	0.82	0.84	0.75	2.90	○	○	○	○	○
70SK24	0.86	0.82	0.78	0.78	0.62	○	○	○		○
56SK40	0.86	0.82	0.70	0.70	12.50	○	○	○		
56SK52	1.18	1.12	0.95	0.95	17.10	○	○	○		
70SK14	0.79	0.70								
70SK15	0.89	0.79								
70SK16	0.61	0.55								
70SK17	0.88	0.83								
70SK18	0.85	0.57								
70SK19	0.75	0.74								
70SK21	0.79	0.68								
70SK23	0.71	0.68								
70SK25	0.91	0.91								
70SK26	0.71	0.72								
70SK27	0.92	0.80								
70SK28	0.82	0.74								
70SK29	0.66	0.53								
70SK30	1.51	1.45								
56SK60	1.00	0.74								
56P255	0.87	0.63								
56P257	0.69	0.50								
平均	0.86	0.76	0.76	0.75	6.73					
標準偏差	0.20	0.21	0.15	0.14	7.60					

※ 分布範囲や形状から、トイレ状土坑の可能性が想定できるものを抜粋した。

2 北 区

(1) 遺構の調査成果と内容

70次調査の範囲では、標高の低い部分で22基の土坑（うち56次で5基を検出し、2基はピットとして登録）が検出されている。これらは、いずれも径が1mほどの円形で、平面の特徴では類似した特徴を示す（表12）。トイレ状土坑と想定できる遺構から5基を選択して精査を行った。その結果トイレ状土坑と判断できるのは2基（70SK20、70SK22）ある。これらは土質では下層に有機質分の多い粘質の土層である廃棄土層が確認でき、遺物にも篝火などの木製品を多く含み、自然科学分析においても寄生虫などの存在が指摘されている。このほか、70SK24は土質や自然科学分析では、トイレ状土坑と同様の結果がみられるが、この土坑では遺物に篝火が含まれず、やや異なる。2基は遺構が割平を受けており、浅い遺構で確定はできない。したがって、平面形や検出時の埋土の状況では類似した特徴を示すものでも、検出時の様相からでは判断が困難な場合があることがわかる。このように、平面形状などからトイレ状土坑の可能性があると想定して精査を行ったものでも明確に判断できない遺構もあり、トイレ状土坑の明確な基数を示すことは難しい。これまでの柳之御所遺跡の調査では74基の遺構が、トイレ状遺構の可能性のあるものとして報告されている。このうち、今回の調査

範囲に隣接する 56 次調査では 33 基の土坑がトイレ状遺構もしくはその可能性があるものとして報告され、この範囲に集中することが想定されていた。今回の調査とあわせ、堀内部地区北端部にトイレ状土坑の分布が集中することがわかる。

出土遺物は廃棄土層からは籐木などの木製品が多量に出土しているが、上層の人為堆積とみられる埋め土にはかわらけや陶磁器類が含まれている。これらの遺物はこの遺構の廃絶時のものだが、遺構の性格から機能時と大きな時期差はないと考えられる。廃棄土層にかわらけや陶器類などが含まれる土坑と、これらが含まれず廃棄物土層のみから成る土坑がある。これらの様相の差異が何に起因するか籐木の有無など様相の違いが注目される。

このほか、調査区内では 3 基の井戸跡を確認し、2 基を精査した。削平による差もあるが、70SE3 は遺跡内でも深く大型のもので、70SE1 はやや小型のものである。

井戸跡および土坑からの出土遺物のロクロかわらけと手づくねかわらけの点数を示した(表 13、註 1) 70SE1 は柱状高台が出土し、ロクロかわらけが多くを占める。70SE3 でも同様にロクロかわらけが多くを占める。破片数及び底部重量をみた場合、70SE1 がよりロクロかわらけが占める割合が高いことがわかる。このことをこれまでの検討と比較した場合、70SE1 → 70SE3 の変遷が看取できる。このことは図化資料で把握したそれぞれの時期と合致する。土坑では 70SK22 では破片数からも底部重量からもロクロかわらけの点数が少ない。このことから 70SK22 はより新しい土器群と捉えることが可能であり、このことは器形を把握することができた資料の特徴とも合致する。これらのかわらけの特徴からは、井戸跡が相対的に古く土坑が新しいこと、70SE1 が古く 70SE3 が新しいこと、土坑では 70SK22 がもっとも新しいことが考えられる。

(2) まとめと課題

北区では井戸跡とトイレ状土坑を確認した。それぞれの遺構からの出土遺物をみると、遺物からは井戸跡は 12 世紀中葉を中心とした時期、トイレ状土坑は 12 世紀後半の時期と考えられる。井戸跡をトイレ状土坑に転用したとみられる 70SK22 もあり、この範囲においては 12 世紀後半以前では井戸跡や関連する遺構を中心に一部にトイレ状土坑が分布する範囲として機能し、その後 12 世紀後半以降にトイレ状土坑が集中して分布したと捉えることができる。56 次調査で確認したトイレ状土坑では、12 世紀後半をさかのぼる時期と考えられるものもある。

今回調査した土坑では出土遺物からは 12 世紀後半の年代と考えられ、特に 70SK22 ではその中でも新しい特徴を示す土器が出土した。しかし、トイレ状土坑と考えられる遺構でも木製品などの出土遺物の様相は一様ではなく、差異が指摘できる。このことはこれまでの調査でも指摘されており、性格の差を想定する研究もある。これらのトイレ状土坑とした土坑の性格や時期変遷は必ずしも明確ではなく、今後検討が必要である。

また、今回の調査範囲では削平が著しく、掘立柱建物跡の柱穴などは、既に削平されたと考えられる。そのため、今回の範囲が柳の御所遺跡全体のなかで本来どのような範囲であったかは不明な点が多いが、井戸跡や近接する 56 次調査の範囲での建物跡の存在から、本来は建物跡等が分布した範囲である可能性は高く、特に、井戸跡が機能したとみられる時期においては、この周囲に建物跡が存在した可能性が想定できる。時期による利用形態の変化には、不確定な要素も多い。今後、既調査範囲も含めて遺跡の堀内部北端部の様相を検討していきたい。

(櫻井)

表13 北区遺構出土かわらけ数量表

遺構名	ロタロ										手づくね						不明		
	大			小			不明				大			小				不明	
	総点数	口縁部	底部	口-底部	口縁部	底部	口-底部	口縁部	底部	口-底部	口縁部	底部	口-底部	口縁部	底部	口-底部		口縁部	底部
70SK1	46	5	40	10	26	9	6	11	27				4				10		297
点数	154																14	297	
重量	16327			13615			1047				964						276.5		
重量比	ロタロ底部片 / 総重量			2015.9/3095.0			29.6												
	ロタロ底部残存片 / 総重量			3473.8/3095.0			68.2												

遺構名	ロタロ										手づくね						不明		
	大			小			不明				大			小				不明	
	総点数	口縁部	底部	口-底部	口縁部	底部	口-底部	口縁部	底部	口-底部	口縁部	底部	口-底部	口縁部	底部	口-底部		口縁部	底部
70SK3	3394	11	43	22	46	104	41		266			1	26	29		7	62		2215
点数	533																126	2215	
重量	17423			18147			1205.1				1400.1						3300.5		
重量比	ロタロ底部片 / 総重量			6247.3/21905.0			28.5												
	ロタロ底部残存片 / 総重量			9462.7/21905.0			43.2												

遺構名	ロタロ						手づくね						不明		
	大			小			大			小				不明	
	総点数	口縁部	底部	口縁部	底部	口縁部	底部	口縁部	底部	口縁部	底部	口縁部		底部	
70SK20	47	1			6			3		4	4	2			27
点数	7												13	27	
重量比	ロタロ底部 / 総重量			429/2653			16.2								

遺構名	ロタロ										手づくね						不明		
	大			小			不明				大			小				不明	
	総点数	口縁部	底部	突	口縁部	底部	突	口縁部	底部	突	口縁部	底部	突	口縁部	底部	突		口縁部	底部
70SK22	2230	0	11	2	0	12	4	1	52		13	62	45	91	26	109	219	429	1144
点数	82																994	1144	
重量	2401			1838			112.0				634						370.4		
重量比	ロタロ底部片 / 総重量			722.5/13616.7			5.3												
	ロタロ底部残存片 / 総重量			969.7/13616.7			7.1												

遺構名	ロタロ						手づくね						不明		
	大			小			大			小				不明	
	総点数	口縁部	底部	口縁部	底部	口縁部	底部	口縁部	底部	口縁部	底部	口縁部		底部	
70SK24	105		4	3	4	5		7	3	8	2	3			66
点数	16												23	66	
重量比	ロタロ底部 / 総重量			97.6/557.0			17.5								

遺構名	ロタロ						手づくね						不明						
	大			小			不明				大			小			不明		
	総点数	口縁部	底部	口縁部	底部	口縁部	底部	口縁部	底部	口縁部	底部	口縁部		底部	口縁部	底部	口縁部	底部	
56SK40	34			1	2		2			1	2	5			1	20			
点数	5												9	20					
重量比	ロタロ底部 / 総重量			22.6/1612			14.0												

遺構名	ロタロ						手づくね						不明						
	大			小			不明				大			小			不明		
	総点数	口縁部	底部	口縁部	底部	口縁部	底部	口縁部	底部	口縁部	底部	口縁部		底部	口縁部	底部	口縁部	底部	
56SK52	45		2		3	1				2	5	5		3	24				
点数	6												15	24					
重量比	ロタロ底部 / 総重量			84.1/496.6			16.9												

註1 ロクロかわらけと手づくねかわらけの計測方法は、当事務所でこれまで検討した方法と同様のものである（岩手県教育委員会2008）。なお、井戸跡出土遺物などでは完形に近い形状のものも多く出土し、参考のため、完形のものや底部から口縁部まで残存するものは別に計測した。性格の異なる遺構でも追認できることから従来の方で大きな問題は生じないと考えているが、計測方法など今後も検討していきたいと考えている。

引用文献

- 岩手県教育委員会 2003『柳之御所遺跡～第56次発掘調査概報～』岩手県文化財調査報告書第117集
 岩手県教育委員会 2008『柳之御所遺跡～第65次発掘調査概報～』岩手県文化財調査報告書第125集
 岩手県教育委員会 2010a『柳之御所遺跡～第69次発掘調査概報～』岩手県文化財調査報告書第130集
 岩手県教育委員会 2010b『柳之御所遺跡～第I期保存整備事業報告書～』岩手県文化財調査報告書第131集
 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995『柳之御所跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集
 太宰府市教育委員会 2000『太宰府条坊跡XV-陶磁器分類編-』太宰府市の文化財第49集
 中野晴久 1995『常滑・瀬美』『概説 中世の土器・陶磁器』
 平泉遺跡群調査事務所 2009『柳之御所遺跡場内部地区の建物復元（中間報告 その5）』『平泉文化研究年報』第9号 pp.63-74
 MIHO MUSEUM ほか 2010『古陶の譜 中世のやきもの』
 宮城県多賀城跡調査研究所 2010『宮城県多賀城跡調査研究所年報 2009』
 八重樫忠郎 2001『中世前期の時間軸としての遺物』『平泉文化研究年報』第1号 pp.37-46

表14 出土遺物観察表(かわらけ)

種別	種	期	産地	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	重量 (g)	片占 (%)	色調	その他	登録番号
1	ロクロ	小	南	69SX3	C層	86.0	20	5.8	699	20	5Y8・3淡黄色	底部スノコ痕あり	70RO k 87
2	ロクロ	大	南	69SX3	C層	141	32	7.5	1934	80	25Y6/3C:ふい・黄色		70RO k 89
3	ロクロ	大	南	69SX3	C層	150.0	35	7.40	942	35	5Y8・2灰白色		70RO k 41
4	ロクロ	大	南	69SX3	C層	140.0	40	8.0	784	25	25Y8・3淡黄色	中心部に穿孔か	70RO k 114
5	ロクロ	大	南	69SX3	C層	144	43	7.9	1028	25	25Y7・3淡黄色		70RO k 103
6	手づくね	小	南	69SX3	C層	90	1.8		521	70	25Y7・2灰黄色	底部スノコ痕あり	70RO k 89
7	手づくね	小	南	69SX3	C層	90	1.8		633	95	5Y8・3淡黄色	底部スノコ痕あり	70RO k 90
8	手づくね	大	南	69SX3	C層	130	3.1		984	50	5Y8・3淡黄色		70RO k 100
9	手づくね	大	南	69SX3	C層	140.0	2.7		1018	25	5Y8・2灰白色	底部スノコ痕あり	70RO k 101
10	手づくね	大	南	69SX3	C層	144.0	2.7		762	25	5Y7・2灰白色	底部スノコ痕あり	70RO k 115
11	手づくね	大	南	69SX3	C層	121	3.2		1325	80	25Y7・2灰黄色		70RO k 40
12	ロクロ	小	南	21SX4	D層	7.9	1.7	6.0	650	50	25Y8・3淡黄色	口唇部打ち欠き3ヶ所	70RO k 69
13	ロクロ	小	南	21SX4	D層	8.5	1.9	5.7	723	70	5YR7・6褐色		70RO k 68
14	手づくね	小	南	21SX4	D層	88.8	1.9		252	25	25Y8・2灰白色	中心部穿孔か	70RO k 70
15	手づくね	小	南	21SX4	D層	8.8	1.7		697	90	25Y7・3淡黄色	底部スノコ痕あり(口唇部に濃痕あり)	70RO k 71
16	手づくね	小	南	21SX4	D層	90	1.7		594	100	25Y8・3淡黄色		70RO k 75
17	手づくね	大	南	21SX4	D層	133	3.0		1432	90	25Y7・2灰黄色	内外面口唇部僅付着	70RO k 76
18	ロクロ	小	南	88-112	B層	82.0	1.4	(6.4)	542	70	10YR8/4淡黄褐色		70RO k 86
19	手づくね	小	南	88-112	B層	8.9	1.8		494	95	25Y8・3淡黄色		70RO k 88
20	手づくね	大	南	88-112	B層	130	2.8		1127	70	5Y8・2灰白色		70RO k 138
22	ロクロ	小	南	87-109	IVa層	86.7	1.4	6.4	608	50	10YR8/3淡黄褐色		70RO k 118
23	ロクロ	小	南	87-109	IVb層	7.9	1.7	5.0	563	25	25Y7・3淡黄色		70RO k 130
24	ロクロ	小	南	87-110	IVb層	7.6	1.7	4.8	523	90	10YR7/3C:ふい・黄褐色		70RO k 79
25	ロクロ	小	南	88-112	IV層	80.0	1.5	4.8	458	70	10YR8/4淡黄褐色		70RO k 83
26	ロクロ	小	南	87-109	V層	8.4	1.8	6.5	796	70	7.5YR7/4C:ふい・橙色	口唇部打ち欠き2ヶ所	70RO k 84
27	ロクロ	小	南	87-109	V層	8.0	1.6	6.7	636	100	7.5YR7/4C:ふい・橙色		70RO k 82
28	ロクロ	小	南	87-109	V層	8.3	1.3	5.6	622	70	5YR7・6褐色		70RO k 85
29	ロクロ	小	南	87-111	V層	8.0	1.5	6.2	646	90	10YR8/4淡黄褐色		70RO k 91
30	ロクロ	大	南	87-110	IVb層	139	3.3	6.5	1718	70	5YR7・8褐色		70RO k 96
31	ロクロ	大	南	87-111	V層	142	4.3	8.7	2006	25	7.5YR7/4C:ふい・橙色		70RO k 105
32	ロクロ	大	南	87-112	V層	132.0	3.4	7.0	1181	25	25Y8・3淡黄色		70RO k 135
33	ロクロ	大	南	88-110	IVa層	140.0	2.9	7.3	760	25	7.5YR7・6褐色		70RO k 107
34	手づくね	小	南	88-112	IV-V層	69.0	1.4	4.8	171	70	25Y8・3淡黄色		70RO k 136
35	手づくね	小	南	88-112	IV-V層	90	1.5		557	90	25Y8・3淡黄色		70RO k 137
36	手づくね	小	南	87-110	IVa層	80.0	1.4	24.8	50	25Y8・4淡黄色		70RO k 128	
37	手づくね	小	南	87-110	IVb層	9.2	1.9		453	70	25Y8・3淡黄色	灯明皿	70RO k 125
38	手づくね	小	南	87-111	IVb層	8.8	2.0		539	90	25Y8・4淡黄色		70RO k 126
39	手づくね	小	南	89-113	IVb層	90	1.9		604	90	25Y8・4淡黄色		70RO k 127
40	手づくね	小	南	89-113	IVb層	8.2	1.5		427	100	10YR8/3淡黄褐色		70RO k 81
41	手づくね	小	南	87-88-110-III	IVb層	82.0	1.5		471	70	10YR8/3淡黄褐色		70RO k 80
42	手づくね	小	南	87-111	V層	8.8	1.8		594	90	25Y8・3淡黄色		70RO k 92
43	手づくね	小	南	88-111	V層	9.2	1.8		864	100	25Y8・3淡黄色		70RO k 93
44	手づくね	大	南	87-110	IVa層	128.0	3.0		1219	25	25Y8・3淡黄色		70RO k 94
45	手づくね	大	南	88-110	IVb層	11.8	2.1		921	70	25Y8・3淡黄色	底部スノコ痕あり	70RO k 119
46	手づくね	大	南	87-110	IVb層	137	2.9		1927	90	25Y8・4淡黄色	底部スノコ痕あり	70RO k 120
47	手づくね	大	南	87-110	IVb層	132	2.9		1194	70	25Y8・2灰白色		70RO k 122
48	手づくね	大	南	88-112	IVb層	124	2.9		1448	90	25Y8・3淡黄色		70RO k 123
49	手づくね	大	南	89-113	IVb層	124	2.8		806	70	25Y8・3淡黄色	底部スノコ痕あり	70RO k 124
50	手づくね	大	南	87-110	IVb層	134	3.2		1267	50	5Y8・2灰白色		70RO k 129
51	手づくね	大	南	87-110	IVb層	13.8	2.6		1466	90	25Y8・4淡黄色	全体的に磨滅。	70RO k 111
52	手づくね	大	南	87-110	IVb層	144.0	2.7		3024	70	25Y8・4淡黄色	磨滅が著しい	70RO k 112
53	手づくね	大	南	88-110	IVb層	141	3.5		2251	90	7.5YR8/3淡黄褐色		70RO k 95
54	手づくね	大	南	87-110	V層	13.8	2.6		1409	90	25Y8・2灰白色	内外口唇部僅付着	70RO k 131
55	手づくね	大	南	87-110-III	V層	144.0	3.1		1550	50	5Y8・3淡黄色		70RO k 132
56	手づくね	大	南	87-111	V層	127	2.4		1540	70	5Y8・3淡黄色	底部スノコ痕あり	70RO k 133
57	手づくね	大	南	86-87-111	V層	132.0	2.9		936	25	5Y8・2灰白色		70RO k 134
58	手づくね	大	南	88-110	V層	11.8	3.0		1264	90	25Y8・3淡黄色	底部スノコ痕あり	70RO k 102
59	手づくね	大	南	Dトレ	V層	134.0	2.5		1226	50	5Y7・2灰白色	底部スノコ痕あり	70RO k 104
60	手づくね	大	南	87-110	IVb層	15.0	3.6		1635	90	25Y8・3淡黄色	底部中央穿孔	70RO k 121
61	手づくね	大	南	Dトレ	V層	132	2.3		1692	100	5Y7・2灰白色	内外面口唇部付着に僅付着	70RO k 105
62	手づくね	大	南	Dトレ	V層				1060	50	25Y8・3淡黄色		70RO k 108
63	手づくね	大	南	87-110	V層	13.9	2.8		1723	90	25Y8・3淡黄色		70RO k 109
64	手づくね	大	南	Dトレ	V層	130.0	2.6		851	50	5Y8・2灰白色	内外面口唇部付着	70RO k 110
65	手づくね	大	南	Dトレ	V層	134.0	2.6		1643	70	5Y8・2灰白色		70RO k 113
66	手づくね	大	南	87-88-110	V層	132	3.5		2021	100	25Y8・3淡黄色		70RO k 97
67	手づくね	大	南	87-111	V層	136	3.0		1266	50	5Y8・3淡黄色	底部スノコ痕あり	70RO k 98
68	手づくね	大	南	87-88-110	V層	15.0	3.5		1839	90	25Y8・3淡黄色		70RO k 99
104	ロクロ	小	北	SE1	3層	7.9	1.5	4.5	545	90	25Y7・3淡黄色		70RO k 35
106	柱状高台		北	SE1	3層			5.1	850	30	2.7Y7・2灰黄色		70RO k 38

種別	種	類	地区	出土遺構	層位	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	重量 (g)	片占 率(%)	色調	その他	登録番号	
106	ワタロ	大	北	SE1	1~3層	138	34	8.4	198.3	95	10YR8/3浅黄褐色		70R0 k32	
107	ワタロ	大	北	SE1	3層	127	31	6.2	169.2	90	2.5Y7/2黄褐色		70R0 k33	
108	ワタロ	大	北	SE1	3層	126	30	6.0	127.4	90	2.5Y8/2灰白色		70R0 k36	
109	ワタロ	大	北	SE1	3層	120.9	37	6.5	129.5	70	2.5Y7/3浅黄色	内外面口唇部付近に煤付着	70R0 k37	
110	ワタロ	大	北	SE1	1~3層	(14.6)	40	8.2	153.6	50	2.5Y7/3浅黄色	内~外面の一部に火を受ける	70R0 k42	
111	ワタロ	大	北	SE1	1~3層	(15.0)	30	(8.4)	92.1	35	2.5Y8/3浅黄褐色		70R0 k43	
112	ワタロ	大	北	SE1	3層	(14.3)	4.5	7.2	152.3	50	10YR8/3浅黄褐色		70R0 k44	
113	ワタロ	大	北	SE1	3層	14.8	4.3	6.4	189.4	80	2.5Y7/3浅黄色	内面口唇部、内底面に煤付着	70R0 k45	
114	ワタロ	小	北	SE3	1層	8.7	2.1	6.2	47.9	60	7.5YR8/4浅黄褐色		70R0 k1	
115	ワタロ	小	北	SE3	3層	9.1	1.8	6.1	89.4	98	10YR8/2灰白色	外面の一部に油煤付着か	70R0 k2	
116	ワタロ	小	北	SE3	3層	7.4	1.7	5.0	48.6	100	10YR8/3浅黄褐色		70R0 k3	
117	ワタロ	小	北	SE3	1層	7.8	1.7	5.3	54.6	98	2.5Y8/3浅黄色		70R0 k4	
118	ワタロ	小	北	SE3	3層	8.4	1.8	5.4	78.4	100	2.5Y7/2黄褐色		70R0 k5	
119	ワタロ	小	北	SE3	5層	9.4	1.4	7.6	46.8	50	2.5Y7/2黄褐色		70R0 k6	
120	ワタロ	小	北	SE3	5層	(8.0)	2.3	4.8	60.6	80	2.5Y6/2灰黄色	内外面口唇部付近に煤付着	70R0 k7	
121	ワタロ	小	北	SE3	5層	(8.8)	1.7	(6.5)	43.5	40	5YR6/4にふい		70R0 k8	
122	ワタロ	小	北	SE3	4層	(10.0)	2.0	(7.8)	88.7	80	2.5Y7/2黄褐色		70R0 k9	
123	ワタロ	小	北	SE3	5層	(8.8)	1.7	(5.4)	37.0	40	2.5Y7/1灰白色	全体的に火を受ける	70R0 k10	
124	ワタロ	小	北	SE3	5層	9.5	1.9	7.4	80.2	80	2.5Y7/3浅黄色		70R0 k18	
125	ワタロ	小	北	SE3	3層	(8.8)	2.0	(5.0)	18.2	30	2.5Y7/2黄褐色		70R0 k20	
126	ワタロ	小	北	SE3	3層	8.8	2.1	6.8	25.3	30	2.5Y8/3浅黄色		70R0 k21	
127	ワタロ	?	北	SE3	2層				17.1	20	2.5Y7/3浅黄色	内底面に墨書	70R0 k22	
128	ワタロ	小	北	SE3	2層	(7.5)	1.6	(5.5)	24.4	30	2.5Y8/3浅黄色		70R0 k23	
	ワタロ	?	北	SE3	3層				7.6	10	2.5Y7/2黄褐色		70R0 k24	
129	ワタロ	大	北	SE3	5層	(13.8)	3.5	(8.2)	162.0	70	2.5Y7/2黄褐色	外底面に火を受ける	70R0 k11	
130	ワタロ	大	北	SE3	5層	14.0	4.6	6.8	281.7	90	2.5Y6/2黄褐色	焼けている?	70R0 k14	
131	ワタロ	大	北	SE3	4層	(12.6)	3.3	5.5	92.6	35	2.5Y8/2灰白色	内~外面一部に火を受ける	70R0 k12	
132	ワタロ	大	北	SE3	3層	(14.0)	3.7	7.0	151.1	60	10YR8/3浅黄褐色		70R0 k15	
133	ワタロ	大	北	SE3	3層	(15.0)	3.8	(8.2)	124.5	50	10YR7/2にふい	黄褐色	70R0 k16	
134	手づくね	小	北	SE3	4層	9.4	1.7	5.5	60	2.5Y7/3浅黄色	内外面口唇部付近に煤付着	70R0 k19		
	手づくね	小	北	SE3	1層				4.6	10	10YR8/2灰白色	除層あり	70R0 k31	
135	手づくね	大	北	SE3	4~5層	14.3	2.6		135.3	60	2.5Y7/2黄褐色	底部スノコ痕あり	70R0 k13	
136	手づくね	大	北	SE3	5層	15.1	3.2		226.2	98	2.5Y7/2黄褐色	内外面口唇部・底部スノコ痕あり	70R0 k17	
137	手づくね	大	北	SE3	4層	14.6	3.4		166.8	60	2.5Y6/3にふい	黄褐色	70R0 k25	
138	手づくね	大	北	SE3	5層	12.6	2.4		113.2	80	5Y8/1灰白色		70R0 k26	
139	手づくね	大	北	SE3	3~4層	(15.2)	3.4		215.4	60	2.5Y7/2灰白色	全体的に火を受ける	70R0 k27	
140	手づくね	大	北	SE3	3~4層	15.8	3.2		197.6	90	5Y8/2灰白色	内~外底面に火を受ける	70R0 k28	
141	手づくね	大	北	SE3	3~4層	15.0	4.0		221.7	50	2.5Y7/2黄褐色		70R0 k29	
142	手づくね	大	北	SE3	1層	(16.2)	3.5		169.2	70	2.5Y7/3浅黄色	内外口唇部煤付着	70R0 k30	
158	ワタロ	小	北	SK22	6層	(8.6)	1.7		35.7	50	2.5Y8/2灰白色		70R0 k54	
159	ワタロ	大	北	SK22	6層	(12.6)	3.7	7.2	88.9	40	5Y8/1灰白色		70R0 k56	
160	ワタロ	大	北	SK22	3層	(13.2)	3.3	7.3	94.9	25	2.5Y7/3浅黄色		70R0 k61	
161	手づくね	小	北	SK22	6層	8.2	1.6		55.8	80	2.5Y7/2黄褐色		70R0 k46	
162	手づくね	小	北	SK22	6層	8.6			28.5	50	2.5Y8/1灰白色		70R0 k48	
163	手づくね	小	北	SK22	6層	8.4	1.2		48.4	90	5Y7/2灰白色		70R0 k49	
164	手づくね	小	北	SK22	6層	8.1	1.3		53.3	98	5Y7/2灰白色		70R0 k50	
165	手づくね	小	北	SK22	6層	(8.2)	1.4		35.5	60	2.5Y8/3浅黄色		70R0 k51	
166	手づくね	小	北	SK22	6層	(7.8)	1.7		36.5	60	5Y7/2灰白色		70R0 k52	
167	手づくね	小	北	SK22	6層	(7.6)	1.6		17.3	35	2.5Y8/3浅黄色		70R0 k53	
168	手づくね	小	北	SK22	6層	(8.2)	1.9		22.6	40	5Y7/2灰白色		70R0 k55	
169	手づくね	大	北	SK22	6層	12.0	2.4		68.6	40	2.5Y8/2灰白色		70R0 k47	
170	手づくね	大	北	SK22	6層	12.8	2.5		72.9	40	2.5Y8/3浅黄色	底部スノコ痕あり	70R0 k57	
171	手づくね	大	北	SK22	6層	12.1	2.6		94.8	60	2.5Y7/3浅黄色		70R0 k58	
172	手づくね	大	北	SK22	6層	11.8	2.5		58.2	50	2.5Y7/3浅黄色		70R0 k59	
173	手づくね	大	北	SK22	6層	12.8	2.5		88.4	50	2.5Y8/3浅黄色		70R0 k60	
174	手づくね	大	北	SK22	6層	14.5	2.8		229.9	90	5Y7/4黄褐色		70R0 k62	
205	ワタロ	大	北	SX1	検出層	(14.4)	3.5	(7.4)	115.6	50	2.5Y7/3浅黄色		70R0 k73	
206	ワタロ	大	北	SX1	検出層	(13.8)	3.9	6.6	125.9	25	10YR8/3浅黄褐色		70R0 k77	
207	ワタロ	大	北	SX1	検出層	(13.9)	3.3	7.5	110.2	50	2.5Y8/3浅黄色	磨滅が著しい	70R0 k78	
208	手づくね	大	北	SX1	検出層	15.1			123.0	50	2.5Y8/2灰白色		70R0 k72	
217	ワタロ	小	北	SK8	検出層	7.6	1.5	5.0	46.9	70	2.5Y8/4浅黄色		70R0 k116	
218	ワタロ	小	北	SK12	検出層	(8.0)	1.4	6.4	50.4	25	2.5Y8/2灰白色	個体半分削のみ火を受ける	70R0 k63	
219	ワタロ	小	北	SK12	検出層	(9.0)	1.9	(5.6)	80.7	25	2.5Y7/3浅黄色	摩耗顕著	70R0 k64	
220	ワタロ	小	北	SK12	検出層	7.6	1.9	5.1	76.9	90	10YR8/4浅黄褐色	底部スノコ痕あり	70R0 k65	
221	ワタロ	大	北	SK12	検出層	14.3	3.7	7.0	141.0	25	2.5Y7/4浅黄色		70R0 k66	
222	ワタロ	大	北	SK12	検出層	13.6	3.9	6.8	137.8	50	10YR8/3浅黄褐色		70R0 k67	
223	手づくね	小	北	56SK40	検出層	(8.8)	1.8		35.5	50	2.5Y8/3浅黄色		70R0 k117	
224	手づくね	大	北	SK25	検出層	15.7	3.7		94.8	40	2.5Y8/3浅黄色		70R0 k34	
225	手づくね	大	北	SK25	検出層	(14.0)	2.9	5.1	99.8	50	10YR7/3にふい	黄褐色	内外面の一部に火を受ける	70R0 k74

表15 出土遺物観察表 (国産陶器)

調査家	種別	器種名	調査区	出土遺構	層位	部位	重量 g	色調	その他	登録番号
69	深美	葵	南	88-112	IV-V層	胴	2524	25Y7/4黄灰色 外: 5Y5/3灰オリーブ色 内: 5Y6/1灰白色	押印(平行条線文) 外面 に降灰釉	70R0c2
70	深美	葵	南	88-110	IV b層	肩	3096	外: 5Y5/3灰オリーブ色 内: 5Y6/1灰白色		70R0c4
71	深美	葵	南	87-109	IV b層	胴	303	5Y4/1灰白色		70R0c60
72	深美	葵	南	87-110	IV b層	胴	230	外: 5Y4/1灰白色 内: 5Y6/1灰白色		70R0c93
73	深美	片口鉢	南	87・88-110・111	IV b層	口縁	110	5Y6/1灰白色		70R0t159
74	深美	葵	南	87-110	V層	胴	156	外: 25Y4/1黄灰色 内: 25Y6/1黄灰色	押印(平行条線文か)	70R0t119
75	深美	葵	南	87-111	V層	胴	821	25Y6/2黄灰色	押印(平行条線文)	70R0c32
76	深美	葵	南	87-111	V層	口縁	1462	外: 5Y5/3灰オリーブ色 内: 5Y7/1灰白色	押印(平行条線文) 内面 一部と外面に降灰釉	70R0c62
77	深美	葵	南	87-111	V層	胴	2384	外: 7.5Y4/3暗オリーブ色 内: 5Y6/2灰オリーブ色	押印(平行条線文) 外面 に降灰釉	70R0c63
78	深美	葵	南	87-111	V層	胴	1274	外: 5Y6/1灰白色 内: 5Y7/1灰白色		70R0t139
79	常滑	片口鉢	南	87-109	IV b層	胴	846	外: 5Y6/1灰白色 内: 5Y7/1灰白色		70R0c48
80	常滑	葵	南	87-111	IVa層	胴	1209	外: 7.5YR5/4にふい褐色 内: 10YR6/4にふい黄褐色	47と接合	70R0t15
80	常滑	葵	南	87・88-110・ 111	IV b層	胴	635	外: 7.5YR5/4にふい褐色 内: 10YR6/4にふい黄褐色	15と接合	70R0c47
81	常滑	葵	南	87・88-110・ 111	IV b層	胴	247	外: 7.5YR3/1オリーブ黒色 内: 5Y7/1灰白色	内外面に降灰釉	70R0t132
82	常滑	葵	南	85-109	IV b層	胴	275	外: 7.5YR6/3にふい褐色 内: 25Y7/1灰白色		70R0t124
83	常滑	葵	南	87-111	V層	胴	483	25Y5/3黄褐色	外面に降灰釉	70R0c43
84	常滑	葵	南	87-110	V層	胴	642	外: 10YR5/2灰黄褐色 内: 10YR6/1褐灰色		70R0c55
85	常滑	葵	南	Dトレンチ	V層	胴	221	外: 7.5Y5/3灰オリーブ色 内: 25Y5/2灰黄褐色	外面に降灰釉	70R0c91
86	常滑	葵	南	86・87-111	V層	胴	495	外: 7.5Y5/3灰オリーブ色 内: 25Y6/2灰黄褐色	外面に降灰釉	70R0t146
87	須恵器	瓶頸	南	87-109	IVa層	胴	147	外: N4/灰色 内: 7.5Y5/1灰白色		70R0t149
88	須恵器	長頸瓶	南	88-112	IV b層	胴	279	7.5Y5/1灰白色		70R0c83
89	須恵器	葵	南	Dトレンチ	V層	胴	304	5YR4/2黄褐色	外面ヘラケズリ	70R0t125
143	深美	片口鉢	北	SE3	3層	胴	276	7.5Y6/1灰白色		70R0t1
144	深美	葵	北	SE3	1層	胴	112	25Y7/1灰白色		70R0c78
145	深美	葵	北	SE3	2層	胴	1019	外: 25Y5/1黄灰色 内: 25Y6/1黄灰色	押印(平行条線文)	70R0t13
146	深美	葵	北	SE3	1層	胴	215	外: 5Y7/1灰白色 内: 25Y5/2暗灰黄色	押印(平行条線文) 外 面に降灰釉	70R0c40
147	深美	葵	北	SE3	1層	胴	276	5Y4/1灰白色	押印(格子文)	70R0t144
148	深美	葵	北	SE3	1層	胴	1015	外: 7.5YR5/4にふい褐色 内: 7.5YR7/1暗褐灰色	押印(三巴文・縦長格子 文) 外面に降灰釉	70R0c88
149	深美	葵	北	SE3	2層	口縁	454	外: 5Y4/2灰オリーブ色 内: 5Y6/3オリーブ黄褐色		70R0t185
150	深美	葵	北	SE3	1層	胴	358	外: 7.5Y4/1灰白色 内: 7.5Y6/1灰白色		70R0c209
151	深美	葵	北	SE3	2層	胴	798	外: 5Y6/1灰白色 内: 7.5Y5/2灰オリーブ色		70R0c205
152	常滑	壺	北	SE3	1層	胴	2382	外: 5Y4/1灰白色 内: 5Y7/1灰白色		70R0c5
153	常滑	葵	北	SE3	1層	胴	246	外: 7.5Y4/3暗オリーブ色 内: 10YR3/3暗褐色	外面に降灰釉	70R0c51
154	常滑	葵	北	SE3	1層	胴	116	外: 5Y6/1灰白色 内: 5Y7/2灰白色		70R0c75
155	常滑	葵	北	SE3	2層	胴	95	外: 25Y3/1黄灰色 内: 5Y6/1灰白色		70R0c204
156	須恵器	葵	北	SE3	2層	胴	693	7.5Y3/1オリーブ黒色	外面格子タタキ	70R0t192
175	深美	葵	北	SK22	1層	胴	367	7.5Y5/1灰白色	押印(縦長格子文)	70R0t167
176	深美	葵	北	SK22	6層	胴	5347	25Y5/1黄灰色	押印(平行条線文)	70R0c206
177	常滑	葵	北	SK22	1層	胴	54	外: 7.5Y5/3灰オリーブ色 内: 25Y5/3黄褐色	外面に降灰釉	70R0c20
178	常滑	葵	北	SK22	4層	胴	835	外: 7.5Y5/2灰オリーブ色 内: 7.5Y6/1灰白色	外面に降灰釉	70R0t17
179	常滑	葵	北	SK22	6層	胴	255	外: 25YR3/3暗赤褐色 内: 25YR3/1暗赤褐色	外面に降灰釉	70R0t11
180	深美	葵	北	56SK40	検出面	胴	811	5Y4/1灰白色	押印(格子文)	70R0c61
181	常滑	葵	北	SK22	1層	胴	814	外: 7.5Y4/3暗オリーブ色 内: 10YR6/4にふい黄褐色	2片あり、1点は61・73 と接合	70R0c66
181	常滑	葵	北	SK22	1層	胴	62	外: 7.5Y4/3暗オリーブ色 内: 10YR6/4にふい黄褐色	61・66と接合	70R0c73
181	常滑	葵	北	56SK40	検出面	胴	-	外: 7.5Y4/3暗オリーブ色 内: 10YR6/4にふい黄褐色	66・73と接合	70R0c61
182	常滑	葵	北	SK22	6層	胴	6305	外: 7.5Y4/3暗オリーブ色 内: 10YR5/6黄褐色	180-183・194と接合	70R0c99
182	常滑	葵	北	SK22	6層	胴	516	外: 7.5Y4/3暗オリーブ色 内: 10YR5/6黄褐色		70R0c180
182	常滑	葵	北	SK22	6層	胴	631	外: 7.5Y4/3暗オリーブ色 内: 10YR5/6黄褐色	外面に降灰釉	70R0t181
182	常滑	葵	北	SK22	6層	胴	318	外: 7.5Y4/3暗オリーブ色 内: 10YR6/5黄褐色	押印(縦長格子文)	70R0t182

型式	種別	器種名	調査区	出土遺構	層位	部位	数量 (個)	色調	その他	登録番号
182	常滑	甕	北	SK22	6層	胴	143	外: 75Y4・3暗オリーブ色 内: 10YR6・5黄褐色		70R01183
182	常滑	甕	北	SK22	6層	胴	312	外: 75Y4・3暗オリーブ色 内: 10YR6・5黄褐色	180-183と同一個体か	70R01194
183	常滑	甕	北	SK22	6層	口縁	711	外: 5Y2・2オリーブ黒色 内: 5Y6・1灰色	内外面に降灰釉	70R01184
184	常滑	甕	北	SK22	6層	胴	188	外: 25Y6・1黄灰色 内: 5Y4・2灰オリーブ色		70R0200
185	常滑	壺	北	SK22	6層	胴	429	外: 5Y3・1オリーブ黒色 内: 5Y6・1灰色		70R02201
186	常滑	甕	北	SK22	4層	胴	569	外: 75Y4・3暗オリーブ色 内: 75YR4・4褐色	外面に降灰釉	70R0141
187	須恵器系	甕	北	SK22	6層	胴	446	外: 3Y7・1灰白色 内: 25Y3・1黒褐色		70R01193
188	須恵器系	甕	北	SK22	4層	胴	629	N6/灰色	押印(内面不明, 外面平行条線文)	70R01198
190	瀬美	甕	北	SK24	3層	胴	739	5Y4/1灰色	押印(平行条線文)16・2と接合	70R01110
190	瀬美	甕	北	SK24	1層	胴	1240	5Y4/1灰色	押印(平行条線文)110と接合	70R01062
190	瀬美	甕	北	SK24	1層	胴	473	5Y5/1灰色	押印(平行条線文)	70R01061
190	瀬美	甕	北	SK24	1層	胴	1476	5Y4/1灰色	押印(平行条線文)14と接合	70R01063
190	瀬美	甕	北	SK24	2層	胴	722	5Y4/1灰色	押印(平行条線文)6・3と接合	70R014
190	瀬美	甕	北	SK24	1層	胴	3148	5Y4/1灰色	押印(平行条線文)	70R01064
191	瀬美	甕	北	SK24	2層	胴	63	7.5Y5・1灰色		70R027
192	瀬美	甕	北	SK24	3層	胴	400	N5/灰色	押印(縦長格子文)	70R070
193	瀬美	甕	北	SK24	2層	胴	492	外: 25Y6・1黄灰色 内: 25Y5・1黄灰色	押印(縦長格子文)	70R059
194	瀬美	甕	北	SK24	2層	胴	1031	5Y4/1灰色	押印(平行条線文)	70R022
195	瀬美	甕	北	SK24	1層	胴	699	外: 5Y7・2灰白色 内: 25Y6・1黄褐色		70R01195
196	常滑	甕	北	SK24	2層	胴	307	外: 5YR3・2暗赤褐色 内: 75Y4・3暗オリーブ色	内面に降灰釉	70R0165
197	瀬美	甕	北	SK24		胴	876	外: 25Y7/1灰白色 内: 25Y8・1灰白色	押印(平行条線文)42と接合	70R0130
197	瀬美	甕	北	69-47		灰土	537	外: 25Y7/1灰白色 内: 25Y8・1灰白色	130と接合	70R042
198	常滑	甕	北	SK24	2層	胴	312	外: 5Y2・2オリーブ黒色 内: 25Y6・4に・お・い・黄褐色	押印(平行条線文) 外面に降灰釉 154・102・117と接合	70R026
198	常滑	甕	北	SK24	2層	胴	827	外: 5Y2・2オリーブ黒色 内: 25Y6・4に・お・い・黄褐色	26・154・117と接合	70R01102
198	常滑	甕	北	SK24	2層	胴	507	外: 5Y2・2オリーブ黒色 内: 25Y6・4に・お・い・黄褐色	26・102・154と接合	70R01117
198	常滑	甕	北	SK24	1層	胴	79	外: 7.5Y5・3灰色 内: 25Y5・4黄褐色	26・102・117と接合	70R01154
199	常滑	甕	北	SK24	2層	胴	83	外: 10YR3・2黒褐色 内: 10YR5・6黄褐色		70R0135
200	常滑	甕	北	SK24	2層	胴	71	25Y5・1黄灰色		70R0169
202	常滑	甕	北	SK24	2層	胴	579	25Y2・1灰色	押印(縦長格子文か)	70R072
203	瀬美	甕	北	SK20	2層	胴	210	外: 5Y4・1灰色 内: 5Y3・1オリーブ黒色	押印(平行条線文) 内面に降灰釉	70R0208
204	須恵器系	壺	北	SK20	1層	胴	1779	外: 5Y2・1黒色 内: 5Y3・1オリーブ黒色		70R01107
209	瀬美	甕	北	SX1		胴	742	外: 5YR8・1灰白色 内: 25Y7・3浅黄色	外面に降灰釉	70R024
210	瀬美	甕	北	SX1		検出面	740	N3/暗灰色	内面に降灰釉	70R054
211	瀬美	甕	北	SX1		胴	1681	外: 5Y7/1灰白色 内: 25Y6・2黄褐色		70R0112
212	瀬美	壺	北	SX1		検出面	98	5YR・1灰白色		70R0133
213	瀬美	壺	北	SX1		検出面	165	5Y4/1灰色	内面上部に降灰釉	70R056
214	瀬美	甕	北	SX1		胴	1090	5Y7/2灰白色	押印(格子文)	70R0121
215	瀬美	壺	北	SX1		胴～底	24500	外: 75YR4・4褐色 内: 25Y7/1灰白色	外面に降灰釉	70R0210
216	変器系	壺	北	SX1		口縁	2418	外: 75Y4・2灰オリーブ色 内: 75Y6・1灰色	漆付着・黏土等は大口甕の製品に類似	70R0186
223	瀬美	甕	北	56SK52	2層	胴	111	外: 75Y3・2オリーブ黒色 内: 5Y4・1灰色	外面に降灰釉	70R0152
227	常滑	壺	北	56SK52		口縁	44	外: 5Y7/1灰白色 内: 75Y4/1灰色	内面一部に降灰釉	70R0177
228	常滑	甕	北	SK4		胴	75	外: 10YR2・3暗褐色 内: 10YR5・2灰黄褐色		70R0157
229	瀬美	甕	北	SK5		胴	141	N4/灰色		70R0174
230	常滑	甕	北	SK8		胴	511	外: 75YR2・2黒褐色 内: 10YR4・3に・お・い・黄褐色		70R071
231	須恵器系	甕	北	SK8		胴	993	N5/灰色	外面ヘラケズリ	70R0140
232	瀬美	甕	北	SK10		胴	382	外: 75Y6・3オリーブ黄色 内: 25Y6・3に・お・い・黄褐色	外面に降灰釉	70R0161
233	瀬美	甕	北	SK21		灰土	2114	5Y3・2オリーブ黒色	内面一部と外面に降灰釉	70R0104
234	瀬美	甕	北	SK25		検出面	534	5Y3・1オリーブ黒色		70R082
235	瀬美	甕	北	SK25		口縁	191	外: 75Y3・2オリーブ黒色 内: 75Y7/1灰白色	内外面に降灰釉	70R0134
236	須恵器系	甕	北	SK25		検出面	676	5Y4/1灰色		70R0166
237	須恵器系	壺	北	SK25		検出面	170	N6/灰色		70R0122
238	瀬美	甕	北	SK28		胴	152	外: 5Y4・2灰オリーブ色 内: 5Y7/1灰白色		70R039

装置番号	種別	設備名	調査区	出土遺構	層位	部位	面積 (㎡)	色調	その他	記録番号
239	深美	短冊壺	北	565D1	表土	面	2096	外: 7.5Y5.2/灰オリーブ色 内: 5Y7.1/灰白色	外面に降灰輪	70R0c190
240	常滑	甕	北	56E/257		側	135	5Y5/2灰オリーブ色		70R0c228
250	深美	甕	北	60-48		側	881	外: 5Y4.2/灰オリーブ色 内: 5Y5.1/灰色	外面にヘラズリ 外面 に降灰輪	70R0c137
251	深美	甕	北	60-49		側	198	外: 7.5YR5.4/ふい褐色 内: 7.5YR7.3/ふい褐色		70R0c145
252	深美	甕	北	61-48		側	261	外: 2.5Y6.1/黄灰色 内: 2.5Y4.3/オリーブ褐色		70R0c50
253	深美	甕	北	61-48		側	44	外: 5Y5.4/オリーブ色 内: 5Y7.1/灰白色	外面に降灰輪	70R0c176
254	深美	壺	北	67-45		面	73	外: 7.5Y4.3/暗オリーブ色 内: 7.5Y3.1/オリーブ黒色	外面に降灰輪	70R0c8
255	深美	壺	北	67-45		側	1121	5Y7.1/灰白色		70R0c3
256	深美	壺	北	67-45		側	1241	5Y4.1/灰色	押印(平行条線文)	70R0c9
257	深美	壺	北	67-45		側	1493	7.5Y2.1/黒色	押印(縦長格子文)	70R0c10
258	深美	甕	北	67-45		口縁	120	外: 10YR3.2/黒褐色 内: 5Yオリーブ黄色	内外面に降灰輪	70R0c37
259	深美	甕	北	67-45		側	752	外: 10Y3.1/オリーブ黒色 内: 7.5Y6.3/オリーブ黄色	内面に降灰輪	70R0c45
260	深美	甕	北	67-45		側	234	5Y4.1/灰色		70R0c46
261	深美	甕	北	67-45		側	135	2.5Y6.2/黄灰色		70R0c114
262	深美	壺	北	67-45	表土	側	1555	外: 5Y4.1/灰色 内: 5Y6.1/灰色		70R0c98
263	深美	甕	北	69-47	表土	側	319	外: 7.5Y3.1/オリーブ黒色 内: 7.5Y4.1/灰色	外面に降灰輪	70R0c96
264	深美	甕	北	71-48	表土	側	151	外: 5Y7.1/灰色 内: 8N/灰白色	外面に降灰輪	70R0c203
265	深美	甕	北	71-50	表土	側	282	7.5YR6.2/灰褐色		70R0c89
266	深美	甕	北	71-50	表土	側	672	5Y3.1/オリーブ黒	押印(格子文)	70R0c94
267	深美	甕	北	71-50	表土	側	291	5YR1.0/白色	押印(平行条線文か)	70R0c105
268	深美	甕	北	71-50	表土	側	246	7.5Y8.1/灰白色		70R0c147
269	深美	甕	北	71-50	表土	側	223	7.5Y7.1/灰白色		70R0c153
270	深美	甕	北	71-50	表土	側	734	外: 2.5Y7.2/黄灰色 内: 2.5Y6.1/黄灰色		70R0c16
271	深美	壺	北	71-50	表土	側	102	N6/灰色		70R0c151
272	深美	甕	北	71-51		側	283	外: 7.5YR5.3/ふい褐色 内: 7.5YR7.2/明褐色	押印(縦長格子文)	70R0c196
273	深美	甕	北	72-49	検出面	側	118	外: 10YR4.2/黄褐色 内: 10YR7.1/灰白色		70R0c188
274	深美	甕	北	72-49	検出面	面	314	5Y6.2/灰オリーブ色	内面に降灰輪	70R0c207
275	深美	甕	北	61-48	検出面	側	233	外: 7.5Y4.3/暗オリーブ色 内: 2.5Y4.3/オリーブ褐色	外面に降灰輪	70R0c23
276	深美	甕	北	71-48~51	表土検出中	側	261	5Y7.1/灰白色		70R0c43
277	深美	甕	北	71-48~51	表土検出中	側	1557	外: 10YR5.2/黄褐色 内: 10Y3.2/オリーブ黒色	内面に降灰輪	70R0c25
278	深美	甕	北	71-48~51	表土検出中	側	211	5Y8.1/灰白色		70R0c77
279	深美	甕	北	71-48~51	表土検出中	側	2346	2.5Y7.1/灰白色	押印(格子文) 外面に降灰輪	70R0c113
280	深美	甕	北	71-48~51	表土検出中	側	830	外: 7.5Y4.1/灰色 内: 7.5Y6.1/灰色		70R0c115
281	深美	壺	北	71-48~51	表土検出中	側	198	外: 2.5Y4.2/黄灰色 内: 2.5Y5.1/黄灰色	外面に降灰輪	70R0c123
282	深美	甕	北	71-48~51	表土検出中	側	124	外: 5Y5.3/灰オリーブ色 内: 5Y5.1/灰色	外面に降灰輪	70R0c170
283	深美	甕	北	71-48~51	表土検出中	側	1114	外: 5Y3.2/オリーブ黒色 内: 5Y5.1/灰色	押印(平行条線文)	70R0c142
284	深美	甕	北	66-48~51	表土検出中	側	2778	外: 7.5Y4.3/暗オリーブ色 内: 7.5Y2.1/黒色	押印(平行条線文)	70R0c4
285	深美	甕	北	66-48~51	表土検出中	側	1621	外: 7.5Y4.3/暗オリーブ色 内: 7.5Y2.1/黒色	押印(平行条線文)	70R0c100
286	深美	甕	北	66-48~51	表土検出中	口縁	245	5Y3.1/オリーブ黒色		70R0c126
287	深美	壺	北	66-48~51	表土検出中	口縁	44	7.5Y6.1/灰色	内外面に降灰輪	70R0c129
288	深美	甕	北	66-48~51	表土検出中	側	229	N4/灰色		70R0c131
289	深美	甕	北	66-48~51	表土検出中	口縁	1641	5Y3.1/オリーブ黒色		70R0c153
290	深美	甕	北	T8	表土	側	238	外: 2.5Y5.2/黄褐色 内: 2.5Y6.3/ふい黄色	外面に降灰輪	70R0c58
291	深美	甕	北	北		側	412	外: 5YR4.2/灰褐色 内: 5Y7.2/黄灰色	内面に降灰輪	70R0c68
292	深美	甕	北	北側		側	93	7.5Y7.1/灰白色		70R0c49
293	深美	甕	北	北側		側	296	外: N5/灰色 内: N5/灰色		70R0c155
294	深美	甕	北	北側		側	317	外: 7.5Y4.3/暗オリーブ色 内: 5Y6.1/灰色	外面に降灰輪	70R0c162
295	深美	甕	北	北側	表土	側	344	外: 5Y4.1/灰色 内: 2.5Y6.1/黄灰色		70R0c53
296	深美	甕	北	北側	表土	側	1254	2.5Y4.2/黄灰色	押印(三つ巴文, 平行条線文)	70R0c148
297	深美	甕	北	北側	表土	側	901	外: N4/灰色 内: 7.5Y6.1/灰色		70R0c57
298	深美	甕	北	北側	表土	側	194	外: 2.5Y6.2/黄灰色 内: 5Y6.1/灰色		70R0c90
299	深美	壺	北	北側	表土	口縁	149	外: 7.5YR6.1/褐色 内: 5Y4.2/灰オリーブ色	内面に降灰輪	70R0c92
300	深美	甕	北	北側		側	391	2.5Y4.1/黄灰色		70R0c74

資料番号	種別	器種名	調査区	出土遺構	層位	部位	面積 (㎡)	色調	その他	登録番号
301	深美	婁	北	北側	表土	刷	265	外: N5/灰色 内: 5Y6/2灰オリーブ色		70R0109
302	深美	突帯文壺	北	北側	表土	口縁	472	外: 2.5Y5/1黄灰色 内: 10YR4/4褐色		70R0421
303	深美	婁	北	北区	表土中	刷	93	外: 7.5Y5/1灰白色 内: 7.5Y7/1灰白色		70R01068
304	深美	壺	北	北側	表土	口縁	38	外: 7.5Y6/2灰オリーブ色 内: 7.5Y6/1灰白色	外面に降灰種	70R01118
305	深美	婁	北	北区	表土中	刷	345	外: 7.5Y3/2オリーブ黒色 内: 7.5Y4/1灰白色	押印(平行条線文)	70R01108
306	深美	婁	北	北区	表土	刷	509	外: 5Y3/2オリーブ黒色 内: 5Y6/1灰白色		70R01197
307	深美	婁	北	北区	表土中	刷	1526	外: 10YR4/2黄褐色 内: 10YR6/1褐色	内面に降灰種	70R0431
308	深美	婁	北	北区	表土中	刷	434	外: 5Y4/1灰白色 内: 5Y7/1灰白色		70R0476
309	深美	壺	北	北区	表土中	刷	1223	10YR4/2黄褐色	外面に降灰種	70R0479
310	深美	婁	北	試掘トレンチ		刷	324	外: 10YR6/1褐色 内: 2.5Y6/2黄褐色		70R01199
311	常滑	婁	北	69-47	表土	口縁	129	5Y3/2オリーブ黒色	内外面に降灰種	70R01116
312	常滑	壺	北	67-45		刷	746	5YR4/3C:おおい赤褐色	外面に降灰種	70R0101
313	常滑	壺	北	71-50		刷	810	外: 2.5Y5/1黄褐色 内: 10YR6/4C:おおい黄褐色	外面に降灰種	70R041
314	常滑	壺	北	71-50	表土	刷	47	外: 2.5Y5/1黄褐色 内: 2.5Y3/1黒褐色		70R0452
315	常滑	婁	北	71-50		刷	97	外: 7.5YR3/2黒褐色 内: 10YR5/2黄褐色		70R0464
316	常滑	婁	北	71-50		刷	229	外: 2.5YR3/2暗赤褐色 内: 10YR5/3C:おおい黄褐色		70R0487
317	常滑	壺	北	71-50	表土	刷	255	外: 2.5Y8/1灰白色 内: 2.5Y4/1黄灰色		70R0103
318	常滑	婁	北	67-45	検出面	刷	387	外: 10YR1/7黒色 内: 10YR4/2黄褐色		70R0430
319	常滑	婁	北	71-48~51	表土検出中	刷	227	5YR4/3C:おおい赤褐色	内面に降灰種	70R0119
320	常滑	婁	北	71-48~51	表土検出中	口縁	69	7.5Y5/1灰白色		70R0171
321	常滑	壺	北	66-48~51	表土検出中	刷	1349	外: 5YR3/2暗赤褐色 内: 5YR4/2黄褐色	外面に降灰種	70R0438
322	常滑	婁	北	66-48~51	表土検出中	刷	397	10YR3/4暗褐色		70R0497
323	常滑	壺	北	66-48~51	表土検出中	刷~底	1345	外: 5Y4/1灰白色 内: 5Y7/1灰白色		70R0120
324	常滑	婁	北	66-48~51	表土検出中	刷	140	外: 2.5Y3/2黒褐色 内: 2.5Y2/2暗赤褐色	押印(縦長格子文)	70R0158
325	常滑	婁	北	北側		刷	239	外: 5Y4/4暗オリーブ色 内: 10YR3/4暗褐色	外面に降灰種	70R0136
326	常滑	壺	北	北区	表土	刷	702	外: 7.5Y4/3暗オリーブ色 内: 5Y4/2灰オリーブ色	外面に降灰種	70R0211
327	常滑	婁	北	北側		刷	103	外: 2.5YR2/2暗赤褐色 内: 5Y3/2オリーブ黒色		70R01178
328	常滑	婁	北	北側	表土	刷	44	外: 10YR3/4暗褐色 内: 10YR5/2黄褐色		70R0127
329	常滑	婁	北	北側	表土	刷	648	外: 7.5Y6/4C:おおい橙色 内: 10YR6/3C:おおい黄褐色	外面に降灰種	70R01112
330	常滑	婁	北	北側	表土	刷	674	外: 10YR6/2黄褐色 内: 10YR6/3C:おおい黄褐色		70R0138
331	常滑	壺?	北	北区	表土中	刷	120	外: 2.5Y3/2黒褐色 内: 10YR4/3C:おおい黄褐色		70R0150
332	常滑	婁	北	北区 T2 西	検出面	刷	102	外: 2.5Y8/1灰白色 内: 2.5Y5/1黄褐色		70R0106
333	常滑	婁	北	北区 T2 西	検出面	刷	133	外: 5Y7/1灰白色 内: 2.5Y5/1黄褐色		70R0172
334	常滑	壺	北	表土		刷	123	外: 7.5Y5/3灰オリーブ色 内: 5Y6/2灰オリーブ色	押印(平行条線文) 外	70R0167
335	常滑	壺	北	北側	表土	口縁	291	5Y5/3灰オリーブ色	内外面に降灰種	70R0140
336	須恵器	長頸瓶	北	71-50		刷	152	外: N4/灰白色 内: N7/灰白色		70R0484
337	須恵器	瓶	北	北側	表土	刷	282	7.5Y4/1灰白色		70R0444
338	須恵器	婁	北	北側		刷	518	N3/暗灰色	外面ヘラケズリ	70R01111
339	須恵器	婁	北	北区	表土中	口縁	186	7.5YR2/1黒色		70R0128
340	須恵器	不明	北	北区	表土中	口縁	29	7.5Y6/1灰白色		70R0485
341	須恵器	壺	北	北区	表土中	刷	748	外: 7.5Y3/1オリーブ黒色 内: 7.5Y5/1灰白色	外面に降灰種	70R0486
342	須恵器	婁	北	北区	表土中	刷	83	5Y4/1灰白色	外面にヘラケズリ	70R069
343	須恵器系	片口鉢	北	71-48~51	表土検出中	口縁	424	N6/灰白色		70R0465
344	須恵器系	婁	北	71-48~51	表土検出中		6195	N6/灰白色	外面ヘラケズリ	70R018
345	須恵器系	婁	北	北区 T2 西	検出面	刷	728	外: 10YR3/1黒褐色 内: 5Y7/1灰白色	外面ヘラケズリ	70R0435
346	常滑	婁	北	北区 トレンチ	検出面	刷	220	外: 7.5YR3/4暗褐色 内: 7.5YR4/3褐色	摩耗陶片として転用	70R0179
347	古瀬戸	香印	北	北区 トレンチ	検出面	刷	58	外: 2.5Y6/6明黄褐色 内: 2.5Y8/4黄褐色	外面一帯洗脱、外面灰種?	70R0232
348	常滑	婁	北	北区 トレンチ	検出面	刷	104	外: 5Y7/2灰白色 内: 10YR6/3C:おおい黄褐色		70R0187
349	須恵器系	婁	北	北区 トレンチ	検出面	刷	3065	外: N3/暗灰色 内: N4/灰白色	外面ヘラケズリ	70R0189

表16 出土遺物観察表(瓦・その他)

調査番号	器種名	調査区	出土遺構	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	色調	その他	登録番号
94	平瓦	南	87-110	V層	29.2	12.2	2.1	1297.8	N5/～6 灰色	凸面：縄目叩き 凹面：布目痕、磨れ砂	70RT14
95	平瓦	南	87-111	V層	(13.3)	(8.8)	1.3	218.7	N4/灰色	凸面：縄目叩き、磨れ砂 凹面：一部布目痕	70RT5
350	平瓦	北	SK22	5層	(8.5)	(8.5)	2.1	208	N2/黒色	凸面：縄目叩き 凹面：布目痕	70RT1
351	平瓦	北	SK22	5層	(10.0)	(9.8)	2.1	201.7	N3/暗灰色	凸面：縄目叩き、磨れ砂 凹面：磨れ砂、粘土に骨片を含む	70RT2
352	平瓦	北	SK24	2層	(5.5)	(13.4)	2.0	154.2	75YR8/1黒褐色	凸面：磨れ砂 凹面：布目痕、磨れ砂	70RT6
353	平瓦	北	北区	表土	(10.0)	(7.4)	1.7	179.6	2.5YR6/6褐色・10R3/1黒褐色	凸面：磨れ砂 凹面：磨れ砂	70RT3
354	平瓦	北	69-47	表土	(12.9)	(7.8)	2.4	300.4	2.5Y7/2灰黄色・10YR6/1褐色	凸面：縄目叩き 凹面：糸目痕	70RT4
355	平瓦	北	67-45		(8.3)	(8.0)	2.2	171.4	75YR7/6褐色	凸面：ナデ 凹面：ナデ 粘土に骨片含む	70RT7
	平瓦	北	87-109	Vc層	(7.3)	(5.4)	2.2	73.1	75YR8/4浅黄褐色	凸面：縄目叩き 凹面：布目痕	70RT8
	平瓦	北	SK22	5層	(5.8)	(5.0)	1.5	53.1	N2/黒色・2.5Y6/2灰黄褐色	凸面：縄目叩き 凹面：剥落	70RT10
	瓦	北	北	表土	(6.2)	(5.4)	2.0	39	5YR6/8褐色	凸面：縄目叩き 全体に摩耗	70RT12
	平瓦	北	北	表土	(4.4)	(3.8)	1.3	24.4	N2/黒色・7.5YR6/6褐色	凸面：剥落 凹面：布目痕、磨れ砂	70RT13
	瓦	北	北区 瀬トレン	検出面	(4.5)	(4.0)	(1.5)	21.3	75YR7/4にぶい褐色	深いキズとあり	70RT11
	平瓦	北	北区 瀬トレン	検出面	(6.1)	(4.3)	(2.1)	43.1	10YR8/6黄褐色	凸面：縄目叩き	70RT9
	壁土	北	SK1					345			70RY1
	鉄製品小刀	北	SK25	検出面	(4.1)	(2.5)	0.5	139		関節のみ残存	70RM1

表17 出土遺物観察表(木製品)

調査番号	種類	器種名	出土遺構	層位	長さ	幅	厚さ	分類	備考	登録番号
97	木製品	折敷	21SD2	F層	27.1	2.9	0.4			70RW 738
98	木製品	折敷	69SX3	C層	28.8	3.7	0.5		2片	70RW 756
99	木製品	板	21SD2	F層	41.6	4.9	5.5			70RW 760
98	木製品	杖	21SD2	Dトレン 出土地点	70.1	4.4	(4.1)			70RW 761
100	木製品	板	21SD2	Dトレン	杖取り上げ	92.2	5.1	4.8		70RW 762
101	木製品	下駄	69SX3	C層	(16.1)	11.1	1.0			70RW 752
102	漆製品	板	21SD2	F層	(2.6)	7.8	0.6		内外面黒漆	70RW 751
103	漆製品	板	69SX3	C層	(2.7)	(7.6)	0.6		内外面黒漆	70RW 755
356	木製品	折敷	SE3	5層	30.7	13.7	0.8		両面に牙物痕	70RW 759
357	木製品	折敷	SE3	5層	35.5	3.3	0.4			70RW 758
358	木製品	不明	SE3	5層	7.5	1.7	0.3			70RW 754
359	漆製品	板	SE3	5層	5.4	2.8	1.0		内外面黒漆	70RW 753
360	木製品	折敷	SK22	6層	12.2	11.9	0.4		黒青	70RW 732
361	木製品	折敷	SK22	6層	8.1	4.6	0.6		黒青	70RW 735
362	木製品	折敷	SK22	6層	8.0	7.8	0.6		黒青	70RW 702
363	木製品	折敷	SK22	6層	7.4	4.9	0.4		黒青	70RW 736
364	木製品	折敷	SK22	6層	9.1	4.1	0.3		黒青	70RW 561
365	木製品	折敷	SK22	6層	9.7	5.2	0.5		黒青	70RW 733
366	木製品	折敷	SK22	6層	10.4	1.8	0.2		黒青	70RW 734
367	木製品	折敷	SK22	6層	19.5	2.2	0.4			70RW 312
368	木製品	折敷	SK22	6層	18.3	4.4	0.2			70RW 313
369	木製品	折敷	SK22	6層	27.2	2.3	0.3			70RW 518
370	木製品	折敷	SK22	6層	17.6	2.0	0.5		片断に糸通し	70RW 137
371	木製品	折敷	SK22	6層	16.1	2.5	0.5			70RW 129
372	木製品	折敷	SK22	6層	14.1	3.6	0.6			70RW 558
373	木製品	折敷	SK22	6層	14.8	2.3	0.3			70RW 498
374	木製品	折敷	SK22	6層	13.3	2.4	0.4			70RW 44
375	木製品	折敷	SK22	6層	12.7	2.0	0.1			70RW 47
376	木製品	折敷	SK22	6層	9.3	1.9	0.4			70RW 142
377	木製品	折敷	SK22	6層	5.5	1.9	0.3			70RW 649
378	木製品	折敷	SK22	6層	9.7	1.7	0.4		残存存か	70RW 644
379	木製品	折敷	SK22	6層	6.5	0.6	0.6		残部分	70RW 588
380	木製品	漆木	SK22	6層	22.4	0.9	0.5	A	黒青	70RW 37
381	木製品	漆木	SK22	6層	22.7	1.2	0.5	A	黒青 382と接合	70RW 32・35
382	木製品	漆木	SK22	6層	22.9	1.1	0.4	A	黒青 381と接合	70RW 38
383	木製品	漆木	SK22	6層	22.7	0.8	0.5	A	黒青	70RW 36・39
384	木製品	漆木	SK22	6層	20.4	1.1	0.3	A		70RW 405
385	木製品	漆木	SK22	6層	14.7	1.2	0.5	A		70RW 379
386	木製品	漆木	SK22	6層	5.9	1.0	0.2	A		70RW 643
387	木製品	漆木	SK22	6層	21.9	0.7	0.6	A		70RW 373
388	木製品	漆木	SK22	6層	27.6	1.4	0.4	A		70RW 65
389	木製品	漆木	SK22	6層	27.6	1.3	0.4	A	火きり転用?	70RW 192
390	木製品	漆木	SK22	6層	24.0	0.8	0.4	A		70RW 101
391	木製品	漆木	SK22	6層	19.1	1.1	0.6	A		70RW 78

調査号	種別	器種名	出土遺構	層位	長さ	幅	厚さ	分類	備考	登録番号
392	木製品	漆木	SK22	6層	18.1	1.3	0.5	A		70RW323
393	木製品	漆木	SK22	6層	16.2	1.1	0.3	A		70RW567
394	木製品	漆木	SK22	6層	8.6	0.7	0.3	A	焦げ	70RW680
395	木製品	漆木	SK22	6層	25.3	1.4	0.6	A		70RW355
396	木製品	漆木	SK22	6層	22.0	1.2	0.7	A	黒痕	70RW31
397	木製品	漆木	SK22	6層	27.7	1.4	0.3	A		70RW358
398	木製品	漆木	SK22	6層	25.3	0.9	0.7	A		70RW190
399	木製品	漆木	SK22	6層	23.1	0.8	0.5	A		70RW416
400	木製品	漆木	SK22	6層	22.2	1.0	0.4	A		70RW319
401	木製品	漆木	SK22	6層	18.9	0.9	0.5	A		70RW55
402	木製品	漆木	SK22	6層	20.3	0.9	0.3	A		70RW422
403	木製品	漆木	SK22	6層	18.2	0.8	0.6	A		70RW371
404	木製品	漆木	SK22	6層	18.0	1.3	0.5	A		70RW316
405	木製品	漆木	SK22	6層	17.4	1.5	0.6	A		70RW73
406	木製品	漆木	SK22	6層	29.0	0.7	0.4	B		70RW125
407	木製品	漆木	SK22	6層	24.9	1.0	0.6	B		70RW99
408	木製品	漆木	SK22	6層	25.6	0.9	0.3	B		70RW146
409	木製品	漆木	SK22	6層	25.9	1.0	0.5	B		70RW119
410	木製品	漆木	SK22	6層	26.1	1.0	0.3	B		70RW328
411	木製品	漆木	SK22	6層	23.0	0.8	0.6	B		70RW109
412	木製品	漆木	SK22	6層	24.1	1.7	0.5	B		70RW501
413	木製品	漆木	SK22	6層	23.1	1.5	0.3	B		70RW97
414	木製品	漆木	SK22	6層	24.2	1.4	0.5	B		70RW365
415	木製品	漆木	SK22	6層	19.8	1.0	0.5	B		70RW60
416	木製品	漆木	SK22	6層	23.9	1.2	0.6	B		70RW351
417	木製品	漆木	SK22	6層	23.6	1.2	0.3	B		70RW421
418	木製品	漆木	SK22	6層	23.6	1.0	0.4	B		70RW53
419	木製品	漆木	SK22	6層	21.0	1.0	0.5	B		70RW102
420	木製品	漆木	SK22	6層	21.2	1.1	0.5	B		70RW352
421	木製品	漆木	SK22	6層	21.2	1.2	0.3	B		70RW368
422	木製品	漆木	SK22	6層	20.9	1.2	0.4	B		70RW82
423	木製品	漆木	SK22	6層	27.6	1.4	0.3	B		70RW70
424	木製品	漆木	SK22	6層	15.8	1.1	0.3	B		70RW383
425	木製品	漆木	SK22	6層	23.1	0.7	0.5	B		70RW334
426	木製品	漆木	SK22	6層	23.0	0.8	0.4	B		70RW49
427	木製品	漆木	SK22	6層	24.5	1.0	0.4	B		70RW67
428	木製品	漆木	SK22	6層	23.9	1.0	0.7	C	黒痕	70RW34
429	木製品	漆木	SK22	6層	27.2	2.3	0.4	C		70RW520
430	木製品	漆木	SK22	6層	27.2	2.2	0.4	C		70RW30
431	木製品	漆木	SK22	6層	27.4	1.3	0.3	C		70RW449
432	木製品	漆木	SK22	6層	27.5	1.3	0.4	C		70RW43
433	木製品	漆木	SK22	6層	26.1	1.3	0.5	C	円形の焦げ三カ所	70RW96
434	木製品	漆木	SK22	6層	25.3	1.7	0.5	C		70RW91
435	木製品	漆木	SK22	6層	25.1	1.7	0.4	C		70RW94
436	木製品	漆木	SK22	6層	25.6	1.3	0.4	C	焦げ	70RW139
437	木製品	漆木	SK22	6層	26.0	1.3	0.4	C		70RW515
438	木製品	漆木	SK22	6層	29.5	1.4	0.3	C		70RW116
439	木製品	漆木	SK22	6層	29.2	1.3	0.3	C		70RW329
440	木製品	漆木	SK22	6層	29.5	1.1	0.4	C		70RW517
441	木製品	漆木	SK22	6層	31.9	1.1	0.4	C		70RW282
442	木製品	漆木	SK22	6層	25.9	1.0	0.35	C	榫皮縋じ残存 折れ	70RW140
443	木製品	漆木	SK22	6層	25.1	1.5	0.3	C		70RW189
444	木製品	漆木	SK22	6層	22.7	1.3	0.5	C	黒書?	70RW409
445	木製品	漆木	SK22	6層	22.9	0.7	0.5	C		70RW215
446	木製品	漆木	SK22	6層	22.9	0.7	0.6	C		70RW191
447	木製品	漆木	SK22	6層	13.6	0.8	0.3	C		70RW429
448	木製品	漆木	SK22	6層	23.6	0.9	0.5	C		70RW507
449	木製品	漆木	SK22	6層	20.8	1.1	0.4	C		70RW384
450	木製品	漆木	SK22	6層	20.2	1.1	0.4	C		70RW100
451	木製品	漆木	SK22	6層	19.7	1.4	0.4	C		70RW56
452	木製品	漆木	SK22	6層	19.0	1.0	0.4	C		70RW454
453	木製品	漆木	SK22	6層	18.1	1.4	0.4	C		70RW432
454	木製品	漆木	SK22	6層	16.5	1.2	0.4	C		70RW80
455	木製品	漆木	SK22	6層	20.8	1.0	0.65	C		70RW332
456	木製品	漆木	SK22	6層	19.0	0.9	0.4	C		70RW198
457	木製品	漆木	SK22	6層	18.8	0.9	0.3	C		70RW201
458	木製品	漆木	SK22	6層	20.2	0.7	0.5	C		70RW234
459	木製品	漆木	SK22	6層	21.1	0.8	0.5	C		70RW302
460	木製品	漆木	SK22	6層	19.9	0.6	0.5	C		70RW268
461	木製品	漆木	SK22	6層	20.4	0.7	0.6	C		70RW492
462	木製品	漆木	SK22	6層	19.8	0.7	0.5	C		70RW103
463	木製品	漆木	SK22	6層	19.4	0.5	0.5	C		70RW790
464	木製品	漆木	SK22	6層	21.6	0.8	0.6	C		70RW464
465	木製品	漆木	SK22	6層	24.2	0.7	0.7	C		70RW121
466	木製品	漆木	SK22	6層	12.7	1.1	0.3	C		70RW40
467	木製品	漆木	SK22	6層	15.8	1.3	0.2	C		70RW141
468	木製品	漆木	SK22	6層	12.4	1.1	0.2	C		70RW493
469	木製品	漆木	SK22	6層	11.7	0.4	0.4	C	黒書	70RW33
470	木製品	漆木	SK22	6層	19.5	0.8	0.4	D		70RW235
471	木製品	漆木	SK22	6層	19.7	0.6	0.6	D		70RW230

登録番号	種別	器種名	出土遺構	層位	長さ	幅	厚さ	分類	備考	登録番号
472	木製品	漆木	SK22	6階	20.3	0.5	0.3	D		70RW219
473	木製品	漆木	SK22	6階	19.7	0.6	0.6	D		70RW236
474	木製品	漆木	SK22	6階	19.8	0.8	0.6	D		70RW218
475	木製品	漆木	SK22	6階	20.4	0.6	0.5	D		70RW222
476	木製品	漆木	SK22	6階	19.9	0.5	0.5	D		70RW209
477	木製品	漆木	SK22	6階	20.3	0.6	0.4	D		70RW285
478	木製品	漆木	SK22	6階	19.8	0.6	0.5	D		70RW227
479	木製品	漆木	SK22	6階	19.8	0.6	0.4	D		70RW306
480	木製品	漆木	SK22	6階	20.3	0.7	0.3	D		70RW224
481	木製品	漆木	SK22	6階	19.9	0.7	0.3	D		70RW308
482	木製品	漆木	SK22	6階	19.8	0.6	0.5	D		70RW273
483	木製品	漆木	SK22	6階	19.1	0.4	0.4	D		70RW238
484	木製品	漆木	SK22	6階	19.1	0.5	0.5	D		70RW243
485	木製品	漆木	SK22	6階	19.4	0.7	0.4	D		70RW265
486	木製品	漆木	SK22	6階	24.5	0.9	0.8	E		70RW123
487	木製品	漆木	SK22	6階	20.4	0.7	0.8	E		70RW331
488	木製品	漆木	SK22	6階	19.1	0.6	0.5	E		70RW84
489	木製品	漆木	SK22	6階	19.7	0.8	0.6	E		70RW349
490	木製品	漆木	SK22	6階	17.6	0.8	0.8	E		70RW508
491	木製品	漆木	SK22	6階	17.5	0.6	0.8	E		70RW213
492	木製品	漆木	SK22	6階	18.3	1.0	0.7	E	黒色付着物(漆?樹皮?)	70RW427
493	木製品	漆木	SK22	6階	11.1	0.7	0.6	E		70RW122
494	木製品	漆木	SK22	6階	10.6	1.4	1.0			70RW136
495	木製品	漆木	SK22	6階	32.9	3.3	0.2		無部分	70RW701
496	木製品	漆木	SK22	6階	3.2	3.0	2.4		長軸 短軸 高さ	70RW703
497	木製品	漆木	SK22	6階	3.7	1.7	0.4			70RW554
498	木製品	漆木	SK22	6階	5.4	2.6	0.7		器蓋の先端部か	70RW697
499	木製品	漆木	SK22	6階	4.9	2.5	0.5			70RW696
500	木製品	漆木	SK22	6階	9.8	0.6	0.2		溝加工多数	70RW148
501	木製品	漆木	SK22	6階	14.2	4.2	2.8			70RW714
502	木製品	漆木	SK22	6階	15.2	3.5	1.5			70RW715
503	木製品	漆木	SK22	6階	9.5	3.0	0.5			70RW130
504	木製品	漆木	SK22	6階	6.9	2.5	1.0			70RW566
505	木製品	漆木	SK22	6階	11.0	0.9	0.6		側面焦げ	70RW526
506	木製品	漆木	SK22	6階	11.6	2.6	0.6		焦げ	70RW716
507	木製品	漆木	SK22	6階	10.2	2.4	0.6		先端焦げ	70RW711
508	木製品	漆木	SK22	6階	10.3	1.1	0.6		側面焦げ	70RW487
509	木製品	漆木	SK22	6階	7.7	0.8	0.4		焦げ	70RW538
510	木製品	漆木	SK22	6階	8.6	1.1	1.0		一部炭化	70RW730
511	木製品	漆木	SK22	6階	6.1	1.0	0.5		焦げ?	70RW658
512	木製品	漆木	SK22	6階	3.8	2.4	0.5		焦げ	70RW651
513	木製品	漆木	SK22	6階	6.8	1.8	0.4		先端焦げ	70RW587
514	木製品	漆木	SK22	6階	5.8	2.4	0.5		両面ともに炭化	70RW728
515	木製品	漆木	SK22	6階	5.5	4.2	0.9		焦げ	70RW718
516	木製品	漆木	SK22	6階	23.9	2.1	0.3		竹製	70RW311
517	漆製品	漆	SK22	6階	5.0	16.2	0.5		外面黒漆、内面赤漆	70RW737
518	漆製品	漆	SK22	6階	4.0	2.7	0.4		柄の残欠か	70RW709
519	漆製品	漆	SK22	6階	13.7	0.7	0.4		漆材から漆木に転用か	70RW459
520	漆製品	漆	SK22	6階	12.6	0.7	0.5		漆材から漆木に転用か	70RW200

※腕類の長さは器高、幅は底径(または口径)、厚さは器蓋の厚さ

表18 出土遺物観察表(輸入陶磁器)

登録番号	種別	器種名	産地	出土遺構	層位	形状	色調	胎土	その他	登録番号
91	白磁	密瓶	南	69SX3	C層	胴	29.8 灰白色	灰白色・精緻	皿類	70RG g7
90	白磁	四耳壺	南	88-110	口縁	8.0 淡灰緑色	灰白色			70RG g1
91	中国陶器	密瓶	南	86・87-111	胴	17.8 7.5Y7.2灰白色	5Y7.3灰黄色	外面施漆、貫入多い	外面施漆、貫入多い	70RG0g17
92	白磁	碗	南	86・87-110、111	口縁	4.7 灰白色	灰白色・精緻	V・V類		70RG g14
93	中国陶器	密瓶	南	87-109	V c層	胴	20.4 外:7.5Y4.3灰オリープ色 内:5Y5.3灰オリープ色	外面に障灰施		70RG036
157	白磁	碗	北	SE3	1層	胴	3.8 淡茶灰色	灰白色・精緻	皿類、二次焼成受け	70RG g4
189	白磁	密瓶	北	SK22	5層	胴	1.9 淡灰緑色	灰白色・精緻	横沈線1条	70RG g9
201	白磁	密瓶	北	SK24	1層	胴	10.8 淡灰色	灰白色・精緻	皿類	70RG g15
241	白磁	密瓶	北	56SK52	1層	胴	17.3 灰白色	灰白色・精緻	皿類	70RG g8
242	白磁	密瓶	北	67-45	胴	36.0 黄白色・白濁	黄白色・精緻	皿類		70RG g6
243	白磁	密瓶	北	71-50	表土	胴	4.8 灰緑色	灰白色・精緻	皿類、横沈線1条	70RG g3
244	白磁	碗	北	北北	底部	18.3 黄白色	灰白色・精緻	皿類	化粧土有り、貫入多	70RG g2
245	白磁	密瓶	北	北北	表土	胴	4.5 灰白色	灰白色・精緻	皿類	70RG g5
246	白磁	碗	北	北北	胴	6.6 灰白色	灰白色・精緻	皿類	V類、縦沈線3条	70RG g10
247	中国陶器	密瓶	北	北北(瀬トレンチ)	表土	胴	50.9 外:10YR4.4褐色 内:2.5Y7.1灰白色	黄緑釉彩四耳壺		70RG0160
248	中国陶器	密瓶	北	北北	胴	11.9 7.5Y7.1灰白色				70RG0156
249	中国陶器	密瓶	北	北北	胴	32.0 外:10YR6.3/ふい黄褐色 内:10YR5.4/ふい黄褐色				70RG0165
	磁器	瓶類	北	60-47	胴	1.3 灰白色	灰白色		産地、上給付	70RG g13
	磁器	碗	北	61-48	口縁	3.9 青	灰白色		産地、銅胎転写	70RG g16
	磁器	瓶類	北	北北	表土	胴	2.3 灰白色	灰白色	産地、上給付	70RG g11
	磁器	不明	北	北北	胴	1.4 淡緑色	灰白色		産地、肥前	70RG g12

表19 北区遺構一覧表(柱穴・土坑)

番号	グリッド	長径	×	短径	深さ (cm)	底面標高 (m)	その他
70P1	64-45	45	×	17			新築
70P2	63-45	30	×	20			新築
70P3	63-45	25	×	22			新築
70P4	63-45	23	×	22			新築
70P5	63-45	25	×	19			新築
70P6	64-45	22	×	20			新築
70P7	64-45	21	×	20			新築
70P8	63-45	21	×	16			新築
70P9	63-45	15	×	15			新築
70P10	63-46	25	×	22			新築
70P11	63-46	15	×	11			新築
70P12	63-46	21	×	13			新築
70P13	63-46	16	×	14			新築
70P14	63-46	35	×	25			新築
70P15	63-46	17	×	13			新築
70P16	63-46	24	×	20			新築
70P17	63-46	19	×	17			新築
70P18	62-46	19	×	17			新築
70P19	62-46	22	×	19			新築
70P20	62-46	14	×	13			新築
70P21	62-46	15	×	14			新築
70P22	62-46	17	×	16			新築
70P23	62-46	17	×	12			新築
70P24	62-46	24	×	22			新築
70P25	62-46	17	×	16			新築
70P26	62-46	21	×	18			新築
70P27	62-45	15	×	14			新築
70P28	62-45	18	×	16			新築
70P29	62-45	18	×	16			新築
70P30	62-45	15	×	15			新築
70P31	63-47	24	×	22			新築
70P32	63-47	23	×	19			新築
70P33	63-47	15	×	13			新築
70P34	63-46	14	×	14			新築
70P35	62-46	20	×	25			新築
70P36	62-47	31	×	25			新築
70P37	62-47	28	×	20			新築
70P38	62-46	19	×	19			新築
70P39	62-46	17	×	16			新築
70P40	62-46	25	×	22			新築
70P41	62-46	21	×	19			新築
70P42	62-46	35	×	48			新築
70P43	62-46	21	×	18			新築
70P44	62-46	31	×	26			新築
70P45	62-47	14	×	11			新築
70P46	62-47	20	×	19			新築
70P47	62-46	23	×	20			新築
70P48	63-47	33	×	20			新築
70P49	62-47	23	×	19			新築
70P50	62-47	15	×	14			新築
70P51	62-47	25	×	26			新築
70P52	62-47	22	×	17			新築
70P53	61-46	21	×	20			新築
70P54	61-46	30	×	24			新築
70P55	62-46	16	×	13			新築
70P56	61-47	16	×	13			新築
70P57	61-47	15	×	9			新築
70P58	61-47	30	×	21			新築
70P59	61-47	32	×	29			新築
70P60	62-47	28	×	28			新築
70P61	62-47	29	×	28			新築
70P62	62-47	28	×	26			新築
70P63	62-47	22	×	17			新築
70P64	62-47	18	×	14			新築
70P65	62-47	21	×	19			新築
70P66	61-46	25	×	23			新築
70P67	61-47	15	×	12			新築
70P68	61-46	18	×	16			新築
70P69	60-46	24	×	22			新築
70P70	61-46	23	×	22			新築
70P71	61-46	22	×	16			新築
70P72	61-47	35	×	26			新築
70P73	60-47	21	×	19			新築
70P74	60-47	30	×	19			新築
70P75	60-46	33	×	30			新築
70P76	60-46	29	×	27			新築
70P77	60-46	30	×	29			新築
70P78	60-46	25	×	19			新築
70P79	60-46	24	×	22			新築
70P80	60-47	16	×	12			新築
70P81	60-47	18	×	17			新築
70P82	60-47	16	×	13			新築
70P83	60-47	21	×	19			新築
70P84	60-47	21	×	20			新築
70P85	60-47	17	×	18			新築
70P86	60-47	32	×	28			新築
70P87	60-47	25	×	23			新築

2 北区

番号	グリッド	長さ	×	短径	深さ (cm)	底面標高 (m)	その他
70P88	60-47	17	×	16			新規
70P89	59-48	24	×	24			新規
70P90	61-48	36	×	34			新規
70P91	61-48	32	×	34			新規
70P92	62-48	21	×	16			新規
70P93	62-48	15	×	14			新規
70P94	62-48	23	×	19			新規
70P95	61-49	25	×	23			新規
70P96	61-49	15	×	16			新規
70P97	61-49	16	×	14			新規
70P98	60-49	16	×	15			新規
70P99	61-49	16	×	12			新規
70P100	61-48	21	×	16			新規
70P101	62-48	17	×	16			新規
70P102	60-47	12	×	12			新規
70P103	60-47	14	×	14			新規
70P104	60-47	11	×	11			新規
70P105	60-47	15	×	15			新規
70P106	59-47	15	×	13			新規
70P107	63-47	40	×	28			新規
70P108	62-47	30	×	29			新規
70P109	62-45	24	×	19			新規
70P110	62-45	59	×	53			新規
70P111	61-47	40	×	20			新規
70P112	61-47	18	×	16			新規
70P113	60-48	49	×	44			新規
70P114	60-48	33	×	30			新規
70P115	60-48	22	×	21			新規
70P116	62-47	22	×	15			新規
70P117	62-47	21	×	11			新規
70P118	62-47	27	×	25			新規
70P119	62-47	23	×	21			新規
70P120	62-45	28	×	27			新規
70P121	61-46	26	×	25			新規
70P122	60-47	21	×	15			新規
70P123	60-46	18	×	16			新規
70P124	61-46	30	×	18			新規
70P125	60-46	18	×	15			新規
70P126	61-47	30	×	25			新規
70P127	61-47	24	×	21			新規
70P128	59-48	25	×	19			新規
70P129	61-46	24	×	20			新規
70P130	59-47	25	×	24			新規
70P131	59-47	14	×	14			新規
70P132	62-47	31	×	27			新規
70P133	63-45	30	×	13			新規
70P134	64-43	26	×	25			新規
70P135	64-43	35	×	24			新規
56P255	72-49	87	×	63			
56P257	72-49	69	×	50			
70SK1	64-45	78	×	78			新規
70SK2	63-45	98	×	84			新規
70SK3	63-45	35	×	27			新規
70SK5	62-46	250	×	80			新規
70SK6	62-45	57	×	39			新規
70SK7	64-45	79	×	75			新規
70SK8	62-47	49	×	49			新規
70SK9	62-46	55	×	54			新規
70SK10	60-46	57	×	56			新規
70SK11	60-46	187	×	114			新規
70SK12	59-48	199	×	113			新規
70SK13	60-49	112	×	52			新規
70SK14	70-48	79	×	70			新規
70SK15	70-48	89	×	79			新規
70SK16	72-48	61	×	35			新規
70SK17	71-50	88	×	83			新規
70SK18	68-48	85	×	57			新規
70SK19	71-48	75	×	74			新規
70SK20	68-48	65	×	62	54.3	27.1	トイレ状土坑
70SK21	68-49	79	×	68			新規
70SK22	67-47	94	×	82	280.9	24.7	トイレ状土坑
70SK23	67-47	71	×	68			新規
70SK24	67-47	86	×	82	62.6	37.0	トイレ状土坑
70SK25	68-46	91	×	91			新規
70SK26	67-46	71	×	72			新規
70SK27	68-46	92	×	80			新規
70SK28	67-49	82	×	74			新規
70SK29	68-49	66	×	53			新規
70SK30	64-48	151	×	145			新規
70SK31	64-43	65	×	58			新規
70SK32	62-47	61	×	46			新規
70SK33	62-48	50	×	46			新規
70SK34	60-48	82	×	67			新規
70SK35	60-48	107	×	59			新規
56SK40	67-49	90	×	82	125	27.6	
56SK52	72-50	118	×	112	17.1	27.3	
56SK60	71-51	100	×	74			

圖 版



南区調査区全景1



南区調査区全景2



南区調査区全景3



調査状況

南区遺構検出状況1



南区遺構検出状況2



南区遺構検出状況3



21SD2 断面1
(a-bライン)



21SD2 断面2
(a-bライン拡大)



21SD2 断面3
(d-cライン)



69SX3 断面1
(m-nライン)



69SX3 断面2
(d-cライン
m-nライン)



21SX4 敷葺検出状況



整地層断面
(q-ライン)



地山高まり状況



21SX3 断面
(o-pライン)





北区調査区全景1



北区調査区全景2

70SE1 断面



70SE1 完掘



70SE3 断面



70SE3 完掘



70SK22 断面



70SK22 完掘



70SK20 断面状況



70SK24 断面状況



56SK40 断面状況



56SK52 断面状況

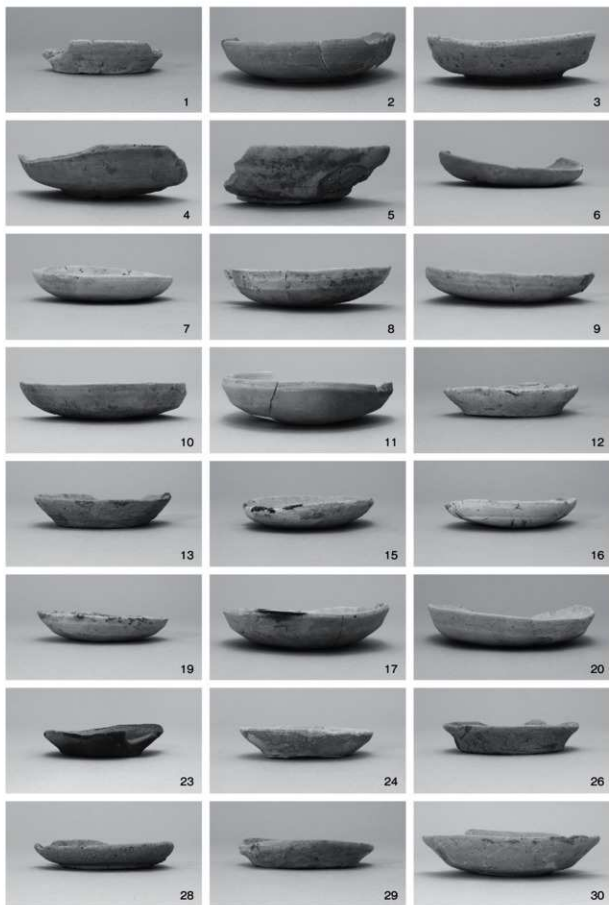


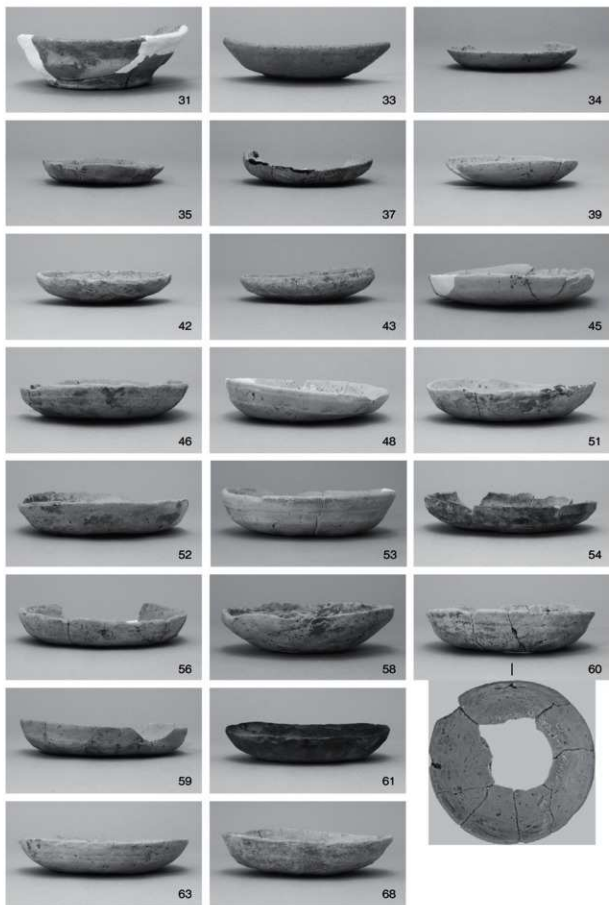
70SX1 検出状況



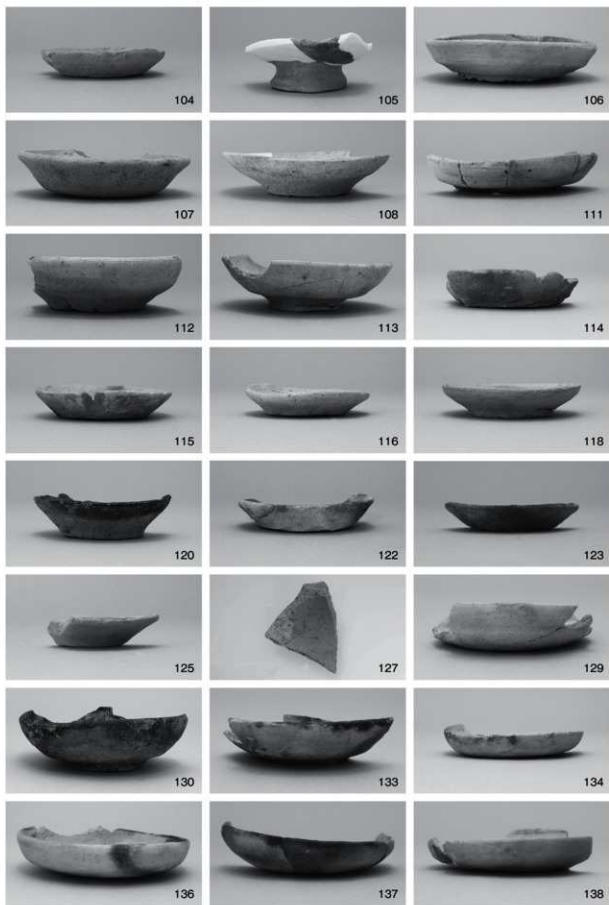
70SX1 遺物出土状況

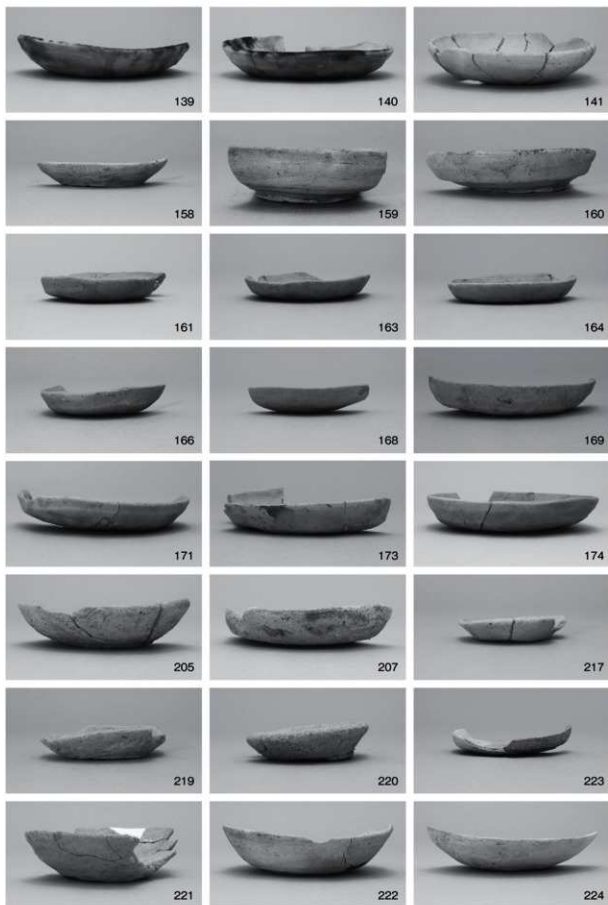


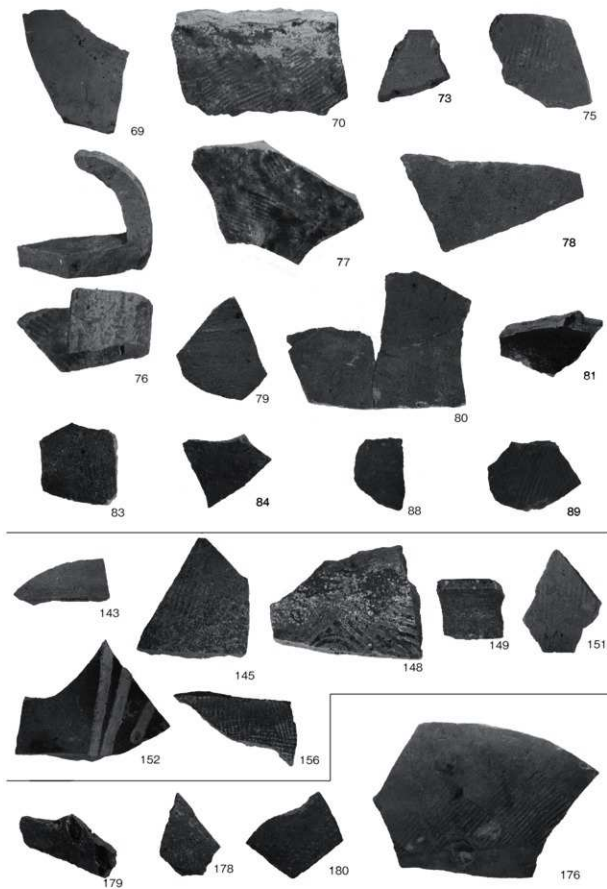


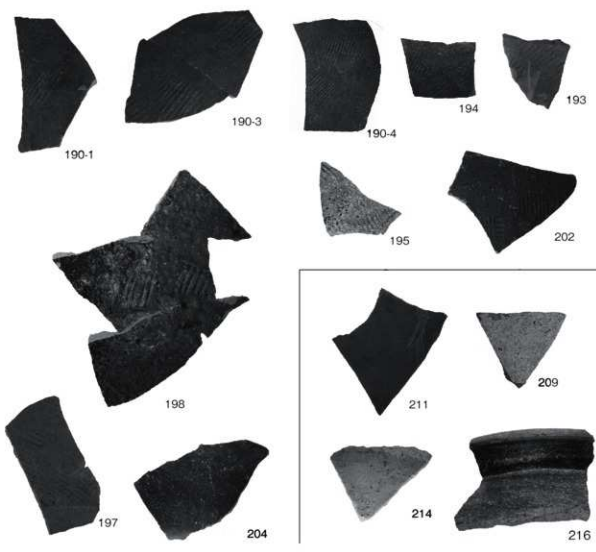
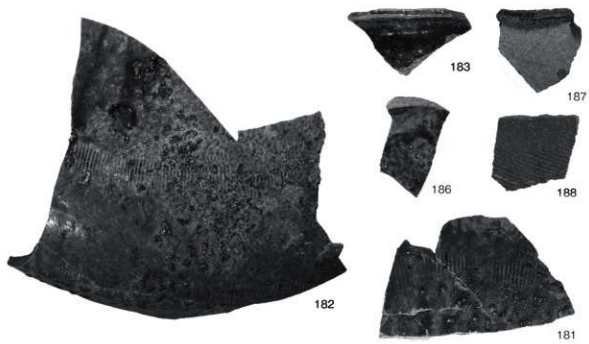


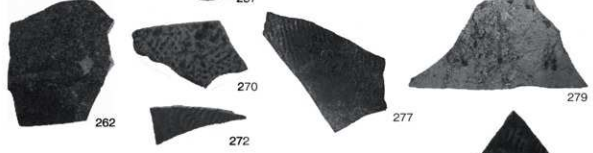
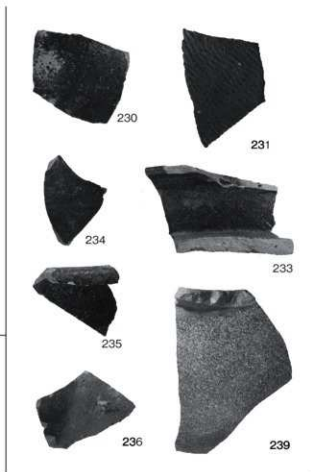
かわらけ②

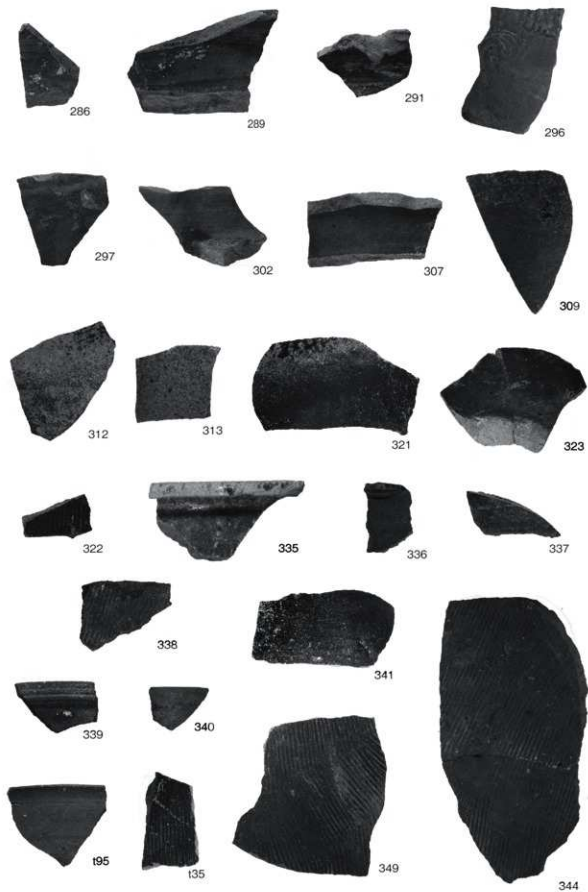


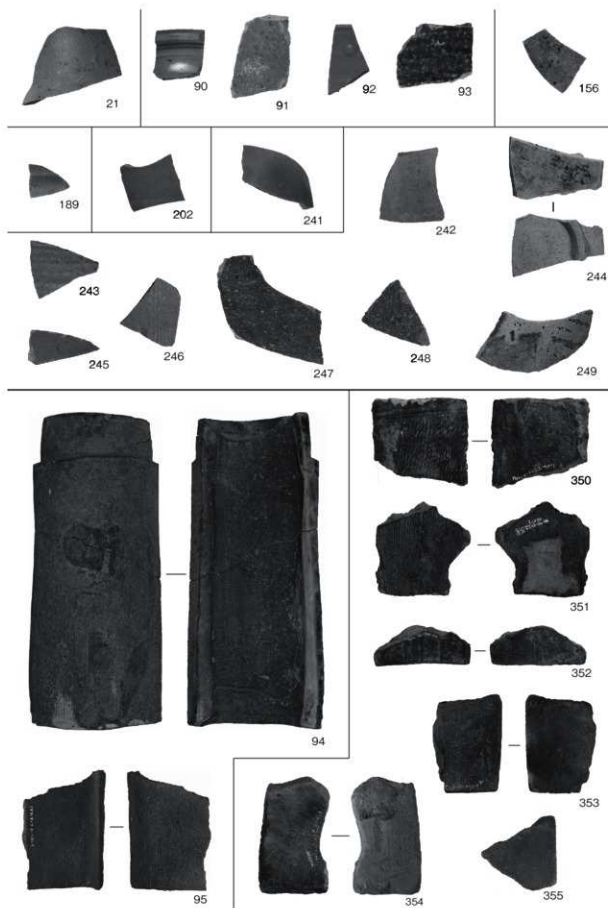








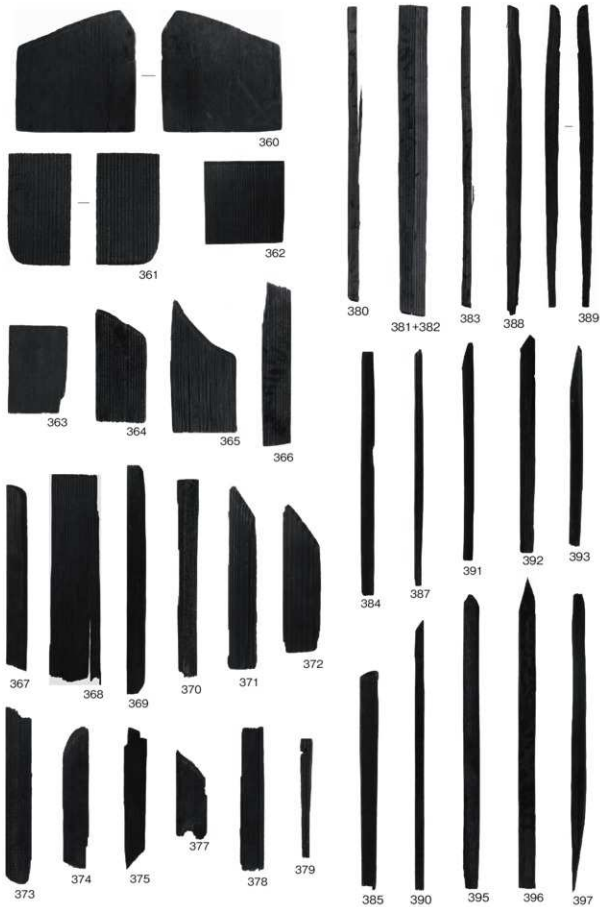


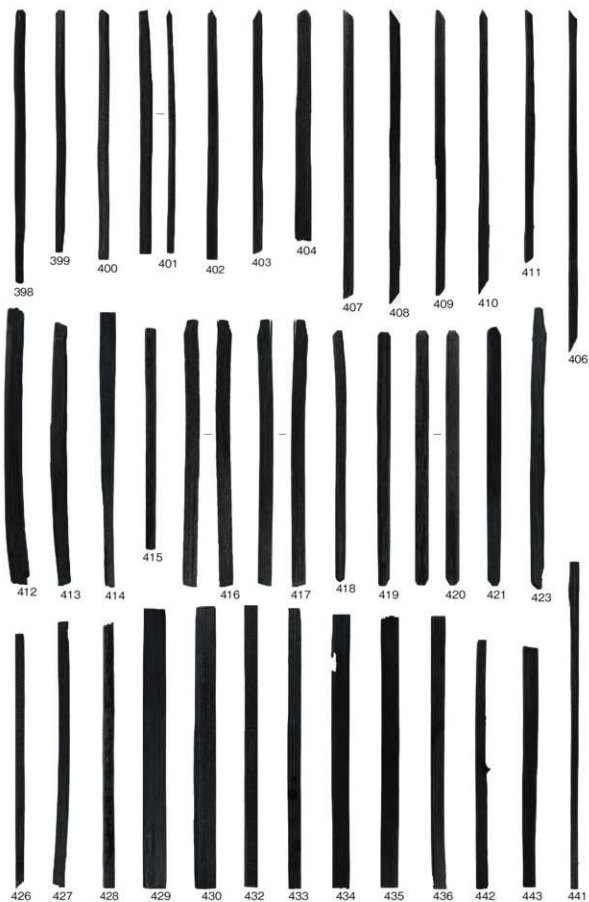


輸入陶磁器・瓦



木製品①







木製品④

報告書抄録

ふりがな	ひらいずみいせきぐんはくつちょうさほうくしょ やなぎのごしよいせき							
書名	平泉遺跡群発掘調査報告書 柳之御所遺跡							
副書名	第70次発掘調査概報							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化財調査報告書							
シリーズ番号	第133集							
編著者名	櫻井友幹 村田 淳 岩瀧 計							
編集機関	岩手県教育委員会							
所在地	〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1							
発行年月日	西暦 2011年3月29日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
柳之御所遺跡	岩手県西磐井郡平泉町平泉字柳御所地内	03402	NE76-0190	38度59分28秒	141度7分35秒	2009.05.07 ～ 2009.10.31	1,500㎡	史跡整備に向けた内容確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
柳之御所遺跡	居館跡	平安時代	南区 堀跡 1条 大溝跡 2条 塼跡 1基 北区 井戸跡 3基 土坑(トイレ状を含む) 38基 柱穴 137基	かわらけ 国産陶器(渥美・常滑など) 中国産陶磁器(白磁・中国陶器)木製品など	内側の堀跡(21SD1)と外側の堀跡(21SD2)には相対的な時期差がある。トイレ状土坑が分布する範囲を確認でき、その範囲での井戸跡との時間的な関係を把握できた。			
要約	柳之御所遺跡第70次調査の概報である。遺跡南端部では2条の堀跡が時間差をもって存在したことが69次調査で確認できていたが、今回の調査で外側の堀跡の規模を明確にすることができた。また、堀跡の廃絶時と考えられる廃棄土坑の範囲を把握することができたほか、外側の堀のさらに外に溝跡が伸びることとその走向を把握することができた。堀内部地区の北端部分では、これまで確認されていたトイレ状土坑の分布範囲を把握することができた。また、これまで未調査の範囲での遺構の分布状況や、後世の削平等の影響を把握することができた。今回の調査は、これまで未調査だった範囲を中心に、遺構の状況を把握することができ、柳之御所遺跡全体の空間利用などを検討するうえで重要な成果となった。							

岩手県文化財調査報告書 第133集
平泉遺跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

－第70次発掘調査概報－

印刷日 平成23年 3月29日

発行日 平成23年 3月29日

発行 岩手県教育委員会生涯学習文化課
〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1
電話 (019) 629-6171 (代表)

印刷 株式会社 光文社
〒020-0106 岩手県盛岡市東松園三丁目12番地1
電話 (019) 661-3441 (代表)

Yanaginogosho Site

The 70th Excavation Report of the Local Government Office in Hiraizumi of the 12th Century



2011

Iwate Board of Education , JAPAN